

# 早稲田 EWE 56

## 電気工学会会報



2015-Mar.

<http://www.ewe.or.jp/>

## 2015年度通常総会開催通知

早稲田電気工学会  
会長 竹田 義行

拝啓、時下益々ご清栄の段お慶び申し上げます。

さて、標記通常総会を下記の通り開催致しますので、万障お繰り合わせの上、会員お誘い合わせてご出席いただき、EWEの運営・活動などについてご意見を賜りたくお願い申し上げます。

敬具

### 記

1. 日 時 2015年5月15日(金) 午後18時～19時
2. 場 所 早大西早稲田キャンパス55号館2階 第4会議室
3. 議 題 (1) 2014年度事業経過報告および決算  
(2) 2015年度事業計画および予算  
(3) その他
4. 懇親会 早大西早稲田キャンパス55号館2階  
竹内ラウンジ
5. 懇親会費 3,000円

出席の方は、2015年4月末までにご連絡くださるようお願いいたします。

以上

〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1  
早稲田大学西早稲田キャンパス内  
早稲田電気工学会 事務局  
電話/FAX : 03-3232-9768 (直通)  
E-mail : jimukyoku@ewe.or.jp  
URL : <http://www.ewe.or.jp/>

## もくじ

○巻頭言「縦糸と横糸」	EWE会長 竹田 義行	3
○講演「私はこうしてアプリックスを起業した」	アプリックスIPホールディングス代表取締役 郡山 龍	5
「2020年東京オリンピック スーパーハイビジョンへの道程」	日本放送協会理事・技師長 浜田 泰人	11
○退任に際して		17
	電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻教授 加藤 勇	
	電子光システム学科／電子光システム学専攻教授 齊藤 良行	
	電子光システム学科／電子光システム学専攻教授 松本 充司	
	情報生産システム研究科／電子光システム学専攻教授 後藤 敏	
○追悼 内山明彦先生を偲んで	東京都市大学工学部医用工学科 京相 雅樹	25
○教員の横顔「情報理工学科」		27
○若手OBの活躍「好きを継続すること、研究職について」	米国ライス大学コンピュータサイエンス学科研究員 白子 準	30
○修士課程修了にあたって		32
	電気・情報生命専攻 原田 賢 (井上真郷研究室)	
	情報理工学専攻 後藤 隆志 (笠原研究室)	
	ナノ理工学専攻 明道 三穂 (川原田研究室)	
○地方本部だより		35
	九州地方本部／北海道地方本部／東海地方本部／東北地方本部／ 中国地方本部／関西地方本部	
○クラス会だより		42
	電気通信学科1947年(昭22)卒、電気通信学科1948年(昭23)卒 電気通信学科1951年(昭26)卒、電気通信学科1952年(昭27)卒 電気工学科1953年(昭28)卒、電気工学科1958年(昭33)卒 電気工学科1962年(昭37)卒	
○学生支援基金報告「ものづくりサークル WITSの今年度活動について」		49
○先輩訪問「NTTドコモを訪ねて」		50
○EWE活性化委員会2014年度活動報告		52
○EWE三月会2014年度活動報告		53
○学生会報告「研究室対抗ソフトボール大会に寄せて」		54
○2014年度修士論文一覧		55
○2014年度学部卒業生一覧		67
○2014年度博士号取得者一覧		72
○受賞・褒章		73
○2014年度就職状況		77
	電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻教授 牧本 俊樹 情報理工学科／情報理工学専攻教授 高畑 文雄、菅原 俊治、石川 博 電子光システム学科／電子光システム学専攻教授 柳澤 政生	
○2014年度就職先一覧		83
○2014年度評議員委嘱状況		87
○2014年度終身会費納入者、寄付者一覧		90
○逝去者一覧		91
○編集後記		93

## 巻頭言

### 縦糸と横糸

早稲田電気工学会会長 竹田 義行



毎年EWE総会では早稲田電気工学会のエンジ色の旗が掲げられます。当然、織物ですから縦糸と横糸で織られています。EWEの縦糸と横糸とは何でしょうか。まず太い縦糸は卒業学科、古くは電気工学科と電子通信学科、現在は、基幹理工学部情報理工学科、情報通信学科、電子物理システム学科、先進理工学部電気・情報生命工学科の4学科になります。横糸は卒業年次ということで毎年新しい糸が加えられ102本から織られています。母校校歌の歌詞に「集まり散じて人は変われど」とありますように最初の糸は古くなり綻びが出てくるかもしれませんが、新しい糸で新陳代謝が行われそのエンジ色は褪せないようになっていきます。

EWEにはこの織物を強化するため、EWE規則に地方本部、職域支部、学生部会が設置されています。地方本部と職域支部は卒業して就職した企業が主体となる活動なので、なかなか集まるのが困難な事情や、昨今、職場内での学閥活動が敬遠される風潮もありますが、社会人スポーツでは出身企業を応援し、学生スポーツは母校を応援するのが常でありますので自ら萎縮することなく堂々と活動してはいかがでしょうか。

EWE規則上、重要な役割を担っているのが評議員の皆さんです。第19条第3項に「評議員はそれぞれの同級生の消息を把握する。」と規定されています。同級生の人数が多く、また、卒業後の異動をフォローすることは事実上極めて困難ですが、その横糸の意識だけは持っていたいただければとお願いいたします。

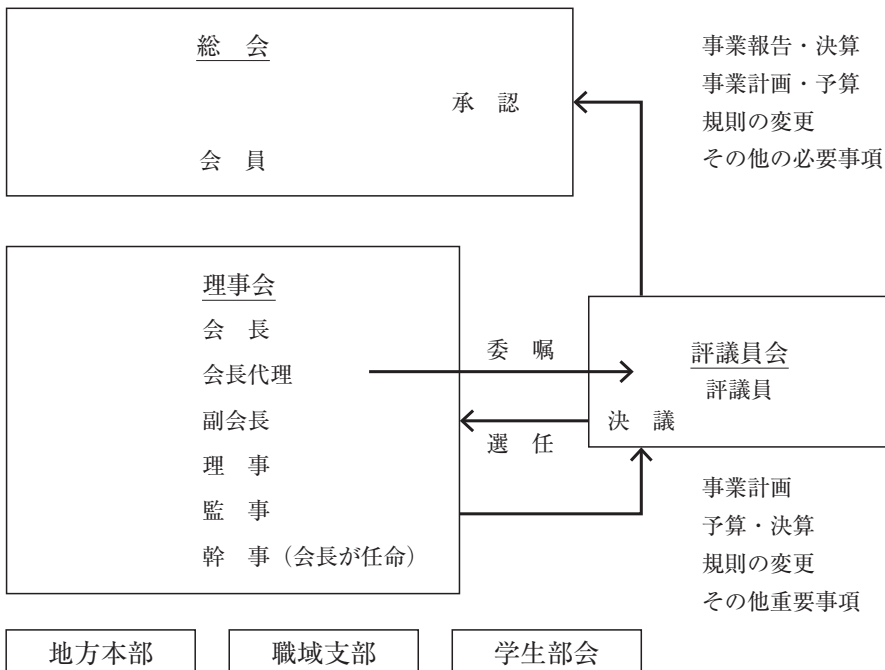
EWE規則に規定がありませんが、研究室単位のOB会も重要な役割を持っています。早稲田大学は講座制でないので教授の退任で現役学生との糸がとぎれるということはありますが、退職をされた元気なOBの皆様方にEWEのためひとりはだ脱いでいただければと思います。

EWE規則がつくられてから102年間で何が変わったのでしょうか？

規則は基本的に変わっていません。大きく変わったのはコミュニケーションのツールです。以前は、早稲田電気工学会名簿の発行ということが大きな事業であったのですが、個人情報保護法の施行もあり、もう、名簿発行の役割はなくなったといってもよいでしょう。個人の自宅のメールアドレスか携帯電話の番号・メールアドレスがあれば連絡には支障がありません。学生間の連絡はほぼLINEが使われていますので携帯電話は生活必需品です。

EWE活性化委員の皆様方を中心に、メールアドレスの収集、ウェブニュースの発行、WEBの充実等が進められ相当近代化が図られましたが、EWE会員が新しい情報通信ツールを使いこなせないはずはありません。是非、EWEの組織に血流を通わせるよう会員の皆様のご理解とご努力をお願いいたします。これは、EWEの活性化だけではなく、必ずや皆さんの日常生活を豊かで楽しいものに変えること間違いありません。縦糸と横糸を密着する見えない蜘蛛糸（WEB）がエンジ色の旗を強く結びつけるでしょう。

## 早稲田電気工学会組織



## 講演

—2014年11月7日EWE講演より—

# 私はこうしてアプリックスを起業した

アプリックスIPホールディングス 代表取締役  
郡山 龍



## 1. 略歴

早稲田大学理工学部4年生時（1986年）、株式会社アプリックスを起業

同年、米国マイクロソフト入社

1989年、同社退社後、アプリックスを再起動

現在、アプリックスIPホールディングス株式会社代表取締役 兼 取締役社長。株式会社アプリックス代表取締役 兼 取締役社長。その他、アプリックスグループ各社の役員を勤める。

## 2. 講演概要

### 2.0 はじめに

19世紀初頭、フランスの著名な数学者であり経済学者でもあるジョセフ・ベルトランは「競争市場においては、価格は限界費用まで下落する」という経済学の理論を発表した。21世紀に入り、生産技術の成熟化と拡散により、誰でも安く大量に品質の高い製品を作ることが可能となり、さらにインターネットの普及により市場はグローバル化し、競争が一段と激しくなった。その結果、ベルトランの理論通り、ソフトウェアは無料になり、ハードウェアの利益は限りなくゼロに近づき、産業革命以来の「物売って儲ける」というビジネスモデルが崩壊しつつある。

しかし、今、アプリックスは、M2M関連のソフトウェアの技術とM2M関連のハードウェアの技術を組み合わせた「IoT (Internet of Things) を実現する技術」を競争力の源泉にし、「機器からの通知 (Beacon) を起点とし、人々の生活を豊

かにする情報を提供するサービスによって収益を上げる」という新しいビジネスモデルの実現を目指している。私が早稲田大学4年生の時に立ち上げた「アプリックス」の歴史を振り返りながら、ソフトウェアが無料になる時代を生き抜く新たなビジネスモデルを編み出した背景などを含め紹介する。

## 2.1 起業、そして米国マイクロソフト社への入社



郡山龍

アプリックスを起業したのは1986年。マイコンブームの時流に乗って、プログラミングが得意だったことを活かし、学生ベンチャーとして大手企業からソフトウェア開発の受注をしていた。

プログラミングには幼い頃から親しんでおり、小学校6年生の時には、秋葉原のパーツ屋で部品を購入し、独学により初めて自分でPCを製作した。「コンピュータ制御することで、あらゆるモノに魂を吹き込むことができる」プログラミングの面白さに没頭していた。

当時、マイクロソフト日本法人の初代社長の古川亨氏に誘われたことをきっかけに、大学在学中に同社に入社した。翌年春、大学に退学届を出すと、今度は米国マイクロソフト本社で日本・韓国・中国・台湾に向け「OS/2」のプロダクトマネージャーになり、創業者のビル・ゲイツ氏の下、OSの開発や各種パソコンへの移植を手がけた。同社がWindowsに経営資源を集中する以前は、OS/2こそが本命の次世代OSとされていた。ところがある時、開発者として会社の営業方針と相容れないことがあったことをきっかけに同社を退社。帰国して転職しようにも“Competitive Restriction”のために同業界には就職できず、休眠させていた「アプリックスを再起動」することになった。



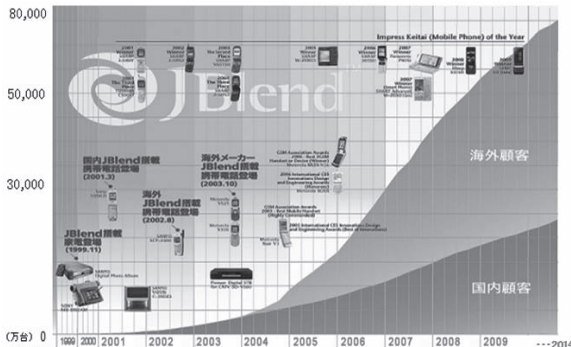
再び自らアプリックスを起動し始めるも、はじめはこの会社からも相手にさ

れず苦勞した。前述の古川氏の紹介で、ソフトバンクの孫社長の「家庭教師」をしたこともあった。孫氏が抱くビジネス構想に対し、技術的に問題点があるかどうか、どうやったら実現可能なのかなど、技術屋としてコンサルティングをする業務で、週1時間、時給25万円、当時の会社のランニングコストをまかなうには十分だった。

## 2.2 Javaテクノロジーの開発を契機に成長

会社が大きく飛躍するきっかけとなったのは、1990年に発売した「CD Writer」と、1997年に発表した家電用Javaのテクノロジーを使った「JBlend」だった。「CD Writer」は、フロッピーディスクが主流だった当時、音楽や映像をはじめとしたマルチメディアコンテンツや大規模なソフトウェアなどの大容量のデータをCD-ROMに書き込むことができる画期的な技術として注目され、短期間のうちに会社を潤してくれた。

「技術で勝負したい」、その本質的な部分では他社と差をつけられる自信があった。但し、技術で勝負するには「蓄積」が必要だ。5年、10年先を見越す「先見の明」、同時にそれを「持続」させ、マーケットが立ち上がった時には「独走態勢」に持っていけることが理想だろう。



「CD Writer」に次いで会社を大きく成長させたきっかけとなった「JBlend」だが、この製品を発表した時期（1997年）と携帯電話の普及が、時を同じくしたことはまったく幸運だったと思う。はじめこそ、どこ

の会社からも相手にされなかったものの、国内の2番手、3番手のメーカーが徐々に我々のソフトウェアを採用してくれるようになった。さらに米国モトローラ社に採用されたことで評判が確実なものとなり、最終的には国内メーカーのほぼすべてが当社の技術を採



用するに至り、全世界で累計8億台を超える携帯電話などに我々のソフトウェアが実装されている。「JBlend」は、当社の主力製品となり、2003年、東京証券取引所マザーズ市場に上場できた直接の原動力となった。



### 2.3 ガラパゴス化した日本の携帯電話メーカー

「JBlend」製品の提供をきっかけに日本メーカーの方々と接する機会が多くなった。当時、日本の携帯電話は技術的に世界でも最先端を誇っていただろう。日本で携帯電話が売れに売れた全盛期だったが、一方で私は「日本のメーカーは衰退していくのではないか」と感じざるを得なかった。それはなぜか。

当時ヨーロッパで主流の携帯電話は、日本のもののように高度に機能が発達したのではなく、シンプルな端末。日本のメーカーは「何世代か前の携帯電話では儲からない、商売をやる気がしない」とまったく取り合わず、海外に売り込むことを諦めてしまっていた。

### 2.4 アジアのメーカーの台頭

アジアメーカーの台頭を強く感じる、転換点となった出来事がある。私自身がヨーロッパに営業に出向いていた2004年頃のこと。アイントホーフェンというオランダのフィリップス社の本拠地とはいえ片田舎の空港で飛行機を待っていた。その待合室で、東洋系のスーツを着た若い女性が一人でいるのが目に入った。彼女が抱えていたPCのケースには「SAMSUNG」のエンボス。恐らくフィールドエンジニアだろう。その光景を目の当たりにした時に「あだからSAMSUNGは強いんだな」と思った。当時日本のメーカーは、どの企業もヨーロッパには営業に来ておらず、逆に日本で儲かっていたが故にヨーロッパから撤退していた。その後、欧州市場にSAMSUNGが入り込んでいったのである。

ただ昨今は、SAMSUNGの行く先も見えにくくなっている。みるみる落ちて

いってしまうのか、メーカーとして生き残っていくのか。マニファクチャラーとして成り立つかどうかの試金石として、私自身も興味深く見ている。同社が成功すれば、それは日本メーカーの怠惰を示すことになるだろうし、成功しなければ、そもそも、電子電気機器は先進国ではビジネスとして成り立たないことを示すことになるのではないかと。今、その答えを知る術はなくても、我々日本人がこれから考えていかなければならないことの一つではないかと考える。

## 2.5 我々アプリックスが目指すビジネス



我々はもともとソフトウェア企業だが、現在は時代に逆行してハードを売っている。アプリックスは今、低価格のBluetooth® Low Energyモジュールを活用する多種多様なソリューションをハイペースで生み出し続けている。Bluetoothモジュールが発する情報をスマートフォンが受け取る。このシンプルな機能から、様々なソリューションを生み出し、あらゆるデバイスがネットにつながる「IoT時代のビジネスモデルを確立」しようとしている。我々が目指すのは、5千円以下の軽家電（ジェネリック家電）をネットワークにつなげる「IoTでビジネス」を主戦場とすることだ。

個々の製品に入っている基板を、我々のモジュールで乗っ取り（パラサイトし）、インテリジェントではなかった軽家電をBluetoothでスマートフォンとつなげることで、様々なサービスをお客様に提供することを目指している。

アプリックスでは、独自にSOC (System-on-a-Chip) をデザインしている。チップにはBluetooth Low Energyを採用し、ボタン電池一つで数年間動くなど、動力が少なく済むこと、ほぼすべてのスマートフォンに搭載されていること、また一番の特長として簡単に使えるためだ。またアプリックスは、マサチューセッツ工科大学 (MIT) の卒業生により設立された携帯電話用ゲームコントローラの最大手であるZeemote Technology Inc.を2009年にグループ傘下とすることで、「ソフトウェア屋から見たハードウェア作り」を行っている。

世界的なBluetoothチップベンダーとしては、Broadcom、CSR、Nordic Semiconductor、TIなど、モジュールベンダーとしては、Microchip Technology、ISC、村田製作所などの大手企業が軒を揃える中で、なぜ自社のチップ作りにこだわるのか。そ

の答えはJavaのライセンスを買って製品作りをしていた時の経験があるためだ。

当時、Javaのライセンスを米国Sun Microsystemsから買って製品を作っていた。それが儲かると見るや、他社も同様にライセンスを買って製品を作り出し、さらにSun Microsystemsまでも直販を始めた。この経験が、自分たちで半導体を作ろうと考えるきっかけとなった。半導体作りに乗り出したのは2010年頃からで、折しも半導体事業を撤退した大手メーカーから優秀な人材を採用することができ、当時、採用したエンジニアたちが、現在、当社の第一線で活躍している。

## 2.6 「良いソフトウェアの作り方」

最後に、米国アップル製パソコンに搭載されたOS「Mac OS X」の前身となる「NeXT STEP」のソフト開発に着手し、シリコンバレーで故スティーブ・ジョブズ氏からじきじきにプログラム開発の指導を受けた縁で、彼に教わった「良いソフトウェアの作り方」を紹介したい。

CPUの処理能力はどれだけ技術が進んだとしても限られてしまうだろう。では、より多くのプロセスを処理するに肝心なことは何か。それは、いかに人を待たせるかにかかっている。だから待ち時間に砂時計を出したり、アイコンを回転させたり、人を待たせれば待たせるほど（但し、待っていると感じさせない工夫が大事）良いソフトウェアができるという。

つまりテクノロジーの問題というよりは、人間工学の問題であり、ユーザーが使っていて気持ちが良いもの、楽しいものであることが重要だということだ。

「歴史を振り返ると、より多くの人々の生活を豊かにしたものが、より多くの富を得る」。ソフトウェアにできることは情報を扱うこと。より多くの人々に必要な情報を届けることで、人々の生活を豊かにする。ソフトウェアは無料になっていく。それなら、ハードウェアを無料で配り、ソフトウェアを組み合わせたソリューションを生み出そう。そのソリューションが人々の生活を豊かにするものであれば、お金を稼げるはずだ。

私自身の父が日本のメーカー出身だったこともあり、その盛衰を見てきた。今こそ再び、我々日本企業が、日本のテクノロジーを世界に見せていけるような「ものづくり」を実践していきたい。

# 講演

—2014年12月5日EWE講演より—

## 2020年東京オリンピック スーパーハイビジョンへの道程

日本放送協会 理事・技師長

浜田 泰人



### 1. 略歴

- 1980年 理工学部電子通信学科卒
- 同 年 日本放送協会入局
- 1985年 技術本部
- 2009年 技術局送受信技術センター長
- 2012年 技術局長
- 2014年 理事・技師長

### 2. オリンピックと放送

オリンピックと放送はとりわけ深い関係にあり、オリンピックが開催されるたびに新しいことにチャレンジしてきました。本日、前半はオリンピックと放送の歴史を振り返り、後半で2020年東京五輪へ向けたNHKの8Kスーパーハイビジョンとハイブリッドキャストの取り組みについてお話しします。

#### 2.1 ラジオとテレビの始まり

最初のラジオ時代には、実際の会場に来られない方にも感動を伝えられないだろうかということで放送が進歩してきました。ラジオ放送は1920年にアメリカで開始され、日本では1925年より始まりましたので、来年開局90年を迎えるメディアです。関東大震災があり、正確な情報を国民の皆様へ配信する必要性も高まりました。テレビは、最初は機械式テレビジョンということで、代表的なニプコー円盤は丸い穴の空いた円板をぐるぐる回して、そこから通ってくる光を検知して動画として再現するものが主流でした。日本では当時、高柳先生がブラウン管を使ってイロハの「イ」の字を伝送したことで有名ですが、早稲田大学でも川原田先生が早稲田式のテレビを開発され、NHKの朝ドラでも川原田先生をモデルとして1990年に「凜凜<sup>りんりん</sup>」が放映されました。



図1 放送技術とオリンピックの歴史



図2 NHK技研設立

NHK技研の設立はラジオ放送開始のわずか5年後の1930年で、テレビ放送の研究をスタートさせました。1936年IOCが、後に幻となる1940年東京大会を決定しました。当時のテレビ研究は、浜松高等専門学校の高柳健次郎教授ほか10数名を技研に迎え入れ、体制を強化しました。1938年には、ドイツの倍以上の走査線441本、毎秒25枚というテレビジョン方式を決定し、4台で1セットのテレビ自動車など、設備も次々開発しました。しかし、日中戦争が広がり、オリンピックスタジアム建設か駆逐艦一隻かの議論の中で、東京大会はとうとう返上となりました。一方、テレビの研究は続けられ、1939年内幸町の新放送会館へ技研から試験電波が発射され、1950年には実験放送も始まりました。そして1953年、NHKと日本テレビで白黒テレビ放送が開始されました。日本のカラー放送開始は1960年、アメリカとキューバに次いで3番目でした。これは両立性をもったNTSC方式で、白黒テレビ受信機でもカラー放送の内容を視聴できる、完全に互換性のある方式でした。

## 2.2 1964年東京オリンピックと放送

1940年の幻のオリンピックから24年、アジアで初のオリンピックが1964年に東京で開催されました。五輪初のカラーテレビジョン放送や国際衛星中継など、技術の進歩には目覚ましいものがありました。テレビ中継放送は、開・閉会式、レスリング、バレーボール、体操、柔道など146時間、1日平均10時間でしたが、実はカラー放送は32時間しかありませんでした。開会式前日のリハーサルは雨で、カラーカメラは照度不足のため聖火の炎が尾を引いて心配しましたが、当日は幸運なことに抜けるような青空で、カラー画質も上々でした。

東京オリンピックでは、初のマラソン完全中継、スローモーションVTR、接話マイク、衛星中継など、新しい技術が一斉に登場しました。今では当たり前ですが、NHKはホスト・ブロードキャスターとして世界で初めて「国際映像」を

制作し、これに各国がコメントをつける方式が確立され、その後の大会の標準となりました。東京オリンピックは、日本の放送技術の高さを世界に示すとともに、テレビ産業が飛躍するきっかけとなりました。

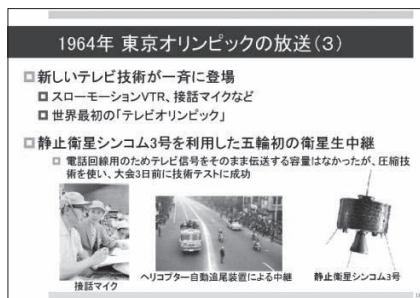


図3 東京オリンピックと放送



図4 ハイビジョン研究のはじまり

## 2.3 ハイビジョンとオリンピック

そのような中、まだカラー放送が始まったところで、NHKは次世代のテレビとしてハイビジョン（HDTV）と衛星放送の研究開発に着手しました。ハイビジョンは、現行テレビに比べて高精細という物理特性だけでなく、視覚特性と心理効果を研究し、「臨場感」をキーワードにして、望ましい画面の大きさ、走査線1,125本や横長の縦横比などを決めました。1984年のロサンゼルス・オリンピックでは、カメラ1台とVTR 1台を持ち込んで初の五輪ロケをしました。1985年には筑波万博で展示を行い、これに合わせて「ハイビジョン」と命名しました。

1988年のソウルオリンピックでは、中継車2台とカメラ5台を持ち込んで17日間連続ハイビジョン実験放送をしました。1989年にはアナログBSハイビジョン定時実験放送を開始し、1994年にはNHKと民放7社が時分割免許を受け、ハイビジョン実用化試験放送を開始しました。1998年の長野オリンピックでは、42インチのPDPテレビが発売されました。2000年にはハイビジョンの総走査線数が1,125本に世界統一され、12月にはBSデジタル放送が開始されてハイビジョンの本格放送が普及します。2008年の北京五輪では、国際映像がすべてハイビジョン信号になり、音声についても5.1chサラウンドで、ネットによるライブ・ストリーミングやオンデマンド動画の配信も行われました。

このように、スタジアムでしか見られなかったオリンピックが、放送によりスタジアムの外へ感動を広げました。オリンピックが放送を必要としたとともに、放送はオリンピックの場を使って発展してきたとも言えます。

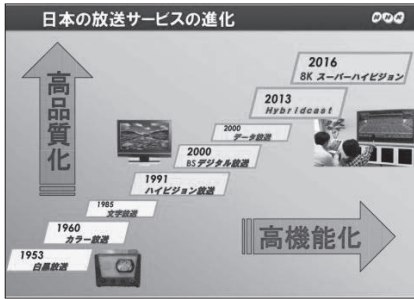


図5 放送サービスの進化

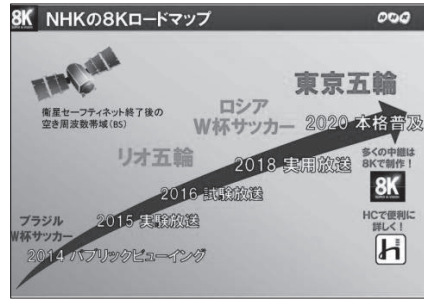


図6 8Kロードマップ

### 3. 放送サービスの進化

次に、日本の放送サービスの進化の歴史を改めて整理してみます。放送サービスは、大きな2つの軸で進化してきました。ひとつは、高品質化です。白黒放送にはじまり、カラー、ハイビジョン、デジタル放送、そして8Kスーパーハイビジョンへと、放送はよりきれいに、より高い臨場感のあるものに進化しています。もうひとつは、高機能化です。文字放送、データ放送、EPG（電子番組表）、ハイブリッドキャストへと、放送はより便利で多様なニーズに対応したメディアに進化しています。

#### 3.1 8Kスーパーハイビジョン

今年、総務省において「4K・8Kロードマップに関するフォローアップ会合」が開催され、2016年にセーフティネット終了後のBSの空き周波数帯域で、4K・8Kの試験放送を開始することと、2018年までに実用放送を開始することがロードマップに明記されました。そして東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に4K・8K放送が普及し、多くの視聴者が市販のテレビで4K・8K番組を楽しんでいるようになることが目標になっています。NHKはこのロードマップにしたがって、2016年に8Kスーパーハイビジョンの試験放送を開始し、2018年までの実用放送、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に本格普及を目指し、準備を進めています。

8Kスーパーハイビジョンの高品質化の大きな特徴は3つあります。ひとつは、“モアピクセル”映像の高解像度化です。2つ目は、“ベターピクセル”映像の広色域化です。3つ目は、“ファスターピクセル”映像の高フレームレート化です。“モアピクセル”については、視聴者が画面を見込む角度“視角”と臨場感の関係を調べたところ、臨場感は視角がほぼ100°で飽和することがわかり、視力1.0の人が画素構造を検知できないようにするには、水平方向の画素数を約

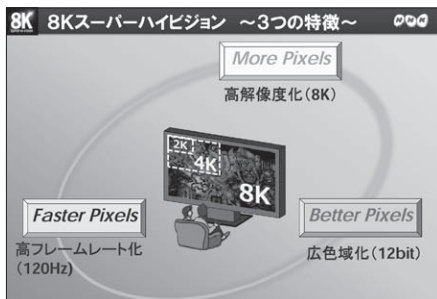


図7 8Kの3つの特徴

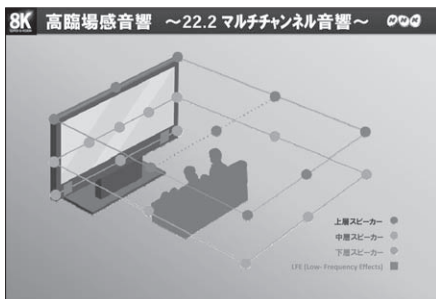


図8 22.2マルチチャンネル音響

8,000にする必要のあることが導き出されました。人間の視覚特性から、8Kは究極の2次元テレビであり、2次元テレビの最終形態であると考えています。“ベターピクセル”は映像の広色域化を表しており、近年のディスプレイ技術の進歩により、8Kでは従来の色域を超えた色再現が可能となりました。“ファスターピクセル”は映像の高フレームレート化についてで、8K映像では1秒間のコマ数にあたるフレーム周波数を、60Hzに加えて120Hzにも対応できる仕様となっております。“動きぼやけ”が低減され鮮明になっています。

超高臨場感を実現するためには、8K映像だけでなく、臨場感あふれる3次元立体音響の再現も重要な条件です。NHKは、図8の構成の22.2マルチチャンネル音響システムを開発しました。家庭向けには、こうしたスピーカーの配置を再現できるよう、ディスプレイの回りにスピーカーを配置する研究も進めています。

NHKは、8Kでさまざまなコンテンツ制作を進めています。これまでスポーツやエンターテインメントのコンテンツを中心に制作を進めてきましたが、ドラマや自然科学番組にもチャレンジして、試験放送、実用放送に向けてコンテンツ制作のノウハウや番組素材の蓄積を進めています。今年ブラジルで開催されたFIFAワールドカップサッカーでは、ブラジル3か所、日本国内4か所でライブパブリックビューイングを実施しました。

放送を実用化するための国際標準化、カメラなど番組制作機器、8Kディスプレイ、中継機器等の開発も進めています。また、映像圧縮技術、衛星・地上・ケーブルの伝送技術などの開発にも力を入れ、放送開始への準備を進めています。

8Kスーパーハイビジョンは、放送だけでなく広い分野で応用が期待できます。映像機器はもちろん、デジタルシネマや3Dテレビなど、映像・家電産業への貢献が期待できますし、医療や教育、美術館展示や出版広告への応用など、社会・文化への貢献も大いに期待できます。





図9 8Kの応用展開



図10 ハイブリッドキャスト

### 3.2 ハイブリッドキャスト

放送の高機能化として、通信を利用した放送サービスの展開が進んでいます。現在、NHKはVODサービスのNHKオンデマンドやラジオのネット配信サービスらじる★らじるなどを展開していますが、インターネットを活用した放送サービスの新しい展開として、昨年9月から放送通信連携サービス、ハイブリッドキャストを開始しました。ハイブリッドキャストは、高品質・高信頼・同報性といった特長を持つ放送に、視聴者の個別のニーズに応じて膨大な情報を提供できる通信の利点を活用した、本格的な放送通信連携サービスです。従来のいわゆるスマートテレビが、単にネット上のコンテンツをテレビに表示させていただきただけなのに対して、次世代スマートテレビとも言えるハイブリッドキャストは、放送と通信がまさに連携するという点に特長があります。

8Kスーパーハイビジョンの時代のすべてのテレビは、ハイブリッドキャスト機能が標準となり、高画質ディスプレイを活かした放送通信連携、次世代スマートテレビサービスが、スーパーハイビジョンとハイブリッドキャストの組合せによって真価を発揮するものと期待しています。

## 4. さいごに

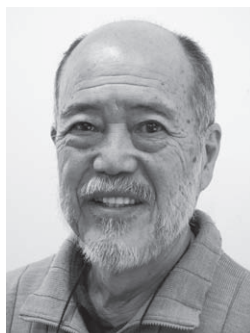
放送技術は、これまでもオリンピックの放送など、大型スポーツイベントを契機にして発展してきたという歴史があります。2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、日本が世界に先駆けて開発している8Kスーパーハイビジョンと、放送通信連携サービスのハイブリッドキャストにより、放送技術をさらに発展させていきたいと考えています。

毎年5月末にNHK技研公開を実施しています。来年は8Kスーパーハイビジョン機器のほか、最新の放送技術の研究成果を多数展示する予定ですので、是非見学にお越しください。

## 退任に際して

### 研究生活を振り返って

電気・情報生命工学科／電気・情報生命工学専攻 教授 加藤 勇



早稲田大学 高等学院に1960年4月に入学して以来、早くも55年が過ぎた。レーザーの研究を志し、電気通信学科に入学した。当時の理工学部はまだ本部キャンパスにあった。卒論で岩片研究室に入る頃には現在の理工学部キャンパスに移っていた。岩片秀雄先生は電波工学研究室を持ち、最先端のレーザーの研究を指導されていた。大学院に進学してから知ったのであるが、岩片先生は癌特別研究の大型科研費を獲得し、研究設備はどの大学にも引けを取らないものであった。癌治療のための大出力レーザーの研究開発を目指していたのである。

通信学会や応用物理学会では主に早稲田大学、東京大学と名古屋大学とがレーザーの研究で競い合っていたが、岩片研は常にリードしていた。当時は学生運動が盛んであり、授業ボイコット、試験ボイコットやクラス討論会等があり、研究室に入ってから議論があつたが研究活動には特に支障はなかった。岩片先生の勧めにより、私は博士課程に進学した。岩片先生は常任理事になり大学運営に多忙で、あまり研究室には来られなくなったが、私の実験装置には大変興味を持って頂き、研究哲学について多大なるご指導を頂いた。

岩片先生は現役で65歳の時お亡くなりになり、私は後輩と共に清水研究室に移籍となった。清水司先生の多大なるご指導の下で博士号を授与され、助手として早稲田大学に奉職した。清水先生は常任理事を経て、早稲田大学第11代総長としてご活躍された事は周知の通りである。

助教授の時、サバティカルを頂きカナダのマニトバ州立大学のK.C.Kao教授の電子物性研究室に客員教授として雇われ約2年間滞在した。この間に私が考案したプロジェクトでカナダのNational Research Council (NRC) から、大学として

は高額の研究費が獲得できたので、Kao教授に大変喜んで貰えた。これでKao教授としてはまた研究員を雇えるので嬉しかったのでしょう。ところで、なぜ日本人を招聘したのかKao教授に伺った所、アメリカ人は給料が良くないので来たがらない、この給料で来たがる人はいるが、イギリス人やカナダ人は怠け者である、中国人は良く働くがカナダに定住したがるので後の世話が大変である、日本人は良く働きかならず日本に帰るから良いと言うのである。私としては何か複雑な気持ちであった。とにかく、このサバティカルは私にとって大変貴重な経験となった。

私は光集積回路を作製する為にガスレーザの研究から、マイクロ波プラズマ・ケミカル気相成長法による薄膜作製の研究へと進めてきた。学会では各研究者が膜作製実験を行いその膜の評価について議論していたが、プラズマパラメータに基づく膜質評価や膜成長機構についての研究はなされていなかった。公害問題でVLSIの作製が液相から、処理しやすい気相へと変わっていた頃の事である。そこで、他大学の教授たちと協力してプラズマエレクトロニクス研究会を立ち上げ、その委員長を務めこれを応用物理学会の分科会に昇格させた。このプラズマエレクトロニクス分科会を母体として、文部省科学研究費の重点領域研究において「反応性プラズマの制御」採択を成し遂げた。重点領域研究は期間が5年間であったがプラズマエレクトロニクス分科会は現在も存在し、多くの研究者が参加している。私の研究室からも多くの大学院生が研究発表してきた。

早稲田大学のハイテク・リサーチ・センターの第1期の研究組織の立ち上げにおいて、学内の公募で第IVプロジェクト「フォトンクスと先端光子材料開発」が採用され、10年間ほどこのプロジェクトの代表を務めた。これに続く約5年間は分担研究員として「シリコン系低環境負荷材料の開発」のテーマでハイテク・リサーチに属してきた。現在、世界的に研究が活発な「Siフォトンクス」である。この20年間で光通信は急速に発展してきた。今や光通信は社会の基幹産業となっている。これからICTはさらなる発展をしていくであろうし、早稲田大学の教育方法も大きく変革し発展していくであろう。

退任にあたって本会報に執筆を依頼され、半世紀に渡る研究生活を振り返ってみた。多くの先生方、多くの先輩諸氏、そして多くのOB、OG諸君に感謝する次第である。

## 早稲田大学における20年間を振り返って

電子光システム学科／電子光システム学専攻 教授 齊藤 良行



1995年から本年3月まで20年間本学にお世話になりました。研究と教育に一生懸命取り組んだつもりですが、ご助力いただいた先生方、学生諸君のおかげと感謝しております。

20年間を振り返る前に、研究者のキャリアの一例として私の経歴をご紹介します。私は学生時代は回折結晶学を専攻していましたが、就職先として研究にじっくりと取り組むことができる鉄鋼会社の研究所を選びました。

1974年より1993年まで鉄鋼会社の研究所において高張力高強靱性鋼板の開発や材料設計に取り組んで微量元素の効果を定量化し、材質予測制御技術と呼ばれる技術を開発することができました。また会社の研究と並行して休日は興味のある分野の勉強を積み重ねていました。勉強したものを仕事にも活かし、その業績により学位を取得し、鉄鋼各社の皆さんと知り合いになって共同研究を実施することが可能になりました。全国の鉄鋼会社の研究所を訪問したことをよく覚えています。

また1993年から1995年までは、日英共同研究プロジェクト「原子配列の設計制御」の客員研究員となり、ニッケル基超合金の材料設計プログラム開発と固体材料のパターン形成の問題に取り組みました。界面移動の問題は難しい問題ですが、興味を持って取り組むことができました。

1994年秋に本学に採用していただけることがきまった時、私は先に述べた客員研究員としてケンブリッジ大学で研究していましたが、実際に赴任するまで半年位ありましたので、講義と研究の準備を行うことができました。テーマの選択は重要でありその後の成果を大きく変えると言って差し支えありません。

大学では、それまでとは違い自由にテーマを選択することが可能となり、数物理的な問題に取り組みたいと思い、界面ダイナミックス、相分離、秩序化を

テーマとして考えました。対象としては、基礎、応用面で成果の上がったニッケル基超合金の材料設計の問題、また鉄鋼材料に対する微量元素の効果の定量化は実用的にも重要なのでこれらについて取り上げることを考えました。アプローチとしては、本学に赴任するまで取り組んだ拡散方程式の応用と非線形拡散方程式の定式化や数値計算、モンテカルロ法などです。ある程度成果を上げられたと自分では思っていますが、最終的な評価については現段階では残念ながら時間切れとなってしまいました。これらについては今後なお発展が期待されます。

在職中に『組織形成と拡散方程式』というタイトルの本を執筆しました。教科書として使用していただいています。執筆にあたり張り切りすぎていたので、学生さんには少し分かりにくいところもあるのではないかと心配しています。

研究室の思い出としては学生諸君と学会に出席したことが思い出深いです。学生諸君も学会発表についての目標を持ち、国内外の会議に出席し、様々な人と会うことが刺激となり成長していく過程は印象に残っています。時には、台風により交通機関の運行停止などで困ったこともありましたが、学生が代替手段の確保に奮闘してなんとか会場にたどり着いたことも今となっては懐かしい思い出です。学生諸君と現地で美味しいものを食べたことも楽しい記憶として残っています。

今後についてはやりたいテーマは多く残されていますが、すべてをやることは難しいと思うので、テーマを絞ってゆっくり取り組んでゆきたいと思っています。研究や教育と離れた立場になって改めて問題設定を行い、研究課題の具体化をしたいと思っています。取り組みたいこととしては数理物理の勉強と論文執筆、非線形拡散方程式の一般化、ニューラルネットワークの勉強と応用などを考えています。これをいつまでにやるかということは、何をやるかということと同じように重要であります。急ぐのはいいいアイデアではなくゆっくり考えることも重要だと思っています。大学を退職しても生涯勉強を続けていきたいと思えます。勉強の面白さを学生諸君にも味わってほしいと願っています。

最後に研究テーマの計画や実施に関して多大なご援助をいただいた学科の先生方、研究の手伝いをしてくれた学生諸君に心より感謝いたします。

## 桃李満天下

電子光システム学科／電子光システム学専攻 教授 松本 充司



中国の言葉に「桃李満天下」がある。文字通り桃李（教え子）が天下（世界中）に満ちるという意味である。2000年に開設された独立大学院国際情報通信研究科（GITS）で、私はおよそ20か国、120名余の学生を社会に送り出した。巣立った修了生たちが、皆それぞれの分野で躍動している姿と映る言葉ではないかと思う。

GITSの研究室には多くの留学生が集まった。留学生には二通りあり、一つは文部科学省の国費留学生、もう一つは私費留学生である。国費留学生は北アフリカや南米等、宣伝活動してもなかなか受験にならない地域の学生たちが多く、私費留学生はアジア周辺国、特に大部分は中国からの留学生である。

国費留学生の場合は、事前に各国の競争率の高い選抜試験を経ており、モチベーションが頗る高く、博士学位取得を最終目標にしていた。彼らが研究室を希望してくる時は、事前に数回のメール交換を行うので、学生のCurriculum Vitae、研究課題、研究方法の把握、おおよその能力や性格、考え方が理解でき、受け入れ判断が容易であった。

一方、私費留学生の大部分は修士修了後、当初から日本企業への就職を目指している中国人留学生である。入学前に日本語一級を取得し、日本語での入試に挑戦している。これらの学生は一部入試当日に初めて面接する学生もあり、合否判断を困難にしていた。殆どの留学生の日本についてのイメージは、科学技術の進んだアジアの島国というもので、歴史、文化、伝統、習慣、食事、宗教については初めての体験することばかりである。例えば、衛生感覚の違い一つをとっても当初はお互いに戸惑うこともあった。

早稲田大学では本学創立150周年に向けてWaseda Vision 150 が策定されている。この中ではとりわけ『早稲田からWASEDAへ』とグローバル化への展開が重点課題とされている。

近年、日本人学生は現状に満足し、チャレンジ精神に欠ける傾向があるが、それだけ日本国内が経済力や技術力のほか生活環境にも大変恵まれているためであ

ろう。今や時代が進みインターネットを利用すれば、いつでもどこでも殆どの情報が得られるボーダーレスの時代となった。それによって多くの日本人は世界のレベルも分かり、日本の良さが感じるようになっていく。しかし、全ての基本は人間対人間の関係にある以上、生身の触れ合い、時に衝突し、時に肩を抱き合うなかで得られる情報は、どれほど世の中が進歩しても重要でグローバルマインドの養成には必要不可欠なものである。

一人っ子であっても親元を離れ留学自体が投資である中国人学生はハングリー精神旺盛で、日本企業への就職を目指している。今後、グローバル化が進展し、留学生受入れが増加する状況においては、日本人学生と日本国内の就職のパイの奪い合いがより一層激化するであろう。英語も日本語も堪能な外国人の登場に対して、日本人学生はどう立ち向かうのだろうか？ やはり、国外に出て、より一層強靱な精神力を磨いていかなば国外は無論、国内においても後塵を拝することとなる。

また、日本企業においてもグローバル化は重要である。グローバル化の進展の中により、企業間の競争力も一国、一企業だけでは対応できない状況になる。かつて“Japan as Number One”、“世界の工場”と言われてきた日本企業も今はその勢いが見られない。日本人は品質向上や既存技術改善を得意としているが、独創的な発想、ビジョン、企業戦略が苦手である。使い易さを追求し、多くのアプリケーション機能を満載した製品の改良は進むが、タッチ操作のタブレット、ファンの見えない扇風機、ロボット掃除機等、固定概念にとらわれない発想による新製品の開発になかなか挑戦できない。光通信システムの環境ではアカデミアの共同研究が進んでいる。グローバル化の進展によりアカデミアや企業の研究所は複数の研究所による共同開発が進むであろう。

教育分野においてもネットワークとICT技術の進展により、視聴覚を利用した遠隔教育が進展すると考えるが、教育の基本は、人間の肌の触れ合い、五感すべてを使い、技術のみならず教員と学生間の精神面の交流も必要であると感じている。教育の評価は時間を要するが、同じ研究室で長い間時間を共有してきた学生は、なにかと印象に残っている。私の研究室からは8名の留学生が博士学位を受領した。うち3名は小野梓学術賞も受賞した。開発途上国出身では博士取得後の就職は極めて困難であるが、留学生8名のうち5名は本学や母国で教員になった。また2名は日本の独立行政法人の研究所研究員として、1名は母国のテレコム企業のCEOになっている。グローバル環境で桃李満天下になることが私の想いである。

## 早稲田大学と企業での50年間の研究生活

情報生産システム研究科／電子光システム学専攻 教授 後藤 敏



### 早稲田大学に入学

1964年に早稲田大学理工学部電気通信学科に入学した。この学科を選んだ理由は、これからはエレクトロニクスの時代で、いわゆる弱電といわれる分野に将来性があるだろうという程度であった。早稲田に入学を決めたとき、高校の担任の先生から、君は、将来は大学の先生になると良いのではと言われたが、まさか40年後に実現されたとは驚きである。大学に入り、最初の年はオリンピックが東京で開催され、2年生は学生運動での半年間のストライキを経て、3年から専門科目が本格的に始まり、ストライキの後で勉強に飢えていたせいも、相当熱心に勉強した。4年に研究室に入る際には、講義が大変おもしろかった平山博先生を選んだ。大学院に進み、グラフ理論を研究テーマに選び、自分で問題を見つけては解くことをしていた。就職に当たっては、平山先生から、NEC研究所はどうかと勧められ、学生時代からNECに出入りしたこともあり、あまり深く考えずに入社した。大学院の修士で修了するときは、大学全体の総代に選ばれ、全学生を代表して答辞を述べた。

### NEC時代

入社から10年間余り、LSIの設計自動化の研究開発に取り組んだ。当時は、トランジスタからICへ、更にLSI、VLSIへと大規模化が進み、企業は電子機器を短期間に、高い信頼度で、安く開発することが電子機器の競争力の決め手になり、自前で設計ツール(EDA)を開発することを強く要求された。会社からカリフォルニア大学バークレー校に留学させてもらい、LSI設計自動化の研究を始めたこともあり、帰国してからはゲートアレー、カスタム向けEDAツールを全社での開発をまとめる立場となり、多くの社内の事業部の技術者と協力して開発し、社内の実際のLSI設計に使用した。自分で考えた解法をソフトウェアとしてコンピュータに実装し、LSIが出来上がり、製品が出ていくという醍醐味を味わった。40歳を過ぎると、第5世代コンピュータやRWCをはじめとする国の大型プロジェ



クトやソフトウェア、情報サービスの開発の責任者にさせられ、マネジメント業務が主となった。

### 早稲田（北九州）に戻る

2003年に北九州に新しい大学院を作ることとなり、教授として採用して頂けることとなり、33年ぶりに母校に戻った。NECの最後の10年間は、所長、支配人、理事という、マネジメント業務ばかりしており、自分では研究しておらず、大学の教員が務まるかと思っていた。赴任した最初の年に、北九州市が文部科学省の地域クラスターに選ばれ、文部科学省の科学技術調整費にも採択されたために、大学に移り、研究費には苦勞することがなくなった。その後、CREST、グローバルCOE、卓越した大学院、地域イノベーション、大学発新産業創出、科研費にも採択され、多くの大学院生を金銭的にサポートし、十分な教育・研究環境を整え、活動を活発にすることができた。多くの企業とも共同研究や委託研究をさせてもらい、早稲田大学にいる間は、潤沢な研究費で、存分に研究ができた。研究はマルチメディア分野を取り上げ、画像符号化／復号化、画像認識、誤り訂正、暗号の分野でアルゴリズムから回路設計、チップ設計、及びチップ試作までを行った。特に、低消費電力化を狙った画像LSIチップの研究に重点化し、優秀な学生と共に世界トップの成果をいくつも上げることができたのでは幸いであった。12年間で、80件の論文を学術論文誌に発表し、250件の論文を国際会議で発表し、優秀論文表彰も12件を受けることができ、研究室からは30名の博士、80名の修士を誕生させた。北九州では、約100名の学生がいたが、ほとんどが中国のトップ校からの留学生であり、皆、猛烈に勉学と研究に励み、博士学生はもちろん、修士学生でも、採択が難しい国際会議（ISSCC, VLSI Symposium, ICME, ISCAS, ICIP, PCS, PCM, EUSIPCO, DAC）に論文に投稿し、採択されるということが定着した。

企業には会社経営のために、事業を担うという責任があり、企業の事業目的を達成するための研究が要求される。大学には、事業責任はないが、世の中で未知な事実を発見すること、誰も考えていなかった新しい仕組みや方式を発明してることにより、社会に役立つ科学や技術を開発することが、大学の役割である思い、12年余り、早稲田大学で研究してきたが、まだ、まだ道のりは遠い。今後、若い学生や研究者にひき続き研究を継続してもらい、更なる技術の発展を祈念したい。

## 追悼

### 内山明彦先生を偲んで

東京都市大学工学部医用工学科 京相 雅樹

内山明彦先生は去る2014年3月7日に享年79歳でご逝去されました。お通夜および告別式につきましては近親者のみにてしめやかに執り行われました。改めてご冥福をお祈り申し上げます。

訃報を受け、私を含む内山先生ご指導による博士号取得者が中心となり、生前ご関係のあった方々とともに思い出を語り合い、お別れする会を開きたいという思いで2014年6月21日にリーガロ

イヤルホテル東京にて内山明彦先生を偲ぶ会を開催しました。当日は様々な分野、年齢層、組織の方々280名あまりが参加され、改めてご活躍の幅広さを感じた次第です。

先生は1960年（昭和35年）に早稲田大学理工学部助手として着任されて以来、2005年（平成17年）に定年退職（図1）されるまで45年もの長きにわたり早稲田大学の教育を含む学内活動、また生体医工学分野の研究および学協会活動に尽力してこられました。研究室における指導においては、長きにわたる研究室運営の中で500名にならんとする学生を、研究を通じて育て上げられました。研究活動におきましては、国産初の消化管カプセルとペースメーカの開発に携わるなど、この分野で多大なる成果をあげられ、その業績は150編を超える学術論文となって残されております。このような類い稀なるご活躍に対し、定年退職に際して名誉教授の称号を授与されたことは皆様ご存じのことと思います。国内における学協会活動については、ライフサポート学会、日本生体医工学会（旧日本エム・イー学会）を中心に活動されておられました。1990年（平成2年）9月にはISOB（International Symposium on Biotelemetry）の大会長（図2）、1993年（平成5年）に日本エム・イー学会秋期大会の副大会長、ライフサポート学会誌編集委員長などを歴任されるなど、学会等におきましても幅広いご活動をされております。

私と内山先生との出会いは学部時代の講義、計測工学でした。この講義を通じ



図1 最終講義（2005年3月4日）

て電子計測への興味が募り、内山先生のもとで卒業研究をしたいと考え、内山研に所属することになったわけです。そこで初めて生体医工学の分野に触れ、これが現在の道に進むきっかけになりました。不肖の弟子であるが故10年間にわたり長々と内山研究室にご厄介になり、その間先生の様々な面を垣間見させていただきました（図3、図4）が、先生は一貫して穏やかかつフランクで、決して押しつけがましくなったり、尊大になったりすることなく接してくださいました。卒業記念パーティご自宅で開催された際、お料理を手伝う姿や趣味の鉄道に関するお話を聞かせていただいたこと（図3）は若かりし頃の良き思い出となっております。また学生のことを卒業以後も気にかけてくださり、図4の還暦祝いのあとOBの方々に配られたお返しに添付されていたメッセージ「私の誇りは皆さんが社会で活躍していることです」は今でも強く心に残っております。

内山先生の弟子として、無意識のうちに「内山式指導」を引き継いでいるところもあろうかと思いますが、まだ遠く及ばないというのが実感です。先生のようないつまでも教え子の尊敬を集める指導者を目標としております。内山先生には今後も見守っていただければと思います。

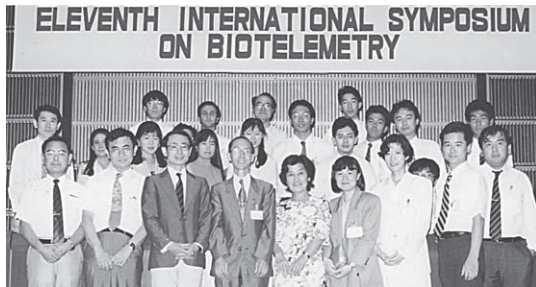


図2 第11回ISOB（1990年9月、横浜国際会議場）



図3 鉄道模型の説明を受ける筆者（1993年3月、二宮のお宅にて）



図4 研究室OB会での還暦祝（1996年6月、右は奥様）

## 情報理工学科教員の横顔 (五十音順)



石川 博

1991年京都大学理学部理学科卒。1993年京都大学大学院理学研究科数学専攻修士課程了。2000年ニューヨーク大学ターラン数理学研究所計算機科学博士課程了 (Ph.D. in Computer Science)。2004年名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科講師。同准教授、教授を経て2010年より現職。電子情報通信学会、情報処理学会、IEEE、ACM会員。コンピュータビジョンの研究に従事。



入江 克

電気工学科山崎秀夫研究室：学部・修士卒、英国リバプール大学大学院、工理学部電気電子工学科修了：Ph.D (英国)。職歴：同大学、プリンストン大学プラズマ物理学研究所、早大電気、オックスフォード大学クラレンドン研究所、文部省核融合科学研究所。物理現象 (アークプラズマ・核融合プラズマ・電弱相互作用・パリティ非保存現象) 及び生物現象 (生殖細胞の群れ運動に対する電磁界・ナノ粒子の影響) を対象とし数千並列デジタルイメージング手法を利用し解析を行っている。1983年球形トーラス核融合方式を発明。



上田 和紀

1978年東京大学工学部計数工学科卒。1986年同大学院情報工学博士修了、工学博士。1983年NEC入社、1985～1992年(財)新世代コンピュータ技術開発機構出向。1993年早大理工学部情報学科。現在情報理工学科教授、国立情報学研究所およびエジプト日本科学技術大学客員教授。プログラミング言語、高性能検証などの研究およびシステム開発に従事。第7回日本IBM科学賞、2011年度日本ソフトウェア科学会基礎研究賞など受賞。



笥 捷彦

1968年東京大学工学部計数工学科卒、1970年同大学院計数工学専攻修士課程修了。同年東京大学工学部助手、1974年立教大学理学部講師、1976年同助教授。1986年早稲田大学理工学部教授、2007年同基幹理工学部教授、現在に至る。プログラミング言語、ソフトウェア環境などのソフトウェア基礎の研究に従事。



### 笠原 博徳

1980年早大電気卒。85年博士了、工博。83年理工助手、85年カリフォルニア大パークレー研究員、学振特別研究員、86年早大理工専任講師、88年助教授、97年教授。89年イリノイ大CSRDR研究員。87年IFAC World Congress Young Author Prize、97年情処坂井記念賞、2010年IEEE Computer Society (CS) Golden Core Member賞。09年～CS理事、12年～CSマルチコア技術委員長。マルチコア、スパコン、並列化コンパイラ、グリーンコンピューティング等の研究に従事。



### 木村 啓二

1996年電気工学科卒。1998年大学院理工学研究科修士課程修了。2001年早大博士(工学)2001年～2004年早稲田大学理工学研究科 客員講師(専任扱い)。2004年 早大理工専任講師、2005年准教授、2012年教授。現在に至る。並列計算機、特にマルチコア・メニーコアのソフトウェアとアーキテクチャに関する研究に従事。



### 後藤 滋樹

1971年東京大学理学部数学科卒。1973年同大学院理学系大学院修士修了。同年電電公社武蔵野電気通信研究所に入所。1984年～1985年米スタンフォード大学客員研究員。1991年工学博士(東京大学、情報工学)。1996年早稲田大学理工学部教授。コンピュータネットワークの研究に従事。



### 酒井 哲也

1991年工業経営学科卒。1993年大学院理工学研究科修士課程修了、同年(株)東芝入社。2000年博士(工学)早稲田大学。2000～2001年英ケンブリッジ大学客員研究員。2007年東芝退社、(株)ニューズウォッチの自然言語処理研究室長に就任。2009～2013年Microsoft Research Asia(北京)のLead Researcher。2013年9月に情報理工学科に着任。専門は情報アクセスと言語処理。



### 菅原 俊治

1980年早稲田大学理工学部数学科卒。1982年大学院理工学研究科修士課程了、同年日本電信電話(株)基礎研究所入所。1992年早大博士(工学)。1992～1993年米マサチューセッツ大学アマースト校客員研究員。2007年 早大基幹理工学部教授。現在、人工知能、特に自律エージェント・マルチエージェントシステムにおける協調と学習、マルチエージェントシミュレーション、インターネット管理に関する研究に従事。



### 中島 達夫

1984年慶應義塾大学工学部電気工学科卒、1990年同電気工学専攻博士課程修了、工学博士、カーネギメロン大学、北陸先端科学技術大学院大学等を経て、1999年9月より、早稲田大学理工学部情報学科助教授、現在、同大学基幹理工学部情報理工学科教授、分散システム、ソーシャルメディア、ユビキタスコンピューティングに関する研究に従事。



### 深澤 良彰

1983年3月早稲田大学大学院理工学研究科博士課程電気工学専攻修了。工学博士。1987年理工学部電気工学科助教授。1992年情報学科教授。2007年より、早稲田大学基幹理工学部情報理工学科教授。早稲田大学メディアネットワークセンター所長、教務部長、研究推進部長、情報化推進担当部長等を歴任し、2010年11月より理事（研究推進統括、情報化推進）。日本学術会議連携会員。専門はソフトウェア工学。特に、オブジェクト指向ソフトウェア開発技法やソフトウェア再利用技術等。



### 松山 泰男

1969年早大電気卒。1974年博士課程了（工博）。同年、学振日米交換フェロー。1978年Stanford大学博士課程了（Ph.D.）。Stanford大学助手、茨城大学教授、博士課程専攻長、人事院総合試験専門委員理系代表を経て1996年より早大教授。計算知能と機械学習の研究に従事。IEEE Outstanding Paper Award他を受賞。IEEE Life Fellow、電子情報通信学会フェロー。



### 山名 早人

1987年電子通信学科卒。1993年大学院理工学研究科博士後期課程了。博士（工学）。1993～2000年通産省工業技術院電子技術総合研究所。1996年通産省機械情報産業局電子機器課・課付。2000年早大理工助教授。2005年理工学術院教授。情報検索、大規模情報解析、並列・分散処理、バイオインフォマティクス等の研究に従事。



### 鷺崎 弘宣

1999年情報学科卒。1999年大学院理工学研究科修士課程了、2003年博士課程了、博士（情報科学）。2002年同大学助手、2004年国立情報学研究所助手、2008年早稲田大学理工学術院准教授、国立情報学研究所客員准教授。再利用と品質保証を中心としたソフトウェアエンジニアリングの研究、教育、社会展開に従事。

## 若手OBの活躍

### 好きを継続すること、研究職について

ライス大学 コンピュータサイエンス学科 研究員  
白子 準 (2002 電気電子情報工学科卒)



私は2002年に電気電子情報工学科を卒業しました。その後、情報ネットワーク専攻で修士課程、博士後期課程を学び2007年に博士の学位を取得しました。取得後の1年間は日本学術振興会のPD特別研究員としてコンピュータ・ネットワーク工学科に籍を置き、2008年からヒューストンにあるライス大学でポスドク研究員を始めました。ライス大学は学生数6000人ほどの小規模な大学ですが企業や他大学との共同研究が

盛んで、これらの研究に専門的に取り組むResearch Scientistという職種の研究者が多く在籍します。私も同大学で2010年からResearch Scientistとして勤務し、現在に至ります。

これまで学術機関に十数年身を置いているのですが、その間ずっと並列コンピューティングの研究に取り組んでいます。並列コンピューティング（並列処理）とはプロセッサコアといった複数の計算ユニットを並列に動作させ、処理を分散させることでプログラムの実行時間の短縮を図る技術です。今日では携帯電話からスーパーコンピュータといったあらゆるコンピューティングシステムにおいてマルチコア／メニーコア・アーキテクチャ（複数プロセッサコアを搭載した並列処理を前提としたプロセッサ設計）が主流となっており、並列処理の効率がそのままコンピュータの実効的な処理性能を決める主因となっています。

このような並列コンピューティングにおいて私は、人間のプログラミングに要する労力を最小限にしつつ並列コンピュータの実行効率を最大化するためのソフトウェアフレームワークをテーマに、並列プログラミング言語、並列化／最適化コンパイラ、ランタイムライブラリを主要な研究対象としています。非常に広範

囲にわたる技術を内包した研究テーマですが、これまでの研究成果の一部がC/C++やFORTRANでの並列プログラミングの標準APIであるOpenMPや、Javaの並列ライブラリに取り入れられるなど、少しずつ前進しております。このようなやりがいのあるテーマをもって研究に打ち込めることは研究者として大きな幸運だと感じておりますが、その根幹となっているのは学部・大学院時代に早稲田で得た経験、特に笠原博徳先生や木村啓二先生をはじめとした研究室での諸先輩方から学んだことだと思います。

4年生のとき、初めて所属した大学の研究室はそれまでの私の環境とは全く異なるものでした。学部1年生の時から体育局の空手部に所属していたこともあり学問よりも体を動かすことのほうが好きでしたが、研究という未だ答えの分かっていない物事を追求していくことが、当時の私には何よりも新鮮で面白いものに思えました。また、研究に打ち込み、熱く夢を語る先生方や諸先輩方を見て、自分自身もそういう人間になりたいと強く感じました。そういった気持ちが研究者になりたいと思った最初のきっかけだと思います。ただ、当然ですがやる気や意欲だけではなかなか能力が伴わず、先輩方や同期にもいろいろ迷惑をかけてしまいました。それでもなんとか研究のいろはを身に付けることができたのは、根気強く指導を続けて下さった先生方や諸先輩のおかげであると心から感謝しております。

学位の取得後、それまでアメリカのコンピュータサイエンスに触れてみたかったこともありニューヨーク州にあるIBMのトーマス・J・ワトソン研究所に客員研究員として在籍しました。半年弱の間ですが、それまでの研究手法とは違った様々なアプローチに触れること、海外の優秀な研究者と一緒に働いたことは貴重な経験でした。その後、ワトソン研究所でお世話になり、また現在の直接の上司でもあるVivek Sarkar先生にお誘いをいただく形でライス大学に移り、2年間のポストドクを経て現在のResearch Scientistとなりました。早稲田にいた頃と同様、ライスでも同じ志を持った仲間とともに日々研究に取り組んでいます。

私がこれまで好きな研究を続けることができたのは、恩師や同僚といった周囲の人間に恵まれたこと、なにより運が良かったのだと思います。ただ、好きを続けたことで新しく知り合えた仲間や身につけた経験・知識は自分にとっての何よりの財産であり、更なる好きの追求のために不可欠な基盤となっています。今後も周りの方々への感謝を忘れず、好きを続けられるよう精進します。



## 修士課程修了にあたって

電気・情報生命専攻 原田 賢

(井上真郷研究室)



学部時代から、私は現在所属する井上真郷研究室にて信号処理の研究に携わってまいりました。音声合成、音声分離と学習及び研究を積み重ね、京大病院の方々のご縁もあり、修士の後半からは共同研究として高速撮像MR画像再構成に関する研究を取り組み始めました。さらに現在では、それを基軸とした数理モデルに関する研究を行っています。

共同研究の経験は、とても貴重な経験になっています。特に、当たり前のことではありますが、1か月に1度行われる外部との報告会のために定期的に進捗を見出し、報告内容をまとめなくてはならないという経験です。これには大きな緊張感を伴いましたが、やりがいがあり、私自身を大きく成長させてくれました。

3年半の間お世話になっている研究室での生活では、学ぶべき点がいくつもあり、大変有意義でした。例えば、理工展に本研究室が初めて参加したときに責任者となり、どのような内容ならばお客様から満足を得られるかに尽力しました。また外部のみならず、どのようにしたら研究室のメンバー全員が理工展に興味を持って自然と参加してくれるのか、など、組織の内側をもケアしつつ、無事に大成功を取めたことは良い経験となりました。また、本年度には研究室の大規模な引っ越し作業もあり、様々な困難のなか、組織の在り方、組織での自身の在り方を身に染みて学ぶことができました。

研究内容の度重なる変遷、共同研究によるプレッシャー、組織の中での役割など、多くの場面において同研究室の井上真郷教授をはじめとし、先輩方や同期、更には後輩にも支えられ、誠に感謝しております。

修士課程が修了し、来年度からはそのまま現研究室に博士後期課程へと進学を希望します。まだ長く続く学生生活ではありますが、自身の学習及び研究はもちろんのこと、共同研究でのご縁や組織での役割を大切に、後悔の残らぬ、そして早稲田の名に恥じる事のない全うなものとなりますよう、邁進してまいります。

情報理工学専攻 後藤 隆志  
(笠原研究室)



研究室に入り修士課程を終えるまでの3年間は、私にとって幅広く成長できたとても貴重な時間でした。研究室に入った当初は知識が少なく、研究の成果もなかなか出ないため、焦りや不安を感じることも多々ありました。ただ、先輩方のアドバイスを元に出来ることから1つずつ取り組む事で、段々と知識が繋がり、理解できることが増え、成果が出始めるようになりました。それ以降、

新たなテーマや課題に対しても、まず取り組んでみる姿勢を持つことを大切にしています。同時に、幅広い視野を持つ大切さも、研究を進めていく中で学べた事です。私の研究は産学連携で行っており、複数の企業の方と進めてきました。企業の方と議論しながら研究を進めていく事で、今考えている手法や方式が、実社会にどう影響するのか、そもそもその課題は克服することでどんな意味を持つのか、といったより広い視野で考える機会になりました。結果として、自分の研究に自信を持つことができましたし、なにより結果を求めて努力するきっかけになりました。

また、一緒に研究を行ったチームは本当に恵まれたもので、私にとって理想のメンバーだったと思います。それぞれが全力で研究に取り組み、誰かが大きな課題で躓けば全員で解決を探る。成果は共有してみんなで喜び、論文・発表作りまで一緒に考える。このチームで多くの成果を作り出す事が出来たと思いますし、研究外も含めてたくさんの良い思い出も出来ました。願わくは、またどこかで集まり、何か一つの事に取り組めたらと思う程です。このチームのおかげで、研究自体が辛いと思うことも無く、むしろ支えあって課題に取り組む楽しさを経験することが出来ました。

最後になりますが、修士課程を修了するにあたり、今まで数多くのご指導をして頂いた笠原先生、木村先生に感謝を申し上げます。先生方のおかげで、研究を通じて専門性だけでなく、考え方や表現方法まで幅広く学ぶことができました。また研究チームを始め、先輩方や同期、後輩に至るまで、研究で携わった全ての方に、感謝を申し上げたいと思います。

ナノ理工学専攻 明道 三穂  
(川原田研究室)



研究室に配属して3年間、私はダイヤモンドやカーボンナノチューブといった炭素材料のバイオセンシング応用について研究して参りました。ダイヤモンドを用いたバイオセンサは川原田研究室では以前から研究されており、先輩方が多くの技術を築いてこられました。その技術を受け継ぎ、さらに新たな技術を蓄積するというのは、やりがいもありましたが、プレッシャーも大きなものでした。知識面でも技術面でも未熟な私でしたが、先輩方が積極的に議論に加わってくださり、また技術的な指導をしてくださったため、高い成果を上げることができました。先輩方にご指導いただけましたことに、とても感謝しております。

また、得られた成果を報告する場としての学会への参加と、それに向けた準備が、自分にとって貴重な経験となりました。自分の研究について、その分野に詳しくない人にもわかりやすいように伝えるということが、こんなにも難しいことなのだと強く実感しました。発表を聞きに来てくださる方々の貴重なお時間を頂いているという認識を持つこともでき、中途半端な結果や発表ではいけない、しっかりとした発表をしなければ、と高みを目指し成長するきっかけとなりました。学会会場では自分の成果を報告するだけでなく、他の研究者の方々とお話することで、客観的に自分の研究を見直し、改めて研究へのモチベーションを高めることができました。このような機会を与えてくださった川原田先生に、深く感謝を申し上げます。

修士課程の修了にあたり、研究室生活を支えてくださった、川原田先生をはじめとした研究室の皆様、友人、家族に感謝致します。修士の2年間で経験したことは、大きなことも小さなことも全て、私の力となる貴重なものでした。卒業後はこの経験を活かし、また今以上に努力を積み重ね、社会に貢献できるよう精進して参ります。

## 地方本部だより

### 九州地方本部だより



九州地方本部では、平成26年3月7日（金）に平和楼天神本店（福岡市内）において、平成25年度の総会を開催しました。ご来賓として、EWE本部より大附会長、内田副会長のお二人をお招きし、地方本部会員からは25名にご出席いただきました。総会は、片山本部長（S42電気）の挨拶で始まり、滞りなく終了しました。

総会及び懇親会では、大附会長および内田副会長から、EWEや早稲田大学の近況について、お話をいただきました。大型スクリーンに写真を写して、お話をいただいた際は、参加いただいた皆さまが驚きながら大変興味深く聞き入っていました。

懇親会では、早稲田大学に関連のある品を景品としてくじ引きを行い、大附会長が番号を引かれる度に会場は大盛り上がりとなりました。親睦が深まった後は、全員で円陣になり肩を組みながら、恒例の「都の西北」を斉唱しました。校歌を歌う皆さまはいつもにも増して笑顔で生き生きとしていました。最後は、轟木くん（H20電）の音頭によるエールで、懇親会は盛況のうちにお開きになりました。

当日、多忙な中、ご出席いただきました大附会長、内田副会長、ご協力いただきましたEWE事務局の皆さまに厚くお礼申し上げます。

九州地方本部では今後も総会を定期的で開催し、より多くの会員の方と親睦を深め、「都の西北」を大斉唱したいと思っています。近年、総会におきまして特に若年層の会員の参加が少ないことから、総会の今後の更なる活性化のためにも九州地方EWE会員の把握や総会出席の呼びかけに取り組んでおります。九州に新たに來られた方、また在住でありながら総会案内等の連絡がない方、もしくはお知り合いでEWE会員をご存知のかたは、お手数をお掛けしますが、事務局までご一報をいただければ幸いです。（「地方本部連絡窓口一覧」参照）

（橋口 伸也 記）

## 北海道地方本部だより

去る平成26年5月31日、北海道地方本部の活動の一環として、札幌において北海道地方本部総会及び懇親会を開催しました。残念ながら、昨年度に引き続き今年度も新入会員に恵まれませんでした。11名の会員が集いました。

総会では、本部長の脇千春（S51）からの挨拶の中で、最近では会議などを通じた、地方本部間の横の繋がりが弱くなってきているように感じられるとの発言があり、今後、早稲田の繋がりをより強いものとして行くことの必要性が話題となりました。続く懇親会は、尊敬すべき技術者である諸先輩と大いに飲み、語らう、普段では経験のできない非常に貴重な時間となりました。また、会は時間を忘れる程に盛り上がり、最後は時間もなくなり、（お店の方からのプレッシャーの中）慌しく閉会となりました。

今後も総会、懇親会を定期的に開催し、会員のみなさまと親睦を深めていきたいと思っておりますので、多くの会員のみなさまの参加をお待ちしております。最後になりますが、北海道在住の方で地方総本部総会のご案内が送付されていない方は以下までご連絡願います。

〒060-8677

札幌市中央区大通東1丁目2番地

北海道電力株式会社 工務部 系統運用グループ

前田 知哉（まえだ ともや） e-mail : h2005013@epmail.hepco.co.jp



## 東海地方本部だより

東海地方本部では、去る5月27日（火）に名古屋マリOTTアソシアホテルにおいて、平成26年度の総会を開催いたしました。EWE本部より竹田義行会長をお招きし、地方本部からは23名の会員にお集まりいただきました。

総会は板倉弘計幹事（S56電）による司会進行のもと、竹尾聡本部長（S49電）の開会挨拶に続き、竹田会長に來賓挨拶を頂戴し、歓談へと移りました。

歓談のなかで、竹田会長から活性化委員会の活動状況など、EWEの近況についてお話しいただき、参加された皆様は大変興味深く聞き入っていました。

最後は、恒例の「紺碧の空」「都の西北」の斉唱とエールを行ったのち、内藤雄順副本部長（S51電）の音頭のもと、電気工学会らしく電圧（ボルト）の「V」の字をイメージしながら万歳三唱を行い、盛況のうちに閉会となりました。

改めて、ご出席賜りました竹田会長ならびにご協力いただきましたEWE本部の皆様に厚く御礼申し上げます。

東海地方本部では今後も定期的に総会を開催し、親睦の輪を広げていきたいと考えております。電気を学んだ者同士、近況報告や思い出話に花を咲かせるのは楽しいものです。東海地方にお住まいの方は、是非一度総会にご参加ください。ご連絡をお待ちしております。

（記 中部電力 高橋 良介）



## 東北地方本部だより

東北地方本部は、東北地方6県および新潟県に在住または勤務する会員で構成されており、1～2年に1回程度仙台に集まり、親睦を深めています。今年度の総会は、10月24日に「ホテルモントレ仙台」において、竹田義行会長ならびに亀山渉教授をお招きし、東北地方本部会員12名の出席により開催しました。

総会は、物故会員への黙祷、森下和夫東北地方本部長の挨拶で開会し、本部からのご来賓より、EWEの運営方針や電気関連学科の変遷についてご紹介いただきました。

総会に続いての懇親会は、近況報告などで親睦を深め合い、最後に「都の西北」「紺碧の空」を斉唱し、盛況の中、散会となりました。改めて、ご出席いただきました竹田会長、亀山教授ならびにご協力いただいたEWE本部の皆様には厚く御礼申し上げます。

東日本大震災から3年半が経過し、仙台市の中心部では震災の傷跡が無くなってきたかのように見えるようになりました。

しかしながら、中心部を離れば、未だ多くの方々が仮設住宅での不自由な生活を余儀なくされている状況であり、本格的な復興・再生へはまだ道半ばです。会員の皆さまには、復興支援として、東北の農産物、漁獲類の購入や温泉や観光地への来場をお願いいたします。

最後になりますが、転勤などで東北に來られた方、案内が送付されていない方は、下記の事務局までご一報ください。

(事務局) 東北電力(株)電力システム部(送電) 諏訪 三千男  
TEL. 022-799-2938 E-MAIL suwa.michio.zf@tohoku-epco.co.jp



## 中国地方本部だより

中国地方本部は、中国地方5県に在住または勤務する会員で構成されており、年1回、広島市に集まり、会員相互の親睦を深めています。

今年度の例会は、当初7月9日に予定しておりましたが、大型台風の接近により急遽延期となりました。再度日程調整を行い去る11月25日に「メルパルク広島」において開催することができ、EWE本部から松本会長代理にご臨席賜りました。総会には中国地方本部会員19名の出席をいただき、追谷中国地方本部長の挨拶で開会し、滞りなく終えました。

総会に続いての親睦会は、当本部顧問の神出さまの乾杯により始まり旧交を温め合いました。途中には、松本先生に大学の近況などについて映像を交えてご紹介いただきました。また、多方面でご活躍されている諸先輩方からお話をいただき、幅広年代の会員が、来賓を囲んで楽しく親睦を深めることができました。

会は恒例により校歌「都の西北」、さらに応援歌「紺碧の空」の斉唱とエール交換をもちまして、次回の再開を期しながら盛況のうちお開きとなりました。

改めて、お忙しい中ご出席をいただきました松本会長代理、ならびにご協力いただいたEWE本部の皆さまに厚く御礼を申し上げます。今後も微力ながら母校の発展のため当地方本部の活躍を盛り上げ、尽力させていただく所存ですので、引き続きご指導賜りますようよろしくお願いします。

なお、中国地方の親睦の輪を広げていくためにも、中国地方に転勤で来られた方、また中国地方に在住でありながら総会案内等がない方、もしくはお知り合いでこのような方をご存じの方は、お手数をおかけしますが、事務局までご一報をいただければ幸いです。

中国地方本部事務局  
西村 圭二





## 関西地方本部だより

関西地方本部の主な活動は、年1回の総会・懇親会（WESKのつどい）と数回の幹事会です。

今年度の総会・懇親会は、2014年11月26日に大阪梅田 阪急グランドビル19階「関西文化サロン」に於いて、竹田会長をお招きし開催致しました。

当日は44名の参加者でした。関西地方本部の岡 秀幸会長（S60電通修）の挨拶で始まり、その後、ご来賓の竹田会長よりご挨拶を頂きました。

竹田会長からは、EWE活動および理工学研究の変遷と、学科再編等の現状、大学における近況について詳しくご紹介頂きました。



総会後の懇親会は、鈴江 啓宏氏（S42電気）の乾杯のご発声で始まりました。恒例の早稲田グッズの景品を用意したビンゴゲーム、早稲田校歌のエール、そして紙中 伸征氏（S44通信修）のご発声による万歳三唱で、盛況の中、閉会しました。

当日、多忙な中ご臨席頂きました竹田会長、また、ご協力頂きましたEWE事務局の方々に厚くお礼申し上げます。

さて、近年関西地区の各企業とも、EWE卒業生の新入社員が減少していることから、会員の把握と総会出席の呼びかけに取り組んでいます。

転勤で関西に来られた方、また会員をご存知の方は、EWE事務局までご一報お願いします。

執筆 山本 浩数（H14情報修 パナソニック）

電話：03-3232-9768 / E-mail：jimukyoku@ewe.or.jp（EWE事務局）

## 地方本部連絡窓口一覧

北海道地方本部	〒060-8677 札幌市中央区大通東1丁目2番地 北海道電力(株) 工務部 系統運用グループ 前田 知哉 電 話：011-251-4474 E-mail：h2005013@epmail.hepco.co.jp
東北地方本部	〒980-8550 仙台市青葉区本町1-7-1 東北電力(株) 電力システム部 諏訪 三千男 電 話：022-799-6187 E-mail：suwa.michio.zf@tohoku-epco.co.jp
北陸地方本部	〒930-8686 富山市牛島町15-1 北陸電力(株) 経営企画部 需給計画チーム 福田 泰史 電 話：076-405-3074 E-mail：fukuda.taishi@rikuden.co.jp
東海地方本部	〒461-8680 名古屋市東区東新町1番地 中部電力(株) 流通本部系統運用部 給電企画グループ 林 順平 電 話：052-973-3084 E-mail：Hayashi.Junpei@chuden.co.jp
関西地方本部	〒571-8506 門真市大字門真1006 パナソニック(株) オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社 山本 浩数 電 話：050-3487-7817 E-mail：yamamoto.hirokazu@jp.panasonic.com
中国地方本部	〒730-8701 広島市中区小町4-33 中国電力(株) 流通事業本部 中央給電指令所 西村 圭二 電 話：050-8202-2853 E-mail：171101@pnet.energia.co.jp
九州地方本部	〒810-8720 福岡市中央区渡辺通2丁目1-82 九州電力(株) 電力輸送本部 給電計画グループ 橋口 伸也 電 話：092-726-1723 E-mail：Shinya_Hashiguchi@kyuden.co.jp

## クラス会だより

### 電気通信学科 1947年(昭22)卒クラス会

今年も4月18日正午に、リーガロイヤルホテル東京・レストラン「なにわ」に集まりました。今回は、昨年と同じメンバー5名の出席となりましたが、これは東京近郊在住の全員です。

全員90歳前後となり、健康情報交換と戦中戦後の経験が主な話題でしたが、今回は特に東京大空襲時の3月10日の消防署動員が話題の中心となりました。

この会を続けるかどうかについて今回も協議しましたが、1998年(平成10)から欠かさず行ってきたこともあり、できる限り続けようという結論となりました。

今回は雨のため、大隈庭園へ出ることができず、レストラン玄関で記念写真を撮って散会しました。

出席者(写真順左から) 和田 新、伊藤允喜、赤松正也、栗島 茂、小黒幸平  
(赤松正也 記)



## 電気通信学科 1948年(昭23)卒クラス会

たまには母校の近くでという永淵の意向をくみ早稲田リーガホテルで、今も忙しい家政大学理事長・元早稲田大学総長清水の都合がよい平成26年5月15日に、クラス会を開催と決定したが、その二人とも体調がよくないとの突然の欠席で結局出席者5人、それでも90才前後の集まりとしては良い方と、1年半ぶりの再会を祝しての乾杯となった。

話題はすぐに70年前 我等が青春の戦中戦後にタイムスリップ、学院時代の横須賀海軍工廠、大学時代の沼津海軍工廠での学徒勤労働員で、それぞれ空襲と機銃掃射にあった話から始まり、辛くて今まで言ってこなかったが、と口を開いた3月10日下町大空襲の生死を分けた悲惨な体験談までも加わり、2時間半は瞬く間に過ぎた。それだけに今日までの互いを喜び懐かしみ、「来年も元気でまた会おう」と言って散会しました。

(高橋 記)

下はホテル内での記念写真で、左から小川彬夫、染谷 博、新井俊一、大沢博二、高橋澄夫の出席者一同。



## 電気通信学科 1951年(昭26)卒クラス会

今年の同期会は2014年4月26日に小林幹事のお世話で晴海運河と高層ビルを眺めながらプレール・ロヴェエ豊洲（住宅型老人ホーム）の閑静なゲストルームで7名の出席者（斎伯、橋本、堀家、南、八幡、小林、谷池）で開かれ、小林幹事から当シニアレジデンスの紹介と平山先生の御近況を伺い、昼食を取りながら出席者からの現況報告に話が弾んだ。

今回の幹事を南、八幡の両名にお願いし、校歌をカラオケルームで皆と肩を組み久々“紺碧の空”も熱唱しました。

（記 幹事 谷池）



## 「十志会」電気通信学科 1952年(昭27)卒級会

昨年11月28日に東京新宿の「さがみ」で恒例の級会を開きました。参加者は14名で、卒業時には80名を数えた仲間も半数は鬼籍に入り、参加したのは、体調などの制約の少ない方のようなのでした。

会が進み杯を重ねるにつれて談論風発、往時の懐旧談・趣味の話(ダンス・コーラス・絵画・篆刻・写真・旅行など)・生活近況とくに健康問題など、時の経つのを忘れるほどでした。

十志会の名は卒業年に由来します。 $2 \times 7 = 14$ :じゅうし:十志と云うわけで、増田君の提唱によります。また、幹事は長年にわたり故大崎君が受け持っていました、その後は浅見君が引き継いでいます。

我々の世代は、技術革新の嵐の中で努力・研鑽の日々を過ごし高度成長を支えました。

その中で早稲田電気の実績は少なくないと自負しても良いと思います。

ともあれ、会は盛会に終わり、明年の再会を約して散会しました。

(EWE評議員 中山 記)



後列：神谷、小池、竹内、大倉、増田、森山、浅見、堀内、井上、野瀬  
前列：本間、植田、北川、中山

## 電気工学科 1953年（昭28）卒クラス会だより

卒業以来毎年 欠かさずクラス会を開催、昨年は60周年（還暦）で、今年は新たに古稀に向けての第一歩だ。出席可能性のない人・案内を辞退した人などを毎年見直し・除いて形式的な会員を名のみは名簿掲載、“現役”会員24名にクラス会の案内を送った。出席13名・欠席11名となり効率的運用が出来た。

平成26年10月27日 昨年と同じ 銀座・大志満に集い懐旧談義を楽しんだ。

各人の毎日の生活ぶりを中心にお話を伺う形で、まだ現役の人も、スポーツに現役並みの毎日を元気に過ごす人いるが、大部分は趣味を持ったり、何らかの病気と共に過ごしている。質問やら情報交換など時間も忘れるくらいであった。お店も好意的な計らいで、時間催促などなかった。

最後には恒例の校歌の斉唱、正規より早くしたテンポのカセットの音声に合わせ1・3番歌った、今年は昨年の早すぎるテンポをやや遅くした。

尚出席者は奇しくも一昨年も昨年も13名と同じで、池田・大野・金子・菊池・清水・田野倉・富田・中田・松井・山田（益）・[以下幹事] 国富・澤田・島田であった。

テニスの宮城君が今回米国向出発日と毎回何らかの都合と重なって欠席は残念だ。

（投稿者：島田 好恵）



2014-10-27 早大（電工）28年卒クラス会 銀座大志満

## 電気工学科 1958年(昭33)卒 33WE燦々会 花見の会

我々同級生は、毎年11月の第3木曜日ボジョレー・ヌーボ―解禁の日に燦々会総会を開催しているが、春4月には「花見の会」と称して上野公園の「韻松亭」で、東京近辺に居住する連中が集って昼食会を催している。

今年は殆どが数え、満年齢で日本人男性の平均寿命80歳、傘寿を迎えることでもあり、「傘寿の花見の会」を開催した。

4月2日満開の桜、穏やかな好天、絶好の花見日和に恵まれ、安藤幹事の手配よろしく出席者は22名、竹内兄の名司会のもとまだ現役のサンデン(株)会長で早大評議員の牛久保兄、理工学部名誉教授秋月兄、80歳で弓道四段を取得した



谷越兄からの元気一杯の挨拶、そして加藤兄のスポーツ談義等々あり、大ガラスの外に広がる満開の桜を眺めながら大いに飲み語らい、お互いの長寿と健康を祝い、春の昼食の楽しい一時を過ごした。

まだまだ皆元気で2020年の東京オリンピックには是非元気で応援に行きたい、いやいや次は「米寿の花見の会」を盛大にやろうではないかと、皆意気軒昂で尽きせぬ話に花が咲いたが、渡辺兄が威勢よく一本締めで締めお開きにした。

出席者：秋月、安藤、牛久保、内田、加藤、上川、鮫島、柴田、竹内、谷越、  
寺井、富田、中村、野口、八田、本多、村瀬、村山、森川、吉田、淀川、  
渡辺義

(野口尚宏 記、写真 本多真)



## 電気工学科 1962年 (昭37) 卒クラス会

2014年10月26日（日）大隈会館にて1962年電気工学科卒の同窓会開催。

喜寿を迎えています元氣盛んな23名が参加、いまだに現役で会社経営に携わり、またコンサルタントとして諸技術分野に貢献、あるいは地域社会の活性化に尽力など生き生きとした面々が、思い出話も含め、これからの科学技術のあり方など活発な意見交換を行いました。入社以来打ち込んだ宇宙工学の成果がいま後輩たちの手によって見事に気象衛星として打ち上げられた、セラミックスの応用分野が予想外に広がった、100万ボルトの電力設備が海外で完成、などあらためて電気工学の幅広さ、奥行きを認識させる経験談が語られたとえ現役を退いても、つねに新技術との接点を持ち、技術の進歩とともに前をむいて行こう、そして米寿を迎えるあたりの2027年、皆でリニア新幹線に乗ってから天国に行こう、ということで高らかに母校の名をばたたえ散会。

幹事：尾崎 肇、中村 真和、松本 勇、吉崎 政宣、山口 静男、木村 昇一（記）



## 学生支援基金報告

### ものづくりサークル WITSの今年度活動について

基幹理工学部 情報理工学科 3年

浅野 秀平

私たちWITSは、早稲田の理工に拠点を置くものづくりサークルです。設立してまだ一年ですが、たくさんの方々からご支援を頂きながら二足歩行ロボットや時計といったメカトロニクスから刺繍や判子といったデザインまで、多岐にわたる創作活動を行っています。活動人数は22名で、理工キャンパス内にある「WASEDAものづくり工房」を拠点に、学生であれば自由に使えるレーザー加工機や3Dプリンターといった機械を使ってものづくりをしています。



また大会では、ドイツのものづくりコンテスト「Xplore2015」に洋上風力発電機の姿勢制御をテーマとして初参加し、最終選考を通過して春にドイツで成果発表を行う予定です。波の高い外洋で風車が倒れないよう、機械的にバランスを取ろうとする試みです。

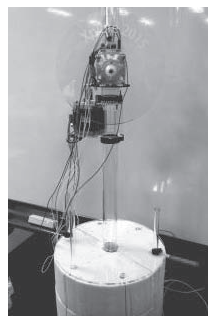
その他、8月に学内の子供向け実験企画「ユニラブ」



ユニラブの風景

にも参加し、子供たちへ向けて電気を使った簡単な実験を行ったほか、

ものづくり工房と協力して学内へ向けてものづくりワークショップを開催しました。来年度も継続して、ものづくりの楽しさを学内外に広める活動を並行して行っていきたいと考えています。



風車のモデル

## 先輩訪問

### NTTドコモを訪ねて

情報通信学科 甲藤・前原研究室



2014年12月4日にNTTドコモを訪問させていただき、活躍されている先輩の阿佐美様、中村様、中嶋様、西田様から貴重なお話を伺ってきました。本訪問会では、「Future Stationの見学」および「早稲田大学の先輩方との意見交換」をさせて頂き、これらは、双方において非常に有意義な経験となりました。ここに、その内容について紹介させていただきます。

まずは、Future Stationでの見学内容についてです。Future Stationとは、NTTドコモの企業ビジョンを紹介するためのショールームであり、NTTドコモが目指す未来のビジョンを視覚的かつ直感的にわかりやすく体験させていただけるスペースです。本訪問会では、シアタールームでの映像の閲覧、近未来の実現に向けて開発が進められている技術の体験などが行われました。

シアタールームでは、10年先の未来においてドコモが実現しようとしているビジョンを紹介した映像を拝見しました。具体的には、コンタクトレンズ型ディスプレイおよび、ペンダント型カメラにより、あたかも人や物が目の前にあるかのように通信を行うことが可能な未来、体温や血圧などの情報を感知しその人の健康状態に適した食事を自動で提供するサービスなどが示されていました。また、近未来の技術として、「メガネ型端末」を体験させて頂きました。目線の位置にあるカメラで人を映すだけで、自動的に顔を認識し、その人の名前や所属といった個人情報を画面上に表示することができるというものです。本端末を用いるこ

とにより、顔や名前を思い出すことができない状況下でも、瞬時にその人の情報を得ることができるということが述べられていました。以上のように、NTTドコモは、通信分野だけでなく、医療分野をはじめとした他分野においてもサービスを提供することによりお客様に安心・安全かつ快適なスマートライフを実現することを目標として掲げているということを特に強調されていました。

続いて、早稲田大学の先輩方との意見交換会についてです。お忙しい中、阿佐美様、中村様、中嶋様、西田様の4名の先輩方から貴重なお時間を頂き、阿佐美様、中村様を中心にお話を頂きました。

まずは、阿佐美様より「技術とサービスとユーザの相互関係の重要性」についてのお話を頂きました。サービス面と技術面の双方の開発経験から学んだこととして、「人間が求めるサービスは本能に基づく部分が大きい時代が変わってもあまり変わることはないが、それを実現する技術は時代の変遷とともに大きく変わる」ということを強調されていました。またこれを踏まえ、技術者は常に最新技術動向を追っていかねばならないし、技術だけでなく、その技術が支えるサービスや、サービスとユーザを結ぶインターフェースも意識しておくべきであるとおっしゃっていました。さらに、中村様より「移动通信の立ち位置の変化」についてのお話を頂きました。現在、移动通信は【繋がることはあたりまえ】になってきており、移动通信に求められることは繋がりから、その繋がりを活かしたサービスへと変化しており、新しい価値の創造が必要不可欠です。その付加価値を生み出すためには異文化の融合がテーマになり、いろいろな考えをもった人が集まり意見を交換することにより、稀に生まれるものこそが付加価値に繋がるとおっしゃっていました。

さらに、仕事において心がけていることについて伺いました。阿佐美様は、「直観を大切にしています。」と話されていました。もちろん自分が「こんなサービスがあればいいな」と感じていることに基づいて開発の提案をすると否定的な意見も飛んできますが、提案が明らかに間違ったものでなければ賛同してくれる人も必ずいます。賛同してくれる人々のためにも思って開発を行えば、最終的にはビジネスとして使えるものになっていたり、世の中に普及して当たり前ものになっていたりするのです。」と強調されていました。また、中村様は、「変化を受け入れることを大切にしています。同じ環境で慣れたことをやり続けていては、技術革新から遅れてしまいます。そのために常に現状に甘んじることなく、チャレンジングな姿勢を忘れずにしています。」とおっしゃっていました。

最後に、この訪問記を閉じるにあたって、いろいろと御世話くださったEWEの竹田様に御礼の言葉を述べるとともに、本訪問会の為に貴重な時間を割いて下さった阿佐美様、中村様、中嶋様、西田様に感謝致します。大変有り難うございました。

## EWE活性化委員会2014年度活動報告

8年目を迎えた活性化委員会の活動を報告します。

### 会員アドレスの収集

2015年1月末現在の登録アドレス数は約5300件です。

- ・EWEウェブニュースの配信

2014年1月～12月の1年間で24件のニュースを配信しました。

内容は、シンポジウム等の案内1件、EWE活動関連5件、大学関連3件、ヘッドラインニュース10件、随筆2件、その他3件でした。

### 活性化委員会企画主催講演会

日時：12月5日（金）18：00～19：10

演題：2020年東京オリンピック

スーパーハイビジョンへの道程

講師：NHK理事、技師長 浜田 泰人氏

（1980年電子通信学科）

参加人数：約40名



### EWE先輩と学生との交流会

例年通り12月の開催を予定し準備を行いました。12月1日の広報開始日が2015年3月1日にずれのため、前回より3ヶ月遅れの2015年3月24日（火）の開催を予定しております（参加予定企業団体数は、前回より3社増加し33社を予定）。

### 企業見学会

見学会の開催も検討しましたが、上記広報開始日の大幅なずれによりスケジュールの調整が困難であったため2015年度の開催を見送り次年度に開催することとしました。

### 活性化委員会メンバー

種市 健	1959電	下村尚久	1960通	高橋 弘	1960電	尾崎 肇	1962電
根岸 哲	1962通	三木博之	1962通	大附辰夫	1963通	田中良一	1963通
中村耕造	1963通	矢幡明樹	1964電	本多正己	1965電	小泉金之助	1965電
石川 宏	1965通	*吉野武彦	1966通	杉原鉄夫	1966通	穴澤健明	1967通
鳥居司郎	1980通						

\*委員長

（卒業年次順）

## EWE三月会2014年度活動報告

基本的には毎月第三月曜日に開催しているEWE三月会の2014年度は下記のように10回の講演会を開催しました。毎回、熱心な方々が参加して活発な質疑応答がありました。最も参加者が多かったのは、2月例会のロボット研究室の見学会で、関西の方も含め、31名の方が参加されました。

2015年度も各分野で活躍されている第一線の先生方をお招きしてお話を伺う予定です。また、見学会も計画したいと思います。毎回20名程度の少人数ですから、先生との質疑応答も和やかな雰囲気の中で自由闊達な議論が展開されます。まだ参加されることがないEWE会員の方も大歓迎です。まずは一度聴講して、体験して頂ければと思いますので、下記メール宛てのご連絡をお待ちしております。

- 1月例会：早稲田大学 先進理工学部電気・情報生命工学科 教授 渡邊 亮先生  
電気自動車の省エネルギーと乗員の温熱的快適性を両立する空調制御  
～車室内温熱環境のモデルを使った解析と制御系設計～
- 2月例会：早稲田大学グローバルロボットアカデミア ラボツアー  
藤江研究室、高西研究室、橋本研究室、小林研究室
- 3月例会：ナチュラル研究所 所長 石川 宏先生  
「成長の限界」を再び問う～アベノミックスは大丈夫か～
- 4月例会：早稲田大学基幹理工学部情報通信学科 教授 前原 文明先生  
無線通信・放送サービスを支える周波数資源の有効利用技術
- 5月例会：東邦大学医療センター大橋病院院長補佐 尾崎 重之先生  
大動脈弁疾患治療の最前線
- 6月例会：国際技術コンサルタント株式会社 代表取締役 山田 宰先生  
育成光線（ソフトセラミック）の効果について
- 7月例会：基幹理工学部情報通信学科 教授 佐藤 拓朗先生  
最近の情報通信システムの紹介～次世代移動通信、次世代インターネット、ビッグデータなどの最近の技術動向と新たなサービスの展開について～
- 9月例会：埼玉県立循環器・呼吸器病センター 名誉総長 新井 達夫先生  
心臓外科今昔～プラトン、アリストテレス、中世の暗黒時代1000年を支配したガレノスの pneuma 説、解剖学のルネッサンスから天皇陛下の心臓手術まで～
- 10月例会：工学院大学情報学部 教授 合志 清一先生  
高精細映像と超解像技術～低解像映像からの高解像度化はどこまで可能か～
- 11月例会：早稲田大学理工学術院国際教育センター 講師 劉 江 (Jiang Liu) 先生  
光無線通信の技術と応用



## 学生部会報告

### 研究室対抗ソフトボール大会に寄せて

2014年10月31日（金）、寒さがだんだんと押し寄せる秋晴れの日、毎年恒例のEWE主催のソフトボール大会が江戸川の河川敷にて行われました。今年のチーム数は昨年よりも2チーム増え、40チームものエントリーがあり、去年と同様に野球場を12面も貸し切る最大規模の大会となりました。朝早くの開始にも関わらず、それぞれのコートはたくさんの方の参加者でひしめき合っており、生徒同士だけでなく、教授と生徒の楽しい会話があちこちで見られ、ソフトボールを介した絶好の交流の機会となりました。

試合は午前9時から開始されました。日頃は研究に没頭している学生も、コートではのびのびと羽を伸ばし、真剣ながらも試合を楽しんでいる様子が伝わってきました。また試合のコート以外でも空いている場所を使って、キャッチボールをして楽しんでいるチームもちらほらと見られ、競技中は河川敷が賑やかな祭りが開催されているようでした。

昼間は弁当とお茶が配られ、あちらこちらで弁当を囲みながら昼食を取っている姿がありました。普段は研究室で昼食をとる学生が多いようです。しかし、今日ばかりは秋晴れの空の下、身体を動かした後に取った食事ですので、味も特別なものになったことと思います。

昼食をとり終えると、いよいよ決勝トーナメントが始まります。予選を勝ち上がってきた強豪たちがここでもしのぎを削ります。選手たちの表情には一層真剣さが見え、応援にも自然と力が入ってしまいます。白熱した試合の後は、笑いながら握手をしている光景が見られ、スポーツマンシップに則った、気持ちのよい試合が繰り返し広げられていました。その戦いを制し、最終的に勝ち残って優勝を果たしたのは、電子光の山本・斎藤研Aチームでした。準優勝を果たしたのは電生の若尾オప్పప్పீズでした。こうして、今年度のソフトボール大会は幕を閉じました。

最後に今年もつつがなく大会を運営できたことを非常に嬉しく思うと同時に、EWE委員として朝早くから準備をして下さった委員の皆様、また参加して下さいました教授陣、学生の皆様、事務局の中村様には深くお礼申し上げます。来年も素晴らしい大会になることを心より祈願致しております。

記：小澤 翔一（岡野研究室）



優勝：山本・斎藤研A（電子光）



準優勝：若尾オప్పప్పீズ（電生）

# 2014年度修士論文一覧

## <電気・情報生命専攻>

- 石山 敦士 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/ishiyama/>
- 荒川 一誠 無絶縁 REBCO 超電導パンケーキコイルの電源遮断時における過渡的電磁特性と熱的安定性に関する研究
- 有谷 友汰 REBCO マルチ高温超電導コイルシステムにおける遮蔽電流に関する研究
- 梅田 大貴 超電導マイクロトロン開発のためのコイル高機械強度化に関する研究
- 恩田 壮恭 ゲーム性を有するブレイン・マシン・インターフェース訓練システムによる脳活動の可塑的变化
- 齋藤 隼 REBCO 超電導コイルにおける遮蔽磁場の解析・評価とその低減策
- 佐藤 勇輔 高温超電導電力ケーブルの実用化に向けた過電流通電時の冷却特性に関する研究
- 白鳥 友規 安静状態を含めた3クラスのブレイン・マシン・インターフェースの開発
- 椿田 紘久 非負行列因子分解を用いた運動想起時脳波データの解析
- 中田恵理香 無絶縁及び部分絶縁 REBCO 超電導パンケーキコイルの通電特性に関する研究
- 南 克彦 無絶縁 REBCO 超電導パンケーキコイルの過電流通電特性に関する研究
- 井上 宏子 研究室 [http://www.eb.waseda.ac.jp/h\\_inoue/](http://www.eb.waseda.ac.jp/h_inoue/)
- 瀬川 新 ガレクチン1誘導性のシュワン様細胞移動メカニズム探索
- 中村俊一郎 ニーマンピック病C型誘導剤 U18666A における GABA の保護効果
- 長谷 勝徳 新規核酸分解システム RNautophagy/DNautophagy における基質核酸の選択性の解析
- 藤本沙也加 前駆脂肪細胞における脂質蓄積に対するナリングニンの効果
- 宮川 悠 6-ヒドロキシドーパミンによる凝集誘導
- 山本 雄大 三つ葉抽出物が RAW264.7 マクロファージ細胞に対して誘導するアポトーシスの研究
- 井上 真郷 研究室 [http://www.eb.waseda.ac.jp/m\\_inoue/](http://www.eb.waseda.ac.jp/m_inoue/)
- 大内 捷 潜在変数の重みを考慮したりサンプリングによる粒子フィルタを用いた飲食店の売上予測
- 大田垣 徹 自然画像全般に対する画像事前分布の優劣
- 北村 彩乃 重回帰モデルを用いた台風の進路予測
- ジョンリョウン 改良型 Total Variation を用いた Sparse-view X線 CT 画像再構成
- 高橋 晃幸 Graph Structured Program Evolution の改良手法に関する研究
- 田中 一生 相対的和音進行に基づく和音進行解析のための語彙フリー無限 Gram モデル
- 茶谷 晴利 Minimum Probability Flow を用いた制限付きボルツマンマシンの学習
- 原田 賢 高速撮像 MRI 画像における複数の画像事前分布の組み合わせ方の研究
- 岩崎 秀雄 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/iwasaki/>
- 石井 理人 セルオートマトン上のフィラメント化自己駆動粒子モデルによる運動性糸状シアノバクテリア Gaitlerinema sp.のコロニーパターン解析
- 石川 智章 カルタヘナ法の成り立ちを参考にした合成生物学の運用ルールに関する検討
- 板木 大知 シアノバクテリアを用いた時計細胞における細胞間連絡機構の解析にむけて



- 東海林 祐 運動性シアノバクテリア *Pseudanabaena* sp. ILC545 の「彗星状コロニー」の形成ダイナミクス
- 藪谷 俊介 シアノバクテリアの明暗条件下での生長特性と概日システムの関係性
- 山本 宏輝 *Pseudanabaena* sp. ILC545 株が持つ全ゲノム DNA の塩基配列情報決定に向けて
- 岩本 伸一 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/iwamoto/>
- 安藤 翔 太陽光発電出力予測誤差を考慮したポテンシャルゲーム理論に基づく系統電圧制御
- 小見 拓也 過渡安定度におけるN波脱調予測に対するオンラインデータマイニング手法の適用
- 川浦 裕貴 太陽光発電大量導入時における移相変圧器を用いた電力潮流制御手法
- 栗田 悠 風力発電大量導入時の蓄電池制御ならびにフィードフォワード制御を考慮した負荷周波数制御に関する一考察
- 鈴木 淑子 太陽光発電大量導入時における系統電圧と発電機出力を考慮した運用計画手法
- 中村 薫 制御系を考慮した時間領域等面積法による危険事故スクリーニングに関する考察
- 藤原 彩 母線電流式を基にした複素数電力潮流計算に関する一考察
- 内田 健康 研究室 <http://www.uchi.elec.waseda.ac.jp/>
- 市川 磨理 時空間ネットワークを用いた小口需要家の最適電力運用計画
- 岡本 守正 スラブヤードにおけるクレーン物流システムの最適スケジューリング
- 笹尾 洋介 室温の相互干渉が生じる建物の空調システムに対する通信型モデル予測制御の適用
- 清水 優 プレーキベダル操作量を導入した SS-ARX モデルに基づく運転行動の認識および個人の識別
- 堤 雄飛 数理モデルにもとづく敗血症の治療戦略
- 平林 勇介 ネットワーク結合システムに対する仮想制御入力を用いた分散型制御
- 御山 恵未 LQエネルギー需要ネットワークにおける戦略的 Bidding のための最適化手法
- 大木 義路 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/ohki/>
- ヨウ ホウ Investigation on the Dielectric Properties of Various Polymers
- 井上 貴博 高温熱処理が YAlO<sub>3</sub> 単結晶の結晶構造及び THz 光吸収に与える影響
- 金子 昇司 イオン注入および熱処理がイットリア安定化ジルコニアの酸素空孔に与える影響
- 殿井 将史 多くの有機高分子に現れる蛍光の電子遷移過程
- 富手 直人 電子線照射およびガンマ線照射が高分子の誘電特性に与える影響
- 仁木 貴之 走査型プローブ顕微鏡による EPDM の表面劣化診断
- 傳 夢穎 導波モードセンサを利用したポータブル血液型判定法の開発
- 増崎 裕季 オレフィン系熱硬化性樹脂の高温における優れた誘電特性
- 岡野 俊行 研究室 [www.okano.sci.waseda.ac.jp](http://www.okano.sci.waseda.ac.jp)
- 古谷 俊樹 ヘム結合モチーフ変異体を用いたニワトリクリプトクロム 4 の機能解析
- 大塚 裕介 CRIP4 との相互作用におけるニワトリ CRY1 のヘム調節モチーフの役割
- 大西 将太 トラフグの雌雄と水圧応答候補遺伝子の発現量の関係
- 小澤 翔一 フグ培養細胞を用いたトラフグ CRY6 の解析
- 武野愛里沙 ゼブラフィッシュクリプトクロム1/2の発現・精製

- 千葉 絢美 出芽酵母発現系による zCRY4 タンパク質の発現・精製  
 戸田 りこ 月齢応答性の魚類ゴマアイゴにおける時計遺伝子の月齢依存的な発現解析  
 熨斗 洋星 温度依存的な抗原抗体反応メカニズムの解析とその応用  
 持永 聖良 ニワトリクリプトクロム 1 及び 2 の発現解析
- 加藤 勇 研究室** <http://www.waseda.jp/sem-profkatoken/index.html>  
 落合 剛志 低圧下でのマイクロ波放電による空間的アフターグロープラズマにおけるラジカル種の殺菌効果  
 塩澤 章裕 Si ナノクリスタルを内部に含む Si 系薄膜に対する窒素アニール処理の影響  
 高橋 拓矢 水素プラズマと TEOS ガスを用いて作製した Si ナノクリスタルを内部に含む a-Si 薄膜からのエレクトロルミネセンス  
 武田 英里 水素プラズマ CVD を用いた Si 系薄膜の熱酸化処理による PL 発光特性と組成分析  
 牧野 純平 TEOS ガスで作製した Si 系多層膜光導波路の消光比特性と発光特性  
 森川 賢一 マイクロ波プラズマの速度分布のシミュレーションの結果とマクスウェルボルツマンの速度分布の比較検討
- 胡桃坂 仁志 研究室** <http://www.eb.waseda.ac.jp/kurumizaka/>  
 加藤 大貴 ヒストンシャペロン NASP アイソフォーム、testicular NASP (tNASP) の生化学的解析  
 鯨井 智也 ヒストンバリエント H3.Y の生化学的及び構造生物学的解析  
 清水 美来 癌抑制遺伝子 p53 活性を増強する新規抗癌剤の創製  
 白山 一義 がん化の進行に関わるヒストンバリエント CENP-A と H3.3 を一分子ずつ含むヌクレオソームの構造生物学的解析および生化学的解析  
 鈴木 詩織 がん抑制遺伝子 p53 アイソフォームである  $\Delta$  1stTAD-p53 の標的遺伝子 PTP4A1 の機能解析  
 田口 裕之 スクレオソームを用いた熱耐性試験法の確立  
 寺本 睦美 減数分裂期組換えにおけるシナプトネマ複合体構成因子 SYCP3 の機能解析  
 林田 亮太 リンカーヒストン H1 バリエント H1T の相同組換えにおける機能解析
- 小林 正和 研究室** <http://www.eb.waseda.ac.jp/kobayashi/>  
 相場 貴之 サファイア c 面基板上 ZnTe 薄膜成長におけるバッファ層とドメイン構造の関係  
 井狩華奈美 Cu<sub>2</sub>ZnSnS<sub>4</sub> のナノ粒子化と Se 化に関する基礎研究  
 薄井 綾香 近接昇華法による Ag(Ga,Al)Te<sub>2</sub> 混晶の作製とバンドギャップの制御  
 田栗 光祐 ZnMgTe/ZnTe 導波路における光閉じ込め効果の改善が電気光学効果計測に与える影響  
 古井三誉子 赤色蛍光体ナノ粒子の蛍光特性改善と多層塗布膜の作製  
 山下聡太郎 サファイア a 面基板上 ZnTe 薄膜の成長メカニズムの解明
- 柴田 重信 研究室** <http://www.waseda.jp/sem-shibatasa/>  
 平尾美朱帆 セロビオオスの摂食時刻の違いによる代謝に及ぼす影響  
 安藤 翠 特定のアミノ酸の過不足による肝臓脂肪蓄積量への影響  
 池田 祐子 マウス末梢時計同調に対する、タンパク質や各種アミノ酸の効果  
 栗城 大輔 交感神経作動薬による末梢時計同調機構  
 桑原 麻里 ケルセチンの代謝に与える影響についての時間栄養学の検討  
 鋤柄 春奈 生薬や有機酸の概日時計への影響  
 田辺 花奈 概日時計が食物アレルギー症状の重症度に与える影響

- 中村 果愛      インスリン受容体基質 (IRS-2) の日内リズムと低タンパク質食が肝臓の糖・脂質代謝系に及ぼす影響
- 濱口雄太郎    恒明条件下のマウスの体重増加率と末梢概日時計の乱れの関係、及び摂食・運動の時刻制限が及ぼす効果
- 原口 敦嗣      高脂肪食の給餌時間および給餌時間帯によるマウスの肥満への影響
- 吉田 大将      マウス大腸上皮の細胞増殖リズムと摂食の関係性

### 宗田 孝之 研究室

- 篠原 哲大      成人爪甲色素線条の客観的経過観察に基づく鑑別法の開発
- 青木 俊之      非侵襲メラノーマ診断支援装置の開発：新鑑別指標の提案
- 金山 龍平      化粧品効能の客観的評価システム開発
- 西村 裕介      可視域レーザー励起による潜在指紋顕在化法
- 深澤佳奈子    室温 BEC 観察を目指す ZnO バルクマイクロキャビティー構造の探索：基礎的物理の検討
- 宮下 聡        神経前駆細胞の増殖停止を制御する分子機構の解明
- 村田 直弘      室温 BEC 観察を目指す ZnO バルクマイクロキャビティー構造の探索：数値シミュレーション
- 吉川 俊史      小児爪甲色素線条の客観的経過観察

### 高松 敦子 研究室

- <http://www.eb.waseda.ac.jp/takamatsu/Welcome.html>
- 海保 忠勝      副腎 Glucocorticoid による体内時計調節のシミュレーション
- 工藤 亮太      運動性シアノバクテリアの個体間およびコロニー間における相互作用の解析
- 西川 星也      細胞競合現象の数値モデルの構築と解析
- 西川 哲平      真正粘菌変形体における行動決定のメカニズムの解析
- 山口 高輝      真正粘菌変形体における管径成長ダイナミクスの環境依存性

### 林 泰弘 研究室

- <http://www.eb.waseda.ac.jp/hayashi/>
- 大久保直樹    行列分解に基づく機器別電力消費量分離技術に関する研究
- 喜久里浩之    低圧配電系統における電力変動予測に基づく動的電圧管理のための判別器を用いた制御パラメータ決定手法に関する研究
- 菊池 元太      Quantile Regression Forests を用いた太陽光発電出力の確率的短期予測
- 庄司 智昭      デマンドレスポンスへの自動対応を目的とした家電機器使用傾向学習型 HEMS 制御に関する研究
- 松本 侑        広域運用系統における風力発電出力変動補償を目的とした周波数調整用発電機の最適出力配分に関する研究
- 三好龍之介    住宅用 PCS の無効電力制御が配電系統電圧制御に与える影響の評価に関する研究
- 山本 祐也      PV 連系配電系統に多段設置された SVR を用いたパラメータ更新型電圧制御に関する研究

### 牧本 俊樹 研究室

- <http://www.eb.waseda.ac.jp/makimoto/>
- 勝倉 朋也      N- $\delta$  ドープ GaAs の発光特性に関する研究
- 坂元 翔        In-Plane Gate デバイスの電気的特性に関する研究
- 佐藤 知高      MEE 法により成長した GaAs(001)基板上 CuInSe<sub>2</sub>/CuGaSe<sub>2</sub> 超格子構造に関する研究
- 田巻 賢志      MOVPE 法で成長した N- $\delta$  ドープ GaAs/AlGaAs 単一量子井戸の発光特性に関する研究
- 豊田 康揮      MEE 法により成長した CuGaSe<sub>2</sub>/CuInSe<sub>2</sub> ヘテロ構造の結晶性に関する研究

村田 昇 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/murata/>  
 加藤 利幸 スパースコーディングを用いたマルチフレーム超解像  
 杉浦 太樹 Metric learning を用いたK近傍法によるエネルギー需要の複数時系列予測  
 中谷 圭佑 時間依存型 HMM を用いた時系列データの隠れ状態遷移予測  
 温品 貴大 ネットワークセキュリティのためのグラフ構造変化に基づくサイバー攻撃検知  
 樋口 翔 重み付き有向グラフを用いたグラフ構造推定法による脳内ネットワーク解析  
 望月 駿一 Bradley-Terry モデルにおけるアイテム選好度の分割統治型推定法

若尾 真治 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/wakao/>  
 青島 佑太 PV を用いたピークカットによる地域供給コスト削減手法の検討  
 井内 新也 クラスタ解析に基づく擬似住宅負荷プロファイル生成の検討  
 下山竜之介 基準点・基準線・基準面を併用した無限辺要素法による電気機器解析  
 董 格格 有限要素解析のメッシュモーフイングに関する基礎的研究  
 原 嘉彦 電力融通を踏まえた分散設置型 PV 併設グリーン基地局のエネルギーマネジメント手法開発  
 本間 隼人 翌日における太陽光発電量秒単位変動の予測技術に関する検討  
 松林 祐 磁気回路設計における解の多様性向上に関する基礎的検討  
 松雪 峻 太陽光発電電力を有効活用のための蓄電池制御手法に関する検討 —EV用蓄電池又は通信ビルバックアップ用蓄電池を対象として—

渡邊 亮 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/watanabe/>  
 久保 宏平 操舵反力トルクが操舵特性に与える影響のモデルに基づく解析  
 木幡 薫平 部分行路を用いた乗務員スケジュール作成  
 鈴木 雅人 制御リアブノフ関数に基づいた模型船舶の経路追従制御系設計  
 関口知絵実 魚眼カメラとカーテンセンサを用いたセンサフュージョンによる自動人物追跡  
 治田 啓輔 四輪自動車型ロボット RoboCar における  $H_\infty$  制御理論を用いたスリップ率制御  
 山本 大輝 熱間連続圧延における薄板仕上げ圧延機の板厚・張力・ルーパの  $H_\infty$  制御による集中型多変数制御

## <情報理工学専攻>

石川 博 研究室 <http://hi.cs.waseda.ac.jp/>  
 岡川明日翔 高階エネルギー最小化による 3D 医用画像の多臓器同時セグメンテーション  
 松本 慶太 視点ごとに異なる光源環境下の画像を用いた高精度な形状復元  
 ティー ソザイサル A Medical image segmentation method based on Conditional Random Fields with learned first-order potentials  
 Multi-organ Multi-Division 3D Image Medical Segmentation

ルソヴァッティモニー

入江 克 研究室 [http://www.f.waseda.jp/fbx3/index\\_ja.htm](http://www.f.waseda.jp/fbx3/index_ja.htm)  
 松村 賢臣 検出閾値を考慮した動物群れ運動の統計解析

上田 和紀 研究室 <http://www.ueda.info.waseda.ac.jp/>  
 青山 龍一 グラフ書換え系 LMNtal の実行時処理系 SLIM におけるグラフパターンマッチングの高速化  
 小沼 賢 LMNtal による状態空間探索へのヒューリスティック探索の導入

- 河野 文彦 リスト記法の導入と動的な制約集合導出によるハイブリッド制約言語 HydLa とその処理系のスケーラビリティ向上
- 小林 輝哉 ハイブリッド制約言語 HydLa 処理系のフェーズ間の差分情報を用いたインクリメンタルな実行
- 安田 竜 グラフ書換え系モデル検査における効率的な Partial Order Reduction 手法の実装と評価
- 吉田 健人 並列グラフ書換え系モデル検査器 SLIM の状態空間圧縮手法の実装とその評価

**算 捷彦 研究室**<http://www.kake.info.waseda.ac.jp/>

- 佐藤 昌樹 Facebookにおけるユーザ嗜好を考慮した広告発言判定手法の提案と評価
- 東海林 薫 日本語プログラミング言語に適したプロファイラの測定項目
- 杉山 涼 書誌情報を用いたグルーピングによるシリーズの発見手法の提案
- 高橋 英一 日本語プログラミング言語プロデルにおけるキーワードプログラミングの実装
- 中村 慎司 プログラミング授業支援システムWOJの開発
- 潘 為淵 運転技能教習のためのドライビングシミュレーションの開発

**笠原 博徳 研究室**<http://www.kasahara.cs.waseda.ac.jp>

- 岸本 耀平 自動並列化コンパイラによるキャッシュコヒーレンシ制御手法
- 後藤 隆志 Android/Linux ベースマルチコアを対象とした自動並列化による高速化及び複数アプリケーションに対するダイナミックスケジューリング手法
- 椎木 裕鵬 OSCAR コンパイラによる多重整合分割の設計・実装
- 橋本 章史 自動車エンジン吸気モデルの自動階層並列化と RH850 上でのメモリ配置

**甲藤 二郎 研究室**<http://www.katto.comm.waseda.ac.jp/>

- 加藤 凌 MATLAB を用いたソフトウェア音響通信プラットフォームの検討
- 神田 正則 キャプチャエフェクトを活用した高効率 HCCA の提案
- 木皿 寛人 CCN 環境における交通機関を利用したオフローディングシステムの検討
- 小西 秀典 移動環境における通信予測に関する検討
- 高田 涼生 グローバルモーション検出を用いた 8 K 動画の H.265/HEVC 符号化画質改善及び歪みを考慮した交通道路標識認識
- 野口 千尋 低出生体重児・新生児・乳児の身長推定の改善及び圧縮画像におけるノンリファレンス型画質改善の検討
- 武藤 健史 NDN 方式を活用した高品質なコンテンツ配信に向けた諸検討
- 若林 雅大 H.264/AVC 圧縮動画像の画質推定
- オウ ユ Congestion Control Design in Content Centric Network

**木村 啓二 研究室**<http://www.apal.cs.waseda.ac.jp>

- 鎌田 翔馬 ラスタライズ処理の並列化
- 菊地 洋輔 OSCAR自動並列化コンパイラ上での自動ベクトル化機能の設計と実装
- 佐藤 裕 医療用画像等高精細化処理の並列化に関する研究
- 鹿野谷幸輝 プロファイラフィードバックを用いた電力制御効率の最適化
- 品田 和樹 OSCAR自動並列化コンパイラを用いた車載ソフトウェアの並列化
- 平野 智大 コンパイラ制御によるマルチプラットフォーム環境での低消費電力化に関する研究
- 安田 貴 高解像度向け JPEGXR プログラムの並列化及びベクトル化
- 西出 皓 Modeling of Battery Usage of Sensors on Nexus7 Devices

- 後藤 滋樹 研究室 <http://www.goto.info.waseda.ac.jp/>  
 山田 亮 Support Vector Machine を用いた Android マルウェアの判別法  
 佐藤 亮 多段の解析による Android の悪性アプリ検出法  
 知識友紀江 WebRTC を用いてサーバ負荷に応じた切り替えを行うコンテンツ配信法  
 永井 信弘 HTTP ヘッダ解析による Web 感染型マルウェア検知法  
 藤田 幹人 CCN における複数の経路情報の活用法  
 古岡 達也 データネットのトラヒック分析に基づくスロースキャン検知法
- 小林 哲則 研究室 <http://www.pcl.cs.waseda.ac.jp/>  
 秋葉 巖 多人数会話をファシリテーションするロボットの開発 — 発話交換構造上の役割の推定—  
 石渡 憲弘 チャンネル指向インタフェース：遠隔支援を前提とした高齢者向け web 利用環境の開発  
 上田賢次郎 テンソル積を用いた次元拡張に基づく音声認識に関する研究  
 久保田雄一 MLP を用いた話者正準化に基づく音声認識の検討  
 相馬 英輔 実対話データに基づく発話継続/終了の韻律特徴の分析と認識
- 菅原 俊治 研究室 <http://www.isl.cs.waseda.ac.jp/>  
 風戸 雄太 DNS グラフ上の脅威確率伝搬による悪質ドメイン特定に関する研究  
 加藤 千紘 未知環境下でのマルチロボット巡回清掃における公平な領域の分割法に関する研究  
 坂本 裕紀 売買価格差と価格安定化を考慮した自律的蓄電池充放電制御手法の提案と評価  
 早野 真史 大規模な環境における効率的な資源割り当て手法の実現  
 平原 悠喜 ソーシャルネットワークサービスにおける協調の進化  
 チョウ セツ Efficient Channel Division and Information Sharing Using Reinforcement Learning for Cooperative Multi-agent Systems
- 高畑 文雄 研究室 <http://www.takahata.comm.waseda.ac.jp/>  
 豊田 修平 セクタセルと基地局間干渉を考慮した所要周波数帯幅の最小化と基地局の最適配置に関する研究  
 佐々木駿輔 Downlink MU-MIMO VP への Multiple Sphere Encoding の適用に関する研究  
 嶋田 敬介 レイトレース法を用いた交差点における車車間通信の電波伝搬特性に関する研究  
 高浦 裕司 フェージング環境下における LDPC 符号化 OFDM 伝送の特性改善に関する研究  
 平野 貴之 OFDM 伝送における補間方向を考慮した伝搬路推定法に関する研究  
 細谷 優介 GPS/準天頂衛星の複合測位システムにおける実証実験と測位精度に関する研究  
 宮崎 諒 MU-MIMO における各種誤り訂正符号の適用効果に関する研究
- 戸川 望 研究室 <http://www.togawa.cs.waseda.ac.jp/>  
 折原 照崇 基盤目形状を中心としたエリア略地図の自動生成に関する研究  
 片野 弘規 局所性を考慮したマルチ FPGA システム向けタスク割り当て手法に関する研究  
 塩 雅史 セレクタ論理を利用した補間演算器の実装と評価に関する研究  
 萩尾 勇太 製造時遅延ばらつきを考慮した規則性レジスタ分散型アーキテクチャ向け高位合成手法に関する研究  
 藤田 博 Bluetooth Beacon とセンサを用いた可視グラフに基づく屋内歩行者向けナビゲーションシステム

- 町田 理 屋内環境向けナビゲーションシステム VNS に関する研究—改良可視グラフによるモデル化と位置測位精度の向上、広域展開—
- 寺田晃太郎 RDR アーキテクチャを対象とした演算チェイニングを用いた高位合成に関する研究

#### 中島 達夫 研究室

- 野元 隆介 心拍数を用いた空調管理の最適化
- 相川 達也 エンターテインメントにおける、VR 技術を用いた没入感の創造
- 植田めぐみ ソーシャルグラフを用いた互酬行動の促進
- 鈴木 拓也 道案内アプリ使用時における歩きスマホ防止方法の提案
- 中島佳菜子 ユーザの意欲特性に基づくゲーム化度合いの提案
- 丸谷 佳久 CD-DNN-HMM を用いたストロークベース・ジェスチャー認識システム
- 三根 純 点運動情報の触覚伝達による文字コミュニケーションにおけるひらがな文字の認識率調査
- トウカイカン A Crowdsourcing Based Crime Mapping system

#### 深澤 良彰 研究室

- http://www.fuka.info.waseda.ac.jp/
- 薬師寺 真 ソーシャル機能と傾向分析によるオンデマンド授業の効率向上に関する研究
- 大原 圭木 Research on Applying Accessibility Guidelines to Web Applications
- 後藤 健太 Research on Scenario Creation by Generating Event Lists from Conceptual Models
- 小橋 孝紀 Research on Validating Security Design Patterns Application using Model Testing
- 高田 正樹 評価項目を変更・拡張可能なソフトウェア品質評価に関する研究
- 山崎 頌平 Comparative Study on Programmable Robots for Programming Educational Tools
- 楊 玉江 A Study on A Tool to Suggest Similar Program Element Modifications

#### 前原 文明 研究室

- http://www.waseda.jp/sem-maehara/
- 赤司 亮 端末移動環境下におけるランダムビームフォーミングを用いた NOMA に関する研究
- 小川 博人 移動通信におけるフラクショナル周波数繰り返しと非直交多元接続との融合性に関する研究
- 坂田 佳謙 MU-MIMO-OFDMA 伝送における不均一なトラフィック及び受信電力を考慮したりソース割り当てに関する研究
- 中村 瞬 理論ビット誤り率を用いた MIMO-OFDM シンボル間干渉抑圧に関する研究
- 仁木麻美子 消費電力の観点からみたネットワーク MIMO の有効性に関する研究
- 西村 慶 MU-MIMO THP を対象とした理論ビット誤り率に基づく Modulo 演算誤り抑圧法に関する研究

#### 松山 泰男 研究室

- http://www.wiz.cs.waseda.ac.jp/
- 二宮 章太 バイナリコードを用いた視点変化に頑健な局所特徴の抽出手法
- 丸山 翔平 KL ダイバージェンスを用いた代謝経路の関連遺伝子の推定
- 三浦 祥吾 事象関連脱同期を用いたニューロフィードバックトレーニングの効率化
- 宿里 玲 EEG と NIRS によるハイブリッドブレインコンピューターインターフェースを用いたメンタルタスクの検出

- 田中 仁喜 時系列解析とサポートベクタ回帰を用いたA型インフルエンザウィルスの抗原性の変異の予測
- 三澄 翔太 Twitterにおける書き込みを考慮したWEBサイト推薦システム  
ゴ キカ 全ペア探索を用いた次世代DNAシーケンシングデータのエラー訂正を行う手法の開発
- 山名 早人 研究室 <http://www.yama.info.waseda.ac.jp/>  
大野 亮仁 結合・非結合時における特異な特徴量を用いたGタンパク共役受容体と化学化合物の結合予測
- 奥野 峻弥 マイクロブログを対象とした100,000人レベルでの著者推定手法の提案  
鬼沢 和也 字配りの平均化による手書き文章の魅力的な文字配置方法  
高杉 亮介 国会議事録を用いた経済指標のナウキャストイング  
田中 正浩 学習データ選別とOkapi BM25を用いた母語推定の精度向上  
三上 拓也 医薬品の既知の副作用に着目した未知の副作用推定手法の提案  
シュウカンエイ Topics and Influential User Identification in Twitter using Twitter Lists  
ラク カブン Cross-Domain Investigations of User Evaluations
- 鷺崎 弘宣 研究室 <http://www.washi.cs.waseda.ac.jp>  
加藤 史也 Comparative Evaluation of Context-oriented Programming: Programming Paradigm for Modularizing Cross-cutting Concerns  
横断的関心事の分離に関するコンテキスト指向プログラミングの評価研究  
佐藤 靖治 Influence of Product Metrics on Source Code Changes and Defects in Future Organizations  
高澤 亮平 An Empirical Study of Open Source Software on Social Coding Site  
土屋 良介 Interactive Recovery of Requirements Traceability Links Using User Feedback and Call Relationships

## ＜電子光システム学専攻＞

- 宇高 勝之 研究室 <http://faculty.web.waseda.ac.jp/utaka/>  
川崎 祥子 InAlGaAs/InAlAs マッハツェンダ型光スイッチの低消費電力化の検討  
小林 久也 ポリマー3次元スイッチングインターコネクション回路の研究  
日高 直哉 導波路クレッチマン型SPRセンサの高感度・広測定範囲化の検討  
益本 佳奈 長周期グレーティング装荷SOAを用いた非線形縦型方向性結合器による全光3R再生素子の検討  
若松 果奈 ポリマーマッハツェンダー型2次元4×4光スイッチの低消費電力化の検討
- 木村 晋二 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-vlsi/>  
樺沢 皓介 メモリベース乗算回路のメモリ使用量および消費電力削減に関する研究  
篠原 寛行 低消費電力回路設計に向けた差分を用いた不揮発メモリの書き込み回数削減に関する研究
- 後藤 敏 研究室 <http://www.f.waseda.jp/goto/>  
佐藤 直哉 画像データベースを利用した自由視点映像におけるDepthMap生成手法
- 小山 泰正 研究室 <http://www.koyamalab.sci.waseda.ac.jp/>  
伊藤 岳 Al-Co-Cu合金における(B2→Al13Co4)構造変化の特徴



桑原 護 混晶系強誘電体  $(1-x)\text{Pb}(\text{Sc}1/2\text{Nb}1/2)\text{O}3-x\text{PbTiO}3$  における強誘電状態  
 櫻井 暁 マルチフェロイクス物質  $\text{YbMnO}3$  における強誘電分域構造の特徴  
 佐藤 兆樹 強相関電子系  $\text{Sr}1-x\text{Nd}x\text{MnO}3$  における C 型軌道整列状態の形成と緩和過程  
 花岡 武宏 強相関電子系  $\text{Sr}1-x\text{Ce}x\text{MnO}3$  における C 型軌道整列状態の特徴  
 山崎 直樹 Al-Co-Ni 合金における  $(\text{B}2 \rightarrow \text{B}2 + \text{Al}3\text{Ni}2 + \text{X})$  反応の結晶学的特徴

齊藤・山本研究室

<http://www.cms.sci.waseda.ac.jp>

影山 雄一 第一原理計算による La, Y 添加  $\text{NaTaO}3$  光触媒の電子状態解析  
 佐藤 健太 mBJ ポテンシャルを用いた  $\text{TiO}2$  の第一原理計算  
 高橋 新平 モンテカルロ法シミュレーションを用いた Ni 基超合金と耐熱コーティング界面のポイド発生予測  
 前田 晃伸 Fe-Cr 系合金の相分離挙動のシミュレーション解析

谷井 孝至 研究室

<http://www.tanii.nano.waseda.ac.jp/>

大久保幸太郎 ナノホールアレイを用いた 1 分子 FRET 計測系の構築  
 柿沼 瑛介 有機シラン単分子膜パターンを用いた細胞接着能差による正常細胞と癌細胞の選別  
 河野 翔 興奮性/抑制性神経細胞非標識判別のためのマイクロパターン基板の開発  
 田中 哲弘 免震建物の安全性評価のための層間変位センサシステムの開発  
 田村 崇人 低エネルギー集束イオンビーム照射によるダイヤモンド中の単一 SiV センタ作製に関する研究  
 福井 結子 決定論的ドーピング法実現に向けたシングルイオン注入法の精度改善技術及び評価技術の確立  
 森田 亮馬 層間変位計測に基づく建物の耐震性能評価における局所回転角の同時計測

松本 充司 研究室

<http://www.f.waseda.jp/mmatsumoto/index.html>

今村 侑輔 可視光LANにおけるCSMA/CAを用いたMAC層制御と同時双方向通信の一検討  
 ハオ ボヤン 可視光通信における色パルス偏移変調方式に関する研究  
 松本 雄輔 RoFSOにおける反射通信の特性評価

柳澤 政生 研究室

<http://www.yanagi.cs.waseda.ac.jp/>

今泉 正明 タイミングエラー耐性を持つ低消費電力回路設計に関する研究  
 櫛田 浩樹 サブスレッショルド電圧を用いるスーパーパイプライン乗算器の温度・プロセスばらつきを考慮した低消費エネルギー設計に関する研究  
 後藤 慶太 故障差分解析に耐性を持つLED暗号回路実装に関する研究  
 佐々木恵太 圧電素子による発電を対象とした自電源駆動型電圧変換回路に関する研究  
 新井 孝将 可変パイプラインを用いた低消費エネルギー回路設計に関する研究

山中 由也 研究室

<http://www.yamanakalab.sci.waseda.ac.jp/>

今井 良輔 熱浴と接触する系に対する非平衡 Thermo Field Dynamics と射影演算子法  
 對馬 護人 Thermo Field Dynamics 形式の線形応答理論  
 帆足 正樹 2 成分量子渦に対する摂動論を用いた動的不安定性の解析

山本 知之 研究室

<http://www.cms.sci.waseda.ac.jp>

大森 智裕 希薄磁性体  $\text{CeO}2:\text{Co}$  における  $\text{Co}$  の局所環境解析  
 深谷 隼 蛍光体  $\text{CaZrO}3:\text{Tb},\text{Mg}$  における添加元素の局所環境解析

真里谷 毅 遷移金属添加 BaTiO<sub>3</sub> における構造相転移挙動  
 目黒 和音 Eu 添加 Sr<sub>2</sub>SnO<sub>4</sub> のフォトクロミック特性  
 森 健太郎 X線吸収端近傍微細構造による CaTiO<sub>3</sub> における Mn の固溶サイトの評  
 若尾周一郎 第一原理計算を用いた絶縁破壊電界推定法に関する検討

渡邊 孝信 研究室 <http://www.watanabe.nano.waseda.ac.jp/>

木谷 哲 分子シミュレーションによる Si 表面欠陥と Ni 原子の相互作用に関する研究

## ＜ナノ理工学専攻＞

川原田 洋 研究室 <http://www.kawarada-lab.com/>

坪井 秀俊 原子層堆積 (ALD) 法による Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> ゲート絶縁膜を用いた水素終端ダイヤモンド MOSFET の作製及び特性評価

小野 和子 「MBE 法による AlN/ダイヤモンドヘテロ構造の結晶性と電気特性評価」

古閑 三靖 ナノダイヤモンドを用いた P 型透明電極の作製

齊藤 達也 原子層堆積 (ALD) 法で形成した H<sub>2</sub>O 酸化 Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 膜の内部電荷の評価

渋谷 恵 SiC 上の CNT の表面および CNT/SiC 界面状態の分析 (仮)

袴田 知宏 水素および SiO<sub>2</sub> によるダイヤモンドデバイスのパッシベーションとその評価  
 明道 三穂 ダイヤモンドとカーボンチューブの表面修飾による機能デバイス

庄子 習一 研究室 <http://www.shoji.comm.waseda.ac.jp/>

伊藤 潤一 再生医療応用および化学合成を目的とした高機能マイクロ流体デバイスの開発  
 施 凱齡 MEMS 技術による固相抽出及び液体クロマトグラフィー統合マイクロチップ  
 瀧口 徹 エナジーハーベストを目的とした有機圧電材料および磁歪材料を用いた  
 MEMS 振動発電デバイス

津脇 美帆 マイクロ流体有機発光技術のフレキシブルディスプレイとポータブル蛍光  
 検出デバイスへの展開

渡邊 孝信 研究室 <http://www.watanabe.nano.waseda.ac.jp/>

板橋 貫人 飛翔昆虫型ロボットの羽ばたき運動制御と揚力発生メカニズムに関する研究  
 小杉山洋希 Si ナノワイヤ型ショットキー障壁トンネル FET の作製と電気特性に関する研究

鈴木 晃人 電子輸送シミュレーションによる MOSFET の統計的ばらつきに関する研究

橋口 誠広 high-k/SiO<sub>2</sub> 界面ダイポールが誘起する静電界に関する計算科学的研究

橋本修一郎 ナノワイヤ型 Ni シリサイド構造の電子デバイス応用に関する研究

武良光太郎 Ni イオン照射誘起欠陥の回復過程における点欠陥および Ni 原子の挙動に  
 関する研究

## ＜国際情報通信学専攻＞

朴 容震 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-parklab/>

小嶋 祐貴 位置情報の利用による Mobile-to-Mobile の通信のネットワークトラフィックの削減

穂田 知治 NDN におけるアクセス制御手法に関する研究

原田 翔 Named Data Networking におけるパケット統合・分割手法

三宅 洋平 CDN と従来ネットワークコストの比較

ビンセントメラー CAFes: Cryptocurrencies as Founding for e-Services

## ＜数学応用数理専攻＞

大石 進一 研究室

<http://www.oishi.info.waseda.ac.jp/>

駒見 弘市

2次補間関数の誤差評価について

小林 領

鞍点行列を係数に持つ連立一次方程式に対する精度保証付き数値計算法

平沼 格

Hypercircle 方程式による自己共役楕円型微分作用素の固有値評価

友染 孝博

三角行列の逆行列と事前誤差評価を用いた高速な連立一次方程式の精度保証付き数値計算法

鈴木 康裕

三角形における1次補間関数の誤差評価

柏木 雅英 研究室

<http://www.kashi.info.waseda.ac.jp/>

小宮山 義

Affine Arithmetic における最良乗算の実装

細谷 清志

最近点丸めのみを用いた方向付き丸めの浮動小数点演算エミュレート

渡辺 亮介

コンピュータ囲碁—UCT アルゴリズムの評価指標とその収束について—

## ＜表現工学専攻＞

及川 靖広 研究室

<http://www.acoust.ias.sci.waseda.ac.jp>

石原 寧人

定常雑音下における聴感上の残響時間に関する研究

榎本 祐太

音度計—共振協和計—

小川 智史

狭帯域包絡線に着目した非線形システムの評価

小坂 勇人

音を基準としたリアルタイム動画検索と同期再生

鳥飼 雄亮

歯を介した骨導に着目した音声取得

御子柴智子

近接4点法を用いた室内形状の推定

柳沼 啓太

時空間フィルタを用いたシュリーレン法による音場の可視化

## 卒業おめでとうございます &lt;学部&gt;

## &lt;電気・情報生命工学科&gt;

- 石山 敦士 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/ishiyama/>  
 村田 俊介 伊澤 俊 柏崎 裕司 勝俣 一輝 刀川 賢太  
 中園 浩平 日向野 将 安井 鉄郎 安田昌太郎  
 井上 宏子 研究室 [http://www.eb.waseda.ac.jp/h\\_inoue/](http://www.eb.waseda.ac.jp/h_inoue/)  
 平賀隆太郎 片山 裕貴 野川 雄気 三澤憲一郎 伊藤 真理  
 今濱 眞 金鞍 真紀 鄭 瑞甫  
 井上 真郷 研究室 [http://www.eb.waseda.ac.jp/m\\_inoue/](http://www.eb.waseda.ac.jp/m_inoue/)  
 宇山 慧佑 江上 正也 大田黒 健 笠原 勇布 草間 豪雄  
 古賀 溪太 園田 祥平 乗松 佑昌  
 岩崎 秀雄 研究室 <http://www.f.waseda.jp/hideo-iwasaki/>  
 沼田翔太郎 加藤 久貴 川崎 洸司 河本 尚大 菊地 智弘  
 小林 大晃 酒井 敦史 竹村 優麻 宮副 滉平  
 岩本 伸一 研究室 <http://www.pwrs.elec.waseda.ac.jp/>  
 大竹美貴子 石川 綾乃 市原 美樹 柿阪 博登 五味 知幸  
 貞川 智美 村川雄一朗 森屋 志政 山ノ内 翔  
 内田 健康 研究室 <http://www.uchi.elec.waseda.ac.jp/>  
 米田 賢史 明石 百佳 加藤有香子 門田 玲 小林 周平  
 坂田 健吾 佐藤 遼 津久井 勲 張 天翼  
 大木 義路 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/ohki/>  
 リ シュウテイ 飯川 翔太 池野 理沙 小高 大祐 黒田 康裕  
 杉山 勇輝 鈴木 優太 根木 愛里 花田 脩伍 宮本 真希  
 岡野 俊行 研究室 <http://www.okano.sci.waseda.ac.jp>  
 安保伸乃佑 有澤 雄大 大嶋 拓哉 兜森 椋 栗山顕太郎  
 小太刀佐和 酒井 一輝 渡部 幸和  
 加藤 勇 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-profkatoken/index.html>  
 井藤 翔太 大山 真美 亀山 晃平 迫田 純佳 中川 悠  
 七尾 洋介  
 胡桃坂 仁志 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/kurumizaka/>  
 歌川 英之 金子 翔馬 川端 文乃 熊谷 直裕 関根 慧  
 田中 大貴 野田真美子 謝 炎  
 小林 正和 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/kobayashi/>  
 梅澤 諒 小崎 峻 小平 寛之 小林 優太郎 酒井 明彦  
 高橋 宣文 橋本 勇輝

- 柴田 重信 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-shibatats/>  
 岡田 航 鎌形 真世 高津 雄太 田中 瑞穂 谷川 智哉  
 服部 雄太 山崎 まゆ 横田 彩 和田 美咲
- 宗田 孝之 研究室  
 小泉 美玖 尾島 友太 加藤 大貴 川端 政則 豊永 健太  
 濱野 翔子 朴木 達也 山本 一真
- 高松 敦子 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/takamatsu/Welcome.html>  
 池田 紳哉 鬼塚 俊輔 上杉 明李 宇都宮祥平 奥野 純平  
 河井 敦 佐藤 希香 佐藤 隆巧 吉次 なぎ
- 武田 京三郎 研究室  
 岩崎 良 神田 淳貴 岸 直人 竹内 一貴 田中 哲人  
 肥後 基之 山上 拓馬
- 林 泰弘 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/hayashi/>  
 池田 欧世 杉本 諒太 須藤 慧 高野 彰久 高橋 由佳  
 富森 悠 松本 直也 松本 眞子 森 皓平
- 牧本 俊樹 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/makimoto/>  
 秋山 慧 谷口 龍希 畑 泰希 山崎 隆弘 山根 陽美  
 山根 悠介
- 村田 昇 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/murata/>  
 石渡 太智 嶋田達之介 奈良寧々花 村上 祐磨 渡邊羽衣子  
 渡邊 隼人
- 若尾 真治 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/wakao/>  
 新井 拓馬 桑川 奈穂 桑原 宏幸 角田 高彬 廣野 数樹  
 星野玲央奈 丸山 裕也 谷内優一郎
- 渡邊 亮 研究室 <http://www.eb.waseda.ac.jp/watanabe/>  
 本多 和幸 小林 龍真 高橋 康太 玉田 渉 永井 孝典  
 藤江 篤史 堀内 秀祐 山口宗一朗

## <情報理工学科>

- 石川 博 研究室 <http://hi.cs.waseda.ac.jp/>  
 筑本 堯 深野 昂祐 増田 正博 松田 道明 三浦 慶大
- 入江 克 研究室 [http://www.f.waseda.jp/fbx3/index\\_ja.htm](http://www.f.waseda.jp/fbx3/index_ja.htm)  
 鈴木 豊大 稻田 賢
- 上田 和紀 研究室 <http://www.ueda.info.waseda.ac.jp/>  
 山田 遼 小久保 晃 吉元 佑介
- 筧 捷彦 研究室 <http://www.kake.info.waseda.ac.jp/index.html>  
 川本 太一 伊藤 浩章 新井 健汰 岩田 正志 酒井 優弥  
 橋本 孝文 和田 拓也

- 笠原 博徳 研究室 <http://www.kasahara.cs.waseda.ac.jp>  
五十公野克彦 桑島 昂平 立川 詢子 藤枝 美咲 丸岡 晃  
山本 康平
- 甲藤 二郎 研究室 <http://www.katto.comm.waseda.ac.jp>  
岩崎 遥香 黒川 沙代 竹中 幸子 原田臨太郎 村岡 眞伍  
安田龍一郎
- 亀山 渉 研究室 <http://www.km.comm.waseda.ac.jp/>  
黒田 将史 犬東 美咲 植草 里奈 江川 麻衣 亀田 卓志  
川内 雄生
- 木村 啓二 研究室 <http://www.apal.cs.waseda.ac.jp>  
小野口達也 式田 力也 細川 雄平 無州 祐也 横倉 広夢  
ユエンイーター プイビンドク
- 後藤 滋樹 研究室 <http://www.goto.info.waseda.ac.jp/>  
篠宮 一真 久保 佑介 佐藤 拓未 仲山 裕也 別府 柊也  
宮内 麻衣
- 小林 哲則 研究室 <http://www.pcl.cs.waseda.ac.jp/>  
神崎 卓丸 小林 翔平 斎藤 奨 福岡 維新 麦田 愛純
- 酒井 哲也 研究室 <http://sakailab.com/>  
飯島 聡美 片山 大地 門田見侑大 坂本 大将 出縄 弘人  
林 佑明
- 佐藤 拓朗 研究室 <http://www.sato.comm.waseda.ac.jp/>  
雨宮 慎 岡崎 圭吾 杉本 涼 鈴木 達也 チョウムショウ  
若菜 実農
- 嶋本 薫 研究室 <http://shimalab.sl.comm.waseda.ac.jp/>  
片岡 愛 稲田 輝 島田 聡士
- 菅原 俊治 研究室 <http://www.isl.cs.waseda.ac.jp/lab/>  
松田 光平 荒木 大輔 石川 直樹 伊藤 隆二 梅垣はるな  
大阪 健吾 川口竜太郎
- 高畑 文雄 研究室 <http://www.takahata.comm.waseda.ac.jp/>  
加藤 輝 佐藤 裕明 白井 佑典 永田 裕之
- 田中 良明 研究室 <http://www.tanaka.giti.waseda.ac.jp>  
鴻池 宗躍 坂口 友彬 東 一輝
- 戸川 望 研究室 <http://www.togawa.cs.waseda.ac.jp/>  
阿波 弘真 井川 昂輝 伊東 光希 北山 遼育 古城 辰朗  
島崎 健太 牧田 浩輔
- 中島 達夫 研究室  
石川 瑛理 池内 弘樹 石沢ふみ子 岡田 耕 小林 明弘  
鶴川 純一 山部 晃子 フェンウイテムメーカー テイ ライ

- 朴 容震 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-parklab/>  
 ゴタンクアン 高崎 康平
- 深澤 良彰 研究室 <http://www.fuka.info.waseda.ac.jp/>  
 今尾 祥子 阿部 晃佑 伊藤百合菜 片江 将希 田邊 萌香  
 鶴貝 康男 服部 真智子
- 前原 文明 研究室 <http://www.waseda.jp/sem-maehara/>  
 岡 真悟 中川 剛志 山口 隆裕
- 松山 泰男 研究室 <http://www.wiz.cs.waseda.ac.jp/>  
 白神 健瑠 長尾美紗子 深沢 瑛理 松本 正伸 渡辺 健人  
 川村 康介
- 森 達哉 研究室 <http://nsl.cs.waseda.ac.jp/>  
 伊佐 美咲 石井 悠太 タネルアリジャン 芳賀 夢久 原田 敏明  
 室田 豊 守屋 潤一
- 山名 早人 研究室 <http://www.yama.info.waseda.ac.jp/>  
 城山 友祐 石巻 優 石山 雄大 下岡 純也 篠原 正太  
 ゴル 二階堂浩行
- 鷺崎 弘宣 研究室 <http://www.washi.cs.waseda.ac.jp>  
 金谷 祥 青木 耀平 安藤 怜央 木戸 将貴 西川 和輝  
 松浦 由真 柳下 徹 野口 直寛
- 渡辺 裕 研究室 <http://www.ams.giti.waseda.ac.jp/>  
 石橋 延高 山本愛佑子 井手 和磨 宮地 諒平

## <電子光システム学科>

- 宇高 勝之 研究室 <http://faculty.web.waseda.ac.jp/utaka/>  
 浅川 奨 大野翔太郎 尾崎 太斎 木村 優一 ジョ イツロク  
 藤原 裕士 三橋 頼人
- 川原田 洋 研究室 <http://www.kawarada-lab.com/>  
 梅崎 望 林 佑哉 北林 祐哉 斎藤 俊輝 柴田 将暢  
 植村 卓朗 原 壮志 平野 優 松村 大輔
- 小山 泰正 研究室 <http://www.koyamalab.sci.waseda.ac.jp/>  
 田中 亮介 渡辺 大地 大槻 祐介 鈴木 里奈 中川 雅也  
 野元 将志 山形 弥里
- 庄子 習一 研究室 <http://www.shoji.comm.waseda.ac.jp>  
 鍋島 基海 金田 達志 鎌田 裕樹 小林 和博 小林 直史  
 謝 志敏 中西 完貴 野村 和哉
- 谷井 孝至 研究室 <http://www.tanii.nano.waseda.ac.jp/>  
 高田 知幸 和泉 聡志 竹内 祐子 長島 正幸 東又 格  
 藤城 翔偉 藤森 壮也 矢野 真麻

松本 充司 研究室 <http://www.f.waseda.jp/matsumoto/index.html>  
 大澤 快人 戸塚 健介  
 柳澤 政生 研究室 <http://www.yanagi.cs.waseda.ac.jp/>  
 青木 晃平 石塚 祐貴 泉澤 宏樹 岸本 耀 小山 亮平  
 笹原 樹 杉田 一馬 田島 咲季 樋口 耕平 藤本 信  
 山中 由也 研究室 <http://www.yamanakalab.sci.waseda.ac.jp/>  
 大谷 司 大南 武尊 北原 康貴 小山 輝 小山 貴士  
 鳥居 優作 新戸部裕隆 檜垣 亮佑 三浦 丈昇  
 山本 知之 研究室 <http://www.cms.sci.waseda.ac.jp>  
 川上 舜平 長田 豊 鎌田 暁久 川又 颯 寺尾 侑也  
 平田 誠 増田 晃一 村井 智哉 元木 啓介  
 渡邊 孝信 研究室 <http://www.watanabe.nano.waseda.ac.jp/>  
 麻田 修平 白田 稔宏 小川 雄己 小花 絃暉 功刀 遼太  
 小出 隆太 重松 直哉 徐 泰宇 白鳥 智大 堀 俊彦

## <応用数理学科>

大石 進一 研究室 <http://www.oishi.info.waseda.ac.jp/>  
 西川 和彦 程 思慧 徳永 翔平 浅尾 祐美 若山 馨太  
 中山 拓也  
 柏木 雅英 研究室 <http://www.kashi.info.waseda.ac.jp/>  
 渡辺 泰士 黒木 開 光山 拓哉 田邊 至希 中村 柁斗  
 増池 乾人 三上 和起 水田 健介

## <表現工学科>

及川 靖広 研究室 <http://www.acoust.ias.sci.waseda.ac.jp>  
 井上 貴之 木下友里花 小谷野雄史 東海林 要 杉山 真望  
 鈴木菜穂子 千葉麻莉子 中村 歩己 西巻 規子 持館 邦彦  
 山中 悠勢



## 2014年度博士号取得者

( ) 内は指導教員

### 《2014年度 電気・情報生命専攻》

- 王 明輝 (内田 健康) スイッチングプロトコルに従ったマルチエージェントシステムの二つの合意問題
- 町田 晋一 (胡桃坂仁志) 高次クロマチンにおける相同組換え反応機構の解析
- 有村 泰宏 (胡桃坂仁志) ヘキサソームおよびH2A.Bヌクレオソームの構造と機能に関する研究
- 渡邊 晋 (高松 敦子) 粘菌アルゴリズムを応用したネットワーク設計
- Le Khoa Dinh (林 泰弘) Coordinated Operation of Battery Energy Storage Systems and Load Ratio Control Transformers for a Photovoltaic-supplied Microgrids
- 松本 敦 (宇高 勝之) 1550nm帯多重積層量子ドット構造の超高速全光信号処理集積素子への応用に関する研究

### 《2014年度 情報理工専攻》

- 松山 洋一 (小林 哲則) Multiparty Conversation Facilitation Robots
- 坂本 静生 (甲藤 二郎) 視点依存の輝度変動に頑健なマルチベースラインステレオ法
- 阿部 晋矢 (戸川 望) Energy-efficient High-level Synthesis Algorithms for Floorplan-driven SoC Architectures
- 多和田雅師 (戸川 望) 組込みシステム設計のための正確かつ高速なキャッシュ構成シミュレーションに関する研究
- 坂本 瑞季 (中島 達夫) A Framework for Navigation Collective Human Behavior through Gameful Digital Rhetoric
- 清水 遼 (深澤 良彰) 多段階モデル駆動開発を用いた無線センサネットワークソフトウェア開発手法に関する研究
- 中山 誠 (笠原 博徳) 計算機クラスタおよびマルチコア計算機上での大規模データ処理の高速化に関する研究
- 胡 曜 (後藤 滋樹) Self-adaptive Routing Path Control in Information-Centric Networking
- 阿野 茂浩 (後藤 滋樹) 広域データ通信ネットワークにおける品質保証と差別化に関する研究
- 竹淵 翔矢 (前原 文明) A Study on Nonlinear Distortion Suppression Scheme Employing Transmit Power Control in OFDM Transmission
- 木村 淳一 (甲藤 二郎) 画像のエッジとサンプリング位置の位相差に着目した動きベクトル検出に関する研究
- 小倉 一峰 (甲藤 二郎) Research on improving quality fairness of network services

### 《2014年度 電子光システム学専攻》

- 古敷谷優介 (宇高 勝之) A Study on Long-Range High-Resolution Coherent Optical Frequency Domain Reflectometry Method with Applying Light-Source Phase-Noise Compensation  
光源位相雑音補償を適用した長距離高分解能コヒーレント光周波数領域反射測定法に関する研究

## 《2014年度 ナノ理工学専攻》

- 笠原 崇史 (庄子 習一) Multi-color microfluidic organic light-emitting devices toward next-generation display  
次世代ディスプレイに向けたマルチカラーマイクロ流体有機発光デバイスに関する研究
- 図師 智文 (渡邊 孝信) Computational Study on Phonon Dynamics and Thermal Transport in Low-Dimensional Silicon

## 《2014年度 数学応用数理専攻》

- 南畑 淳史 (大石 進一) Verification methods for systems of linear equations based on H-matrices  
連立一次方程式に対するH行列の性質を用いた精度保証付き数値計算法に関する研究

＜受賞・褒章＞ お知らせのあったものを掲載しています。(順不同)

## ◇2014年受賞

情報理工学科/情報理工・情報通信専攻 教授 後藤 滋樹	情報セキュリティ大学院大学 情報セキュリティ文化賞 2013
電気・情報生命工学科 柴田研究室 学部4年 佐々木裕之	時間生物フォーラム東京2014 最優秀賞
電気・情報生命工学科 林研究室 修士1年 喜久里浩之	電気学会 電力・エネルギー部門大会 優秀論文発表 A賞 2013
電気・情報生命専攻 小林正和研究室 修士2年 宇留野 彩、中須 大蔵	日本学術振興会光電相互変換第125委員会 奨励賞
電気・情報生命工学科 井上真郷研究室 学部4年 宇山 慧佑	文部科学省主催 第3回サイエンス・インカレ 独立行政法人 科学技術振興機構理事長賞
情報理工学専攻 戸川研究室 博士2年 阿部 晋矢	情報処理学会 山下記念研究賞 2013
情報理工学専攻 山名研究室 修士2年 奥谷 貴志、楽 嘉雯	電子情報通信学会 第6回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム 学生プレゼンテーション賞 2013
情報理工学科/情報理工・情報通信専攻 教授 笠原 博徳、木村 啓二	文部科学省 平成26年度文部科学大臣表彰 科学技術賞 (研究部門)
電子光システム学専攻 宇高研究室 修士2年 額綱 博岐	電子情報通信学会 フォトニックネットワーク研究会 PN若手研究賞
電気・情報生命専攻 若尾研究室 修士1年 山崎 朋秀	電気学会 東京支部 電気学術奨励賞
電気・情報生命専攻 大木研究室 学部4年 黒田 千愛	電気学会 電気学術女性活動奨励賞
電気・情報生命専攻 大木研究室 修士2年 楊 鵬 修士1年 冨手 直人	IEEE DEIS 日本支部 学生国際会議優秀論文発表
電気・情報生命専攻 大木研究室 修士1年 増崎 裕幸	IEEE DEIS 日本支部 国内会議優秀論文発表賞
情報生産システム研究科 後藤敏研究室 助教 周 大江	公益財団法人高柳健次郎財団 高柳健次郎研究奨励賞

電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士2年 会田 俊介、鈴木 圭介	電気学会 電力技術委員会 奨励賞
電子光システム学専攻 池永研究室 修士2年 鈴木 貴大	IARIA (International Academy, Research, and Industry Association) MMEDIA2014 Best Paper Award_2013
情報理工学専攻 甲藤研究室 博士2年 金井 謙治	電子情報通信学会 情報通信マネジメント研究会 英語セッション奨励賞2013
電気・情報生命専攻 石山研究室 修士1年 今市 洋平	電気学会 東京支部電気 学術奨励賞 2013
ナノ理工学専攻 庄子研究室 博士1年 岡田愛姫子	ICEP 2013 IEEE CPMT Japan Chapter Young Award
情報生産システム研究科 教授 池永 剛	The Research Institute of Signal Processing Japan Journal of Signal Processing Best Paper Award IARIA MMEDIA2014
電気・情報生命工学科/電気・情報生命専攻 教授 大木 義路 電源開発 佐々木英隆 J-Power Systems 片貝 昭史	第70回電気学術振興賞(進歩賞) 受賞
国際コース 大木研究室 修士2年 楊 鵬	電気学会誘電・絶縁材料技術委員会 ISEIM 2014 最優秀ポスター発表賞
情報理工学科/情報理工・情報通信専攻 教授 山名 早人	電子情報通信学会 電子情報通信学会論文賞
情報通信学科/情報理工・情報通信専攻 准教授 森 達哉	World Telecommunications Congress Council Best Paper Award in WTC 2014
情報理工・情報通信専攻 前原研究室 修士1年 氏原 圭亮	電子情報通信学会 無線通信システム研究会 「初めての研究会」優秀発表賞
情報理工・情報通信専攻 森研究室 修士1年 渡邊 卓弥	ACM SIGSAC BEST POSTER AWARD in ASIACCS 2014
電気・情報生命専攻 小林正和研究室 博士1年 中須 大蔵	第27回安藤博記念学術奨励賞
電気・情報生命専攻 柴田研究室 修士2年 池田 祐子、原口 敦嗣	Society for research on biological rhythms SRBR Trainee Merit Award
電気・情報生命専攻 若尾研究室 修士2年 本間 隼人	日本太陽エネルギー学会 奨励賞(学生部門)
電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士1年 大谷 崇人、小林淳之介	電気学会 電力・エネルギー部門/ YPC奨励賞
情報理工学専攻 中島研究室 博士2年 坂本 瑞季	日本デジタルゲーム学会 学生大会奨励賞
情報理工学専攻 山名研究室 修士2年 奥野 峻弥 情報理工・情報通信専攻 山名研究室 修士1年 林 佑磨	情報処理学会 データ ベースシステム研究会 学生奨励賞
国際情報通信研究科 佐藤研究室 博士2年 白 帆	ITU カレイドスコープ学術会議 若手奨励賞
電気・情報生命専攻 小林正和研究室 修士1年 風見 露乃	電気学会東京支部 第5回学生研究発表会 優秀発表賞
電気・情報生命専攻 大木研究室 修士1年 井筒 智之、針間 正幸	電気学会 基礎・材料・共通部門大会 若手研究者 ポスターセッション優秀賞
情報生産システム研究科 教授 後藤 敏	半導体理工学研究センター STARC 共同研究賞
情報理工学科/情報理工・情報通信専攻 准教授 酒井 哲也	ACM MobileHCI 2014 Honorable Mention 2014

電気・情報生命専攻 林研究室 博士3年 LE KHOA DINH 博士2年 芳澤 信哉 修士2年 庄司 智昭、山本 祐也、三好龍之介 修士1年 高橋 諒	The International conference on Electrical Engineering 2014, Best paper
ナノ理工学専攻 庄子研究室 博士2年 アジャヤンマノ	ICEP 2014 IEEE CPMT Japan Chapter Young Award
情報理工学科 山名研究室 学部3年 馬屋原 昂	U-22 プログラミングコンテスト 2014 経済産業大臣賞
電子光システム学専攻 谷井研究室 修士2年 河野 翔	The 7th International Symposium on Surface Science Young Awards (Travel Award)
電子光システム学専攻 渡邊孝信研究室 修士2年 木谷 哲	第75回応用物理学会秋季学術講演会 Poster Award
国際情報通信研究科 佐藤研究室 博士3年 ダワーサンプルバトトルガ	IEEE VTS (Vehicular Technology Society) 日本支部 学生奨励賞 2014
国際情報通信研究科 田中研究室 博士2年 フィリポス パラシス	電子情報通信学会 ネットワークシステム英語セッション奨励賞
電子光システム学科/電子光システム専攻 教授 庄子 晋一 電気・情報生命工学科/電気・情報生命専攻 教授 林 泰弘	早稲田大学リサーチアワード 大型研究プロジェクト推進
情報生産システム研究科 助教 周 大江	早稲田大学リサーチアワード 国際研究発信力
情報理工・情報通信専攻 菅原研究室 修士1年 杉山 歩未	合同エージェンツワークショップ優秀論文賞 シングルロングプレゼンテーション発表賞
表現工学専攻 及川研究室 修士1年 保田 速人	日本音響学会 学生優秀発表賞
表現工学専攻 及川研究室 修士2年 榎本 祐太	Acoustical Society of America Second Place co-winner of the International Student Challenge Problem in Acoustical Signal Processing 2014
情報理工学専攻 甲藤研究室 修士2年 野口 千尋	IEEE GCCE 2014 IEEE Japan Council Women In Engineering Best Paper Award
ナノ理工学専攻 庄子研究室 修士2年 津脇 美帆	電気学会 31回センサ・マイクロマシンと応用システムシンポジウム 奨励賞
情報理工・情報通信専攻 後藤滋樹研究室 修士1年 青木 一樹、池西 大起、小崎 頌太、志村 正樹、高橋 一基、武部 嵩礼 情報理工・情報通信専攻 森研究室 修士1年 孫 博、笹生 憲、渡邊 卓弥 情報理工学科 後藤滋樹研究室 学部4年 久保 佑介、佐藤 拓未、篠宮 一真、仲山 裕也 情報理工学科 森研究室 学部4年 芳賀 夢久、石井 悠太、原田 敏明	情報処理学会 MWS Cup 2014 芸術部門優勝 IEICE & IPSJ IWSEC Cup 2014 The Silver Prize
情報理工学科/情報理工・情報通信専攻 教授 田中 良明 情報理工・情報通信専攻 田中研究室 博士1年 山崎 託	CANDAR/ASON 2014 組織委員会 CANDAR/ASONワークショップ 最優秀論文賞
情報理工学科/情報理工・情報通信専攻 教授 中島達夫 助手 鳥田裕正	The 11th IEEE International Conference on. Autonomic and Trusted Computing 最優秀論文賞
情報理工学専攻 山名研究室 博士3年 浅井 洋樹	情報処理学会 コンピュータと教育研究会 学生奨励賞 2014

電気・情報生命専攻 林研究室 修士2年 三好龍之介	電気学会 電力技術・電力系統技術合同研究会 優秀論文発表賞 2014
電気・情報生命工学科 大木研究室 学部4年 小高 大祐、黒田 康裕	放電学会 放電学会優秀ポスター発表賞
情報理工学科/情報理工・情報通信専攻 准教授 鷺崎 弘直 情報理工学専攻 鷺崎研究室 博士2年 本田 澄	International Workshop on Empirical Software Engineering Best Poster Award (6th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice) (IWSEEP 2014)
情報理工学専攻 戸川研究室 博士3年 多和田雅師、阿部 晋矢 博士2年 川村 一志 博士1年 藤代 美佳	情報処理学会 アルゴリズムデザインコンテスト 特別賞
情報理工学専攻 戸川研究室 修士2年 萩尾 勇太 修士1年 藤原 晃一	情報処理学会 SLDM 優秀学生発表賞
情報理工学専攻 戸川研究室 博士3年 阿部 晋矢 修士1年 大屋 優	電子情報通信学会 情報処理学会 デザインガイアポスター賞優秀賞
電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士2年 栗田 悠	電力技術・電力系統技術合同研究会 優秀論文発表賞
電気・情報生命専攻 林研究室 博士2年 芳澤 信哉 電気・情報生命専攻 岩本研究室 修士1年 伊藤 孝将	IEEE PES Japan Chapter 学生優秀論文賞
情報理工学専攻 甲藤研究室 修士2年 高田 涼生	IEEE CE East Joint Japan Chapter ICCE Young Scientist Paper Award
電気・情報生命専攻 若尾研究室 修士1年 山崎 朋秀	電気学会 電力技術委員会 奨励賞
情報理工学科/情報理工・情報通信専攻 教授 深澤 良彰 准教授 鷺崎 弘直 情報理工学専攻 鷺崎研究室 博士2年 本田 澄 情報理工学専攻 深澤研究室 修士2年 山崎 頌平	Australian Computing Education Conference 2015 Best Student Paper
情報理工学科/情報理工・情報通信専攻 教授 深澤 良彰 情報理工学専攻 深澤研究室 修士2年 大原 圭木	International Conference On Information Computer Application 2015 Excellent Paper
電気・情報生命専攻 石山研究室 修士1年 持田 歩、辻 義明	電気学会 電力技術・超電導応用電力機器研究会 優秀論文発表賞 2014
電気・情報生命工学科 石山研究室 学部4年 安田 昌太郎	日本生体磁気学会大会 U35奨励賞 2014
電気・情報生命工学科 石山研究室 学部4年 安田 昌太郎	低温工学・超電導学会 優良発表賞 2014
情報理工・情報通信専攻 笠原研究室 助手・博士2年 梅田 弾	情報処理学会 コンピュータサイエンス領域奨励賞
情報理工・情報通信専攻 教授 笠原 博徳、木村 啓二 助手 見神 広紀	Featured Poster Award, COOL Chips XVII, IEEE Symposium on Low-Power and High-Speed Chips
電気・情報生命専攻 渡邊研究室 修士1年 高橋 大樹	第57回自動制御連合講演会 優秀発表賞
電気・情報生命専攻 林研究室 修士2年 喜久里 浩之	International Conference on Power Science and Engineering EXCELLENT ORAL PRESENTATION CERTIFICATE

## 2014年度就職状況

### 今年度の就職活動を振り返って

電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻 教授 牧本 俊樹



電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻におきましては、例年と同様に、就職担当教員3名が2014年度の実就職活動を支援しました。本学科／専攻では、毎年、就職担当教員3名中の1名の教員だけが入れ替わる方式を採用しており、各企業の人事関連の方々との情報交換を円滑に進めるように努めております。

本報告では、まず、2015年4月に就職および大学院へ進学する学部生の状況について紹介致します。2014年度の卒業を目指して卒業研究に取り組んだ学生は167名でした。このうち、学部生として就職する学生は33名、大学院修士課程に進学して引き続き研究を行う学生が107名でした。大学院進学者の大部分は、卒業研究で所属した研究室へ進学します。この傾向は、ここ数年で変化がありません。一方で、図1は、33名の学部卒業生に対する就職先の内訳を示しています。就職先はメーカーからメディアまで幅広く分布しているのがわかります。これは、本学科における研究分野が、多岐にわたっていることにも関連していると考えられます。

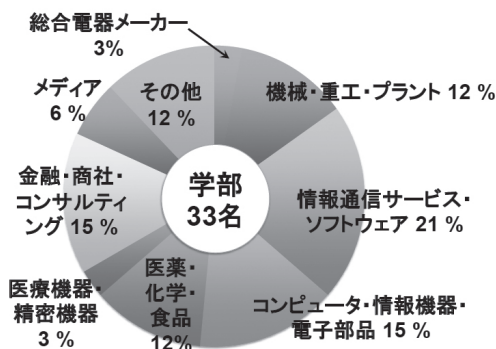


図1 学部卒業生の就職先

次に、大学院修士課程を卒業した学生の進路について紹介致します。昨年度の修士課程を卒業した学生数は80名強であり、例年の100名超に比べて大幅に減少していました。これは、リーマンショックから続く不況や2011年の震災等の影響のため、この学年での修士課程進学者が特異的に少なかったことに起因しています。これに対して、今年度に修士課程を卒業して就職する学生数は116名であり、例年並みの人数に回復しました。図2に今年度に修士課程を卒業する全学生（132名）の進路を示します。学部卒業生の就職先と同様に、幅広い業種の企業に就職している傾向がわかります。ただし、学部卒業生に比べて、総合電機メーカー、電力・エネルギー、医薬・化学・食品の割合が高くなっており、これも昨年度と同様な傾向を示しています。

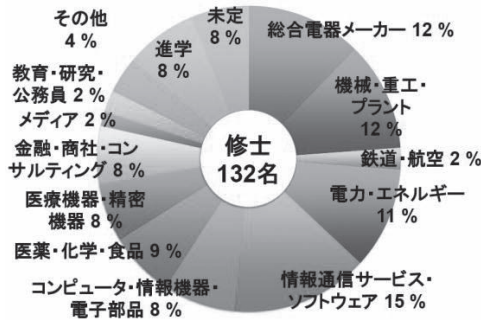


図2 修士課程を卒業した学生の進路先

さて、EWEに所属される多くの方々のお陰を持ちまして、本学科／本専攻には、毎年数多くの企業から学校推薦のご依頼を頂いております。本年度も250社を越える企業から、延べ500名以上の推薦枠を頂きました。また、EWEの活性化委員の方々には、EWEの先輩と学生の交流会を毎年のように開催して頂いており、学生の就職活動にとって貴重な機会を提供して頂いております。これらの活動に対しまして、この場をお借りしまして、御礼を申し上げます。

このような皆様のご支援のお蔭を持ちまして、本年度も多くの学生が本学科／専攻から社会へ巣立つことができました。彼らには、今後の社会での活躍だけでなく、EWEの会員として後輩への支援も期待しております。最後になりますが、本学科／専攻では、引き続き若い人財を社会に送り出す所存でございますので、今後とも皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# 2014年度における情報理工学専攻と情報理工学科に 所属する学生の就職活動状況に関する報告

情報理工学科／情報理工学専攻 就職指導担当 教授

高畑 文雄、菅原 俊治、石川 博



## 1. 取組み

3名の就職担当教員は、個々が責任をもって対応する企業を分担し、学生と企業の橋渡しを丁寧に行うという責務に真剣に取り組みました。毎年、所属学生のみがアクセス可能な就職のホームページを立ち上げています。そこには、就職関連の各種手続き、最新情報などに加えて、就職担当教員が面談した企業に関する詳細な情報、求人票などを掲載しております。面談を実施した企業数は61社であり、当該企業におけるセミナーや就職試験の内容と日程、求める人材などの情報が記載されております。求人票の総数は238件でした。また、本ホームページを介して、計3回の志望調査を実施し、学生の希望を踏まえて、大学推薦を希望する企業と密接な連携のもと、迅速な選考が可能となるように努めました。さらに、学生対応のデータベースを構築し、各学生からのデータ入力により就職活動状況を正確に把握するとともに、学生に対する適切な対応にも役立てました。



## 2. 進路状況

近年、海外からの多数の留学生が大学院と学部にも所属するようになり、就職担当教員が対応すべき学生が不明確になりつつあります。本件に関しては、後述します。ここでは、留学生を除いた学生の就職活動状況に関して、大学院生と学部生毎に報告いたします。

2015年1月末時点において、就職対象の大学院生数は98名、そのうち54名が推薦状を携えて内定を得た大学推薦の学生、39名が大学からの推薦を必要としない



自由応募にもとづき内定を得た学生、残りの5名は、就職担当教員が状況を把握できていない学生です。その他、博士課程進学、退学、休学、留年予定の学生がおります。学部生に関しては、2014年4月に研究室に配属された学生の内、66名が大学院の情報理工学専攻に進学します。就職関連では、大学推薦にもとづき内定を得た学生は20名、自由応募にもとづき内定を得た学生は37名です。その他、状況が不明な学生、他専攻、他大学に進学する学生、休学、留年予定の学生などが計21名おります。大学院生は大学推薦、学部生は自由応募となる可能性が高い傾向が今年度も現れました。学生が内定を得た企業に関して、5名以上の内定者を出した企業数は6社、そのうち5社は大学推薦に基づく採用を進めた企業でした。また、2～4名の内定者を出した企業数は11社、そのうち9社は大学推薦に基づく採用を進めた企業でした。1名の内定者で大学推薦を必要とした企業は、11社でした。このように、複数の内定者を出す企業の多くは、大学推薦に基づき選考を進める傾向があります。大学推薦は、就職担当教員の忍耐強い対応に加えて、学科連絡事務室のスタッフによる多大な協力無くして進めることはできませんが、学生と企業との意図が正確かつ迅速に伝わるなどの点から、大学、学生、企業にとって大きなメリットがあると判断されます。

### 3. 課題

大学のグローバル化が進み、近年、大学院と学部の両方に留学生が多数入学する傾向にあり、学生数は全体の1割に達しようとしております。当該学生は、英語による授業と研究指導により、大学院を修了、学部を卒業することができるため、必ずしも日本語の能力が堪能ではありません。また、大多数の学生が9月入学、9月卒業の学生生活を送ります。しかしながら、9月入社に加えて英語のエントリーシート、説明会、採用試験・面接を準備している企業はほとんどありません。ほとんどの場合、留学生本人または指導教員が就職先を見つけております。留学生は年々増加傾向にあり、就職対応がいずれ強く要求されることになると思われます。本件は、1学科1専攻では解決できない問題であり、大学全体または企業を巻き込んで早急に解決すべきものと考えます。また、2015年度は、選考時期が後倒しになることから、企業が試行錯誤の対応をとる可能性が強く、就職対象学生の不安が増大することが予想されます。このような状況に対して、就職担当教員には、臨機応変な対応が求められると思われます。

## 2014年度電子光システム学科・専攻、 ナノ理工学専攻（電子光システム系）の就職活動を振り返って

電子光システム学科／電子光システム学専攻 教授 柳澤 政生



2007年4月に理工が再編され、電子光システム学科が誕生しました。今年度は2009年に入学した第3期生が修士2年となり、約10名の学部生とともに就職活動を行いました。当学科・専攻として3回目の本格的な就職活動になります。当学科・専攻も多くの企業の方々に知っていただいたようで、多くの求人票が送られて来るようになりました。3年間で就職活動を行った学生は200名強なのですが、100社を超える会社に入社することになりました。これは、ほとんどの企業に1名の学生が入社していることを表しています。今まで求人票が送られて来なかった会社からも、卒業生が入社すると求人票が送られて来るようになり、求人数は年々、増え、良い循環が生じていると思います。具体的な会社名、入社者数を最後に示します。

今回の就職活動は、前回同様、混乱もなく、順調であったと思います。12月になると堰を切ったように、企業が活発に活動を始めたのは昨年度と同様でした。当学科・専攻では、2013年11月に学生対象の就職ガイダンスを開催し、就職活動に関する説明を行いました。ガイダンスでは、1. 就活は「お見合い」（片思いではダメ）、2. 就活は団体競技（情報の共有、文系志望でも仲間、推薦でも自由応募でも仲間）、3. 推薦の有無に拘らず、本当にしたい仕事を（10年後、20年後の自分をイメージする）、4. 就活は正直に、5. 面接の練習は必須、といったことを話していました。12月にはEWE活性化委員会が主催する「EWE先輩と学生交流会」に参加し、多くの先輩から企業情報をご提供いただいたのは非常に効果的であったと思います。2月に当学科・専攻用の就職情報web（通称、梅ちゃんシステム。梅崎君が後藤敏研究室の学生だったときにボランティアで今回、開発してくれたシステム）を立ち上げ、就職情報を掲示したり、学生の希望調査、集計に活用しました。このころから、学生と面談し始め、学科・専攻内の調整作業を行いました。

結果的には、先手先手の早期対応が功を奏し、学生は頑張り、当学科・専攻の就職活動は非常に良好に実施されたと考えています。このとき、学生の就職活動をご支援、ご協力いただいた連絡事務室の稲葉さん、山崎さん、就職情報webをメンテナンスしてくださった垣内さんに感謝します。今年、一番印象に残ったことは、ガイダンスのときに言った「就活は団体競技」ということを学生が理解してくれるようになったことです。たとえば、ある学生は自発的に、ある職種の就職活動に関する講座を開いてくれました。また、ある学生は自分が受けた会社の面接内容を含め、活動状況をレポートしてくれま

した。これらの情報は同様の志望をもつ学生間で共有することが出来ました。

就職する学生諸君は4月から各職場で、大学生活で苦勞して習得した知識、経験、能力を十分に發揮して、活躍されることを期待しています。就職活動を通じて、卒業生のありがたさがわかったことと思います。卒業・修了後はEWEの正会員として、EWEの活動に協力し、後輩を導くことは必須なことと認識してほしいと思います。

企業の皆様には、学生へのご対応、ならびに、私との濃密な情報交換や相談にご対応いただき感謝申し上げますとともに、引き続き、来年度もお付き合いの程、よろしくお願ひ申し上げます。

就職活動において、本学のOB / OGのサポートは非常に有効に機能していると実感しています。最後になりましたが、EWEの「企業見学会」、「EWE先輩と学生交流会」などの種々の活動に深く感謝申し上げます。

就職先	人数	就職先	人数	就職先	人数	就職先	人数
キヤノン	12	豊田自動織機	4	日立システムズ	3	カシオ計算機	2
ソニー	8	野村総合研究所	4	日立製作所	3	関西電力	2
富士通	8	富士重工業	4	フジクラ	3	シャープ	2
トヨタ自動車	6	三菱電機	4	富士フィルム	3	ソニーLSIデザイン	2
パナソニック	6	リコー	4	ローム	3	東京ガス	2
KDDI	5	JFEスチール	3	JR東海	2	マツダ	2
ソフトバンク	4	新日鉄住金	3	NEC	2	ワークスアプリケーションズ	2
NTT研究所	4	東北電力	3	NTT東日本	2	地方公務員(東京都)	2
NTTデータ	4	凸版印刷	3	オリンパス	2		

以下は1名ずつ入社した会社：

Acroquest Technology、CTC、IHI、IIJ、J-Payment、JX日 鋳 日 石 エ ネ ル ギ ー、NHK、NTTコミュニケーション、NTTドコモ、アクセンチュア、旭化成、アルファシステムズ、イビデン、イリソ電子工業、エスユーエス、キーエンス、キヤノン電子、ケーシーエス、ケンウッド、コナミ、コニカミノルタ、サムスン電子ジャパン、サンディスク、システムサポート、シスメックス、島津製作所、寿限無、スズキ、住友金属工業、住友電気工業、セイコーエプソン、総務省、ソリトンシステムズ、ダイキン工業、大日本印刷、大日本スクリーン製造、東芝、日揮、ニトリ、日本IBM、日本オクラロ、日本経済新聞、日本無線、パイオニア、はてな、パナソニックシステムネットワークス、ファーストヴィレッジ、プーズ・アンド・カンパニー、富士通ゼネラル、ベネッセ、ポルテージ、本田技研工業、みずほ証券、三井住友銀行、村田製作所、ヨコオ、リクルートHRマーケティング、ルネサス、ローデアンドシュワルツジャパン、三井海洋開発、三谷商事、三菱重工、三菱電機ビルテクノサービス、三菱東京UFJ銀行、三和工機、清水建設、帝人、電源開発、東レエンジニアリング、東芝プラントシステム、東芝三菱電機産業システム、日産、日本ヒューレット・パッカード、日本総合研究所、日本電産、日本発条、日立オートモティブシステムズ、日立国際電気

## 2014年度 就職先一覧

企業名	人数	企業名	人数
<b>【ア行】</b>		大林組	1
アーサー・D・リトル・ジャパン	1	オカダイインターナショナル	1
RBM	1	沖電気工業	1
IHI	1	沖縄県庁	1
ilc	1	小田原エンジニアリング	1
アヴァンザ	1	Otoms	1
アクセルマーク	1	オムロン	1
アクセンチュア	1	オリエンタルランド	1
アジレント・テクノロジー・インターナショナル	1	オリンパス	1
アズビル	2	オリンパスソフトウェアテクノロジー	1
アルプス技研	1	<b>【カ行】</b>	
アルペン	1	花王	1
イー・ギャランティ	1	カシオ計算機	1
イーソル	1	キヤノン	5
イツツ・コミュニケーションズ	1	九州電力	1
エクスウェア	1	キューピー	1
SAPジャパン	1	キリンホールディングス	1
SCSK	1	グーグル	1
エスユーエス	1	クラフト	1
NECエンジニアリング	1	クリーク・アンド・リバー社	1
nci	1	ぐるなび	1
NTTコミュニケーションズ	7	経済産業省	1
NTTコムウェア	5	KDDI	7
NTTデータ	12	神戸製鋼所	1
NTTデータ アイ	1	国際石油開発帝石	1
NTTデータセキスイシステムズ	1	コニカミノルタ	2
NTTドコモ	4	コムチュア	1
NTTファシリティーズ	1		

企業名	人数	企業名	人数
<b>【サ行】</b>			
ザイオソフト	1	ソリトンシステムズ	1
サイバーエージェント	1	ソルバック	1
サントリーホールディングス	1	損保ジャパン日本興亜	1
三和工機	1	<b>【タ行】</b>	
CRI・ミドルウェア	1	ダイキン工業	2
シーエーシー (CAC)	1	タイトー	1
ジープラ	1	大和証券	1
シーメンス・ジャパン	1	大和総研	1
Siemens China	1	大和総研グループ	1
JX日鉱日石エネルギー	1	WDBエウレカ	1
JFEスチール	2	WDB工学	1
時事通信社	1	地方公務員	1
静岡県教員	1	中部電力	2
シャープ	1	TIS	1
情報・システム研究機構 国立情報学研究所	1	DSB情報システム	1
新日鐵住金	4	帝人	1
新日鐵住金ソリューションズ	2	鉄道建設・運輸施設整備支援機構	1
シンプレクス	1	テラインターナショナル	1
Speee	1	テルモ	2
住友電気工業	1	テレビ朝日	3
セイコーエプソン	2	デロイトトーマツコンサルティング	1
積水化学工業 (住宅カンパニー)	1	電源開発	2
SMBC日興証券	1	デンソー	2
全日本空輸	1	電力中央研究所	2
総務省	1	東海テレビ放送	1
ソニー	4	東海旅客鉄道	2
ソネット	1	東京海上日動火災保険	1
ソフトバンク	1	東京ガス	3
ソフトバンクグループ通信3社	1	東京電力	3

企業名	人数	企業名	人数
東京都職員	1	日本経済新聞社	1
東芝	7	日本生命	1
東芝ソリューション	1	日本総合研究所	1
東芝テック	1	日本タタ・コンサルタンシーサービシズ	1
東芝三菱電機産業システム	2	日本電産	1
東芝メディカルシステムズ	2	日本ノーベル	2
東北電力株式会社	1	日本発条	1
東レ株式会社	1	日本マイクロソフト	1
特許庁	1	日本ユニシス	2
凸版印刷	4	任天堂株式会社	1
トヨタ自動車株式会社	6	野村證券	2
豊田自動織機	2	野村総合研究所	6
ドリコム	1		
ドワンゴ	3		
		<b>【ハ行】</b>	
		パイオニア	1
		パソナテック	1
		はてな	1
		パナソニック	4
		パナソニックシステムネットワークシステムソリューションズ ジャパンカンパニー	2
		東日本電信電話	6
		東日本旅客鉄道	2
		日立システムズ	2
		日立製作所	15
		日立ソリューションズ	1
		ファースト	1
		フジクラ	1
		富士重工業	3
		不二製油	1
		富士ゼロックス	1
		富士通	11
<b>【ナ行】</b>			
長瀬産業	1		
ニコン	1		
西川産業	1		
西日本電信電話	1		
ニチレイバイオサイエンス	1		
ニチレイロジグループ本社	1		
日産自動車	3		
日本テレビ放送網	2		
日本電気	6		
日本電信電話	4		
日本放送協会	8		
ニプロ	1		
日本アイ・ビー・エム	4		
日本アグファ・ゲバルト	1		

企業名	人数
富士通ソフトウェアテクノロジー	1
富士電機	1
プライスウォーターハウスコーパース	1
ブリジストン	1
古河電気工業	1
ブレインパッド	1
フロムスクラッチ	1
ベネッセコーポレーション	1
ホギメディカル	1
北陸電力	1
本田技研工業	1
<b>【マ行】</b>	
マイクロソフト デイベロップメント	1
マツダ	2
みずほ証券	1
みずほフィナンシャルグループ	1
三谷商事	1
三井化学	1
三井金属鉱業	2
三井情報	1
三井住友銀行	1
三菱重工業	3
三菱電機	10
三菱電機インフォメーションネットワーク	1
三菱電機ビルテクノサービス	1
三菱UFJインフォメーションテクノロジー	1

企業名	人数
武蔵エンジニアリング	1
Meiji Seika ファルマ	1
<b>【ヤ行】</b>	
ヤフー	4
ヤマハ	2
ゆうちょ銀行	1
雪印メグミルク	1
ユニプレス	1
ヨコオ	1
横河電機	1
横浜市役所	2
<b>【ラ行】</b>	
リードエグジビションジャパン	1
LIXIL	3
リクルートキャリア	1
リクルートホールディングス	3
リコー	2
リンク・マーケティング	1
ロートレ・アモン	1
ローム	1
ROBOTIS	1
<b>【ワ行】</b>	
ワークスアプリケーションズ	2

## 2014年度評議員委嘱状況

卒年／学部・学科		氏名	卒年／学部・学科		氏名
1947	専門部 工科電気通信科	黒澤 龍平	1959	第1理工学部 電気工学科	浅村 皓
1947	理工学部 電気通信学科	赤松 正也	1959	第1理工学部 電気通信学科	駒田 和民
1949	専門部 工科電気科	糸野 繁夫	1959	第2理工学部 電気工学科電気工学専修	中村 仁士
1949	専門部 工科電気通信科	進藤 純男	1960	第1理工学部 電気通信学科	下村 尚久
1950	理工学部 電気工学科	榎本 立巳	1961	第1理工学部 電気工学科	倉田 哲也
1951	理工学部 電気工学科	野原 和夫	1961	第1理工学部 電気通信学科	長谷川豊明
1951	理工学部 電気通信学科	南 敏	1962	第1理工学部 電気工学科	木村 昇一
1949	第1理工学部 電気工学科	大村長太郎	1962	第1理工学部 電気通信学科	竹村 裕夫
1951	第1理工学部 電気通信学科	小原 啓義	1963	第1理工学部 電気工学科	小松雄一郎
1952	第1理工学部 電気工学科	依田 文吉	1963	第1理工学部 電気通信学科	田中 良一
1952	第1理工学部 電気通信学科	中山 元泰	1964	第1理工学部 電気工学科	田中博一郎
1953	第1理工学部 電気通信学科	加藤 利雄	1964	第1理工学部 電気工学科	内藤 紀明
1953	第2理工学部 電気工学科	松元 崇	1964	第1理工学部 電気通信学科	瀧本 幸男
1954	第1理工学部 電気工学科	榎原 精一	1964	第2理工学部 電気工学科電気工学専修	福井 常忠
1954	第1理工学部 電気通信学科	田尻 利重	1965	第1理工学部 電気工学科	小泉金之助
1954	第2理工学部 電気工学科	入江 宣夫	1965	第1理工学部 電気通信学科	本間 勝
1955	第1理工学部 電気工学科	龍田 幹雄	1966	第1理工学部 電気工学科	小林 昭夫
1955	第1理工学部 電気通信学科	高村 真司	1966	第1理工学部 電気通信学科	杉原 鉄夫
1955	第2理工学部 電気工学科	宮崎 滋水	1967	第1理工学部 電気工学科	井上 哲郎
1956	第1理工学部 電気工学科	根木 誠	1967	第1理工学部 電気通信学科	大島 英男
1956	第1理工学部 電気通信学科	桑原 守二	1968	理工学部 電気工学科	横山 隆一
1956	第2理工学部 電気工学科	中野 光倫	1968	第1理工学部 電気通信学科	高垣 孝
1957	第1理工学部 電気工学科	後藤 昭方	1969	理工学部 電気工学科	橋本 栄二
1957	第1理工学部 電気通信学科	幕田 健	1969	理工学部 電気通信学科	佐藤 祐介
1957	第2理工学部 電気工学科	土屋 篤	1970	理工学部 電気工学科	佐藤 増雄
1957	工業高等学校 電気科	堀内 恒憲	1970	理工学部 電気通信学科	
1958	第1理工学部 電気工学科	野口 尚宏	1971	理工学部 電気工学科	草間 晴夫
1958	第1理工学部 電気通信学科	厚東 健彦	1971	理工学部 電気通信学科	町山 晃
1958	第2理工学部 電気工学科	深澤 眞一	1972	理工学部 電気工学科	木村 裕恒
1958	工業高等学校 電気科	中川 正則	1972	理工学部 電気通信学科	小川 豊



卒年／学部・学科		氏名
1973	理工学部 電気工学科	斎藤 涼夫
1973	理工学部 電気通信学科	武藤 信夫
1974	理工学部 電気工学科	小野 治
1974	理工学部 電気工学科	島田健夫三
1974	理工学部 電気通信学科	花澤 隆
1975	理工学部 電気工学科	佐藤 勝雄
1975	理工学部 電気通信学科	酒井 富夫
1976	理工学部 電気工学科	中谷 義昭
1976	理工学部 電子通信学科	宇高 勝之
1977	理工学部 電気工学科	乾 昭文
1977	理工学部 電子通信学科	
1978	理工学部 電気工学科	川勝 裕之
1978	理工学部 電子通信学科	北野 昌宏
1979	理工学部 電気工学科	森 啓之
1979	理工学部 電子通信学科	
1980	理工学部 電気工学科	笠原 博徳
1980	理工学部 電子通信学科	宇田川重雄
1980	理工学部 電子通信学科	滝川好比郎
1981	理工学部 電気工学科	長沢 可也
1981	理工学部 電子通信学科	森村 実
1982	理工学部 電気工学科	齋藤 則生
1982	理工学部 電子通信学科	清水 眞
1983	理工学部 電気工学科	小林 正和
1983	理工学部 電子通信学科	
1984	理工学部 電気工学科	宮部 潤
1984	理工学部 電子通信学科	小沼 和夫
1985	理工学部 電気工学科	菅野 和男
1985	理工学部 電気工学科	寺本 哲
1985	理工学部 電子通信学科	中村 寛
1986	理工学部 電気工学科	占部 博信
1986	理工学部 電子通信学科	

卒年／学部・学科		氏名
1986	大学院電気工学専攻	原 洋
1987	理工学部 電気工学科	丸山 和茂
1987	理工学部 電子通信学科	阿野 茂浩
1988	理工学部 電気工学科	工藤 真
1988	理工学部 電子通信学科	
1989	理工学部 電気工学科	林 泰弘
1989	理工学部 電子通信学科	
1990	理工学部 電気工学科	田中 貞嗣
1990	理工学部 電子通信学科	
1991	理工学部 電気工学科	西野 弘昭
1991	理工学部 電子通信学科	
1992	理工学部 電気工学科	江口 弘
1992	理工学部 電子通信学科	
1993	理工学部 電気工学科	太田 昌人
1993	理工学部 電子通信学科	井上 雅広
1994	理工学部 電気工学科	佐藤 環
1994	理工学部 電子通信学科	
1995	理工学部 電気工学科	豊島 成彦
1995	理工学部 電気工学科	春山 智
1995	理工学部 電子通信学科	山田 智紀
1995	理工学部 情報学科	西松 研
1996	理工学部 電気工学科	吉澤 正克
1996	理工学部 電子通信学科	千脇 隆
1996	理工学部 情報学科	村山 和宏
1997	理工学部 電気電子情報工学科	佐藤 和幸
1997	理工学部 電子通信学科	菊地 俊介
1997	理工学部 情報学科	寛 一彦
1998	理工学部 電気電子情報工学科	大井 祐子
1998	理工学部 電子・情報通信学科	茂垣 武文
1998	理工学部 情報学科	園田 智也
1999	理工学部 電気電子情報工学科	勝田 喬雄

卒年／学部・学科		氏名	卒年／学部・学科		氏名
1999	理工学部 電子・情報通信学科		2009	理工学部 コンピュータ・ネットワーク工学科	
1999	理工学部 情報学科	秋岡 明香	2010	理工学部 電気・情報生命工学科	佐藤 博亮
2000	理工学部 電気電子情報工学科	田中 毅	2010	理工学部 電気・情報生命工学科	蓬田 裕菜
2000	理工学部 電子・情報通信学科	宮澤 敏記	2010	大学院先進理工学部 電気・情報生命専攻	上條 秀一
2000	理工学部 情報学科	宮島 崇浩	2010	理工学部 コンピュータ・ネットワーク工学科	安川 要平
2001	理工学部 電気電子情報工学科	伊藤 俊秀	2011	先進理工学部 電気・情報生命工学科	難波 裕
2001	理工学部 電子・情報通信学科		2011	先進理工学部 電気・情報生命工学科	廣瀬 雄一
2001	理工学部 情報学科		2011	基幹理工学部 情報理工学科	石塚 祥
2002	理工学部 電気電子情報工学科	金子 大作	2011	基幹理工学部 電子光システム学科	藪 翔平
2002	理工学部 電子・情報通信学科		2012	先進理工学部 電気・情報生命工学科	高山 俊樹
2002	理工学部 情報学科	堀井 洋	2012	先進理工学部 電気・情報生命工学科	室伏 勇
2003	理工学部 電気電子情報工学科	布施 則一	2012	基幹理工学部 情報理工学科	赤坂 宏行
2003	理工学部 電子・情報通信学科		2012	基幹理工学部 電子光システム学科	松下明日香
2003	理工学部 情報学科	蛭田 智則	2013	先進理工学部 電気・情報生命工学科	相場 貴之
2004	理工学部 電気電子情報工学科	深澤 知憲	2013	先進理工学部 電気・情報生命工学科	薄井 綾香
2004	理工学部 電子・情報通信学科		2013	先進理工学部 電気・情報生命工学科	古井三誉子
2004	理工学部 情報学科	平手 勇宇	2013	基幹理工学部 情報理工学科	高橋 翔平
2005	理工学部 電気電子情報工学科	田中 秀郷	2013	基幹理工学部 電子光システム学科	施 凱齡
2005	理工学部 電気電子情報工学科	菊間 俊明	2013	基幹理工学部 電子光システム学科	橋口 誠広
2005	理工学部 電子・情報通信学科		2014	先進理工学部 電気・情報生命工学科	川和田達也
2005	理工学部 情報学科	木村 浩章	2014	先進理工学部 電気・情報生命工学科	高松 克明
2006	理工学部 電気電子情報工学科		2014	先進理工学部 電気・情報生命工学科	河へーみん
2006	理工学部 電子・情報通信学科		2014	基幹理工学部 情報理工学科	丸小 倫己
2006	理工学部 情報学科	鈴木 幹也	2014	基幹理工学部 電子光システム学科	高野 正範
2007	理工学部 電気・情報生命工学科	立石 拓也	2014	基幹理工学部 電子光システム学科	秋山 隼哉
2007	理工学部 コンピュータ・ネットワーク工学科	村松 裕介	2015	先進理工学部 電気・情報生命工学科	高橋 康太
2008	理工学部 電気・情報生命工学科	夏井 正嗣	2015	基幹理工学部 情報理工学科	無州 祐也
2008	理工学部 電気・情報生命工学科	彦坂 早紀	2015	基幹理工学部 電子光システム学科	和泉 聡志
2008	理工学部 コンピュータ・ネットワーク工学科	藍田 尚吾	2015	基幹理工学部 電子光システム学科	小出 隆太
2009	理工学部 電気・情報生命工学科	白土 聡			

\* 空欄の評議員を募集しています。評議員を交替された場合は事務局までお知らせください。

## 2014年度終身会費納入者一覧

武藤 正雄	1971	電通	上野谷拓也	1971	電通	高橋 昌	1951	電気
小西 陽夫	1962	電気	石和 昭彦	1963	電通	渡辺 雅人	2006	電気
白石 淳	1986	電気	相田 能之	1999	電気	岩淵 武雄	1945	専電
杉本 迪雄	1970	電気	田中 英智	1999	電気	伊藤 祐雄	1959	電気
宮崎 道雄	1971	電気	東 敏一	1969	電通	藤江 真也	1999	電気
木島 武	1964	電通	小島 和夫	1971	電気	片山 文雄	1995	電通
薮原日出男	1964	電気	湯浅 理之	1990	電気	平井 直幸	1976	電気
露木 茂	1949	専通	竹下 叶	1966	電気	大川 令	1969	電気
大井 次郎	1967	電通	近藤 健	1964	電通	小林 尚史	2010	C S
中津川 彰	1962	電気	土橋 仁志	1971	電気	染谷 繁樹	1976	電気
上野 義人	1957	電通	竹田 連	1974	電気	大川 志麻	2000	情報
小川 彬夫	1948	電通	小宮山正前	1975	電通	新井 貫之	1965	電気
鈴木 茂男	1960	電通	吉井 勝則	1985	電気	薮 光雄	1971	電通
八幡 一弘	1951	電通	松本 勲夫	1967	電気	岡田 恒明	1961	電気
伊藤 誠一	1948	専通	小田 泰	1969	電通	影山 隆	1956	電気
笥 一彦	1965	電気	酒井 清	1964	電気	桜木 俊彦	1955	電通
猪木 孝悦	1996	電通	田辺 晴雄	1953	電気	岡本 泰治	1965	電気
吉田 泰	1973	電気	川合 重美	1970	電気	亀山 涉	1985	電通
大野 慎介	1994	電通	鎌田 春雄	1953	電気	酒向 昭二	1962	電気
橋本 達也	1960	電気	石原 正博	1965	電通			

### ◇賛助会員

中村 彰	1948	専電	岸 豊	1976	電気	田嶋 光男	1949	専通
手塚 典雄	1951	電気	西川 泰由	1979	電通	高野 さよ	2013	電生
原 洋	1986	電修						

### ◇サポート費ご協力ありがとうございました。

露木 茂	1949	専通	白鳥 晴夫	1963	電通	染谷 繁樹	1976	電気
中野 嘉己	1959	電気	中津川 彰	1962	電気	藤井 英雄	1964	電気
小島 和夫	1971	電気	平井 直幸	1976	電気	五島 信明	1962	電専修
簡野 肇平	1975	電気	田所 長生	1953	電気	八木 驥	1960	電通
井上 三郎	1951	電通						

◇お悔やみ申し上げます。(2014年度にお知らせいただいた訃報を掲載しております)

お名前	卒年	学科	ご逝去日	お名前	卒年	学科	ご逝去日
内山 明彦	1958	電通	2014年3月7日	小林 和夫	1955	電通	2013年12月22日
田邊 愈	1959	電気	2012年10月2日	佐藤 守彦	1955	電通	2014年2月
高野 光雄	1952	電気	2014年3月10日	飯島 澄夫	1953	電通	2013年1月
大瀬喜之助	1951	電気	2013年5月25日	笠原 秀雄	1945	専電	2014年1月30日
岡部弥太郎	1952	電気	2013年9月	在原 正雄	1948	電気	2014年1月
高尾 満	1957	電気	2012年2月19日	福森 泰夫	1943	電気	2013年1月9日
春沢 光緒	1954	電気	2013年5月27日	吉岡 利隆	1973	電気	2014年1月9日
岐津 昭道	1956	電気	2011年9月3日	三好 勲	1965	電通	2009年
上遠野臣司	1969	電通	2014年2月27日	青木 茂	1958	電気	2014年3月15日
田中 経雄	1945	専電	2013年4月1日	池田 勝	1947	電通	2014年2月3日
佐藤 高章	1959	電専修	2011年	増子 辰彦	1949	専電	2013年7月
浅見 伴一	1957	電気	2012年10月9日	佐藤 忠臣	1958	電通	2013年2月14日
横山謙二郎	1954	電気	2014年3月19日	外山 寛夫	1948	専電	2013年
米田 和生	1957	電気	2013年2月	森松 孝輔	1954	電気	2013年6月
野本 喜重	1954	電通	2012年	富田 直樹	1988	電気	2013年
家入 勝吾	1948	電通	2011年2月11日	志村 代次	1951	電通	2013年7月17日
加藤 郁乎	1948	専通	2012年5月16日	野尻 亮	1955	電気	2014年1月22日
宮脇 洋二	1967	電気	2012年10月	望月 功	1962	通専修	2013年9月
小森 茂	1951	電気	2012年3月25日	西川 文雄	1961	通専修	2013年8月12日
小原 信二	1954	電気	2014年3月15日	松田 新司	1940	電気	2012年
高木謙次郎	1946	電気	2010年2月6日	林 忠夫	1952	電気	2013年9月28日
金田 良三	1960	電通	2013年6月	鈴木 俊次	1978	電気	2013年7月9日
楠美 宏	1948	専通	2014年2月	東條 勝久	1938	電気	2010年
石津 信雄	1959	電通	2013年11月9日	小林 敦	1990	電気	2011年10月

お名前	卒年	学科	ご逝去日	お名前	卒年	学科	ご逝去日
佐野 英雄	1966	電気	不明	野崎 雅司	1979	電気	2011年
相原 裕	1955	電気	2008年	福田 喜一	1964	電気	2014年2月18日
荒井 毅	1960	電通	2007年	原田 卓二	1954	電通	2013年
堀内 茂久	1945	電気	2013年10月	内藤 実	1942	電気	2009年2月
瀬尾 良三	1961	電通	2013年11月	村田 清孝	1988	電通	2011年11月10日
村上 欣也	1958	電気	2012年4月20日	青木 三郎	1955	電気	2013年12月30日
小暮 晶朗	1954	電通	2014年3月18日	益戸 利美	1949	専通	不明
川田 雄彦	1956	電通	2013年7月10日	菅 省治	1954	電気	2014年10月31日
玉田 春雄	1953	電気	2012年6月	塩見 之一	1950	専通	2013年3月21日
田辺 晴雄	1953	電気	2013年8月3日	嶋田 稔	1958	電気	2014年4月23日
一戸 豊信	1944	専電	2014年3月24日	荒木 興雄	1944	専電	2010年6月
榎本 脩	1948	電気	2012年9月9日	五十嵐 平	1952	電気	2012年4月2日
遠山 欽也	1952	電通	2008年11月	辻 順	1953	電通	2014年4月
亀ヶ谷武夫	1951	高通	2012年12月	宮坂 謙三	1951	電通	2013年11月15日
大島 弘義	1960	電気	2014年4月6日	佐竹 宏次	1985	電気	2014年7月26日
斉藤 英郎	1939	電気	2009年3月27日	大柴 行雄	1961	電通	2014年8月30日
藤井 国一	1960	電気	2014年4月29日	大河内騏一	1943	電気	2012年5月10日
神林 昇	1957	電気	2010年7月2日	田所 長生	1953	電気	2014年8月
久村 泰弘	1965	電気	2014年3月2日	中林 進	1943	高電	2010年1月16日
藤山 吉和	1948	電気	2012年12月	柳田 勲	1962	電気	2014年8月6日
坂口 敏郎	1952	電通	2013年11月6日	伊藤 雄一	1955	電気	2013年11月17日
山室 勲	1956	電気	2013年9月25日	大塚 潔	1969	電気	2015年2月3日
高岡 茂樹	1942	電気	2009年5月				

## 表紙デザイン

表紙は昨年12月5日にご講演いただいた日本放送協会 理事・技師長 浜田泰人氏の「2020年東京オリンピック～スーパーハイビジョンへの道程～」よりご提供いただきました。

放送技術とオリンピックの歴史を表しています。

---

---

### 編集後記

---

---

修士課程を修了し早稲田を離れてから、早いもので、もう20年近くになります。

学生時代はサークルにも入らず、授業や実験の他は、仲のよい数名の友人と過ごすくらいで、他大学出身の方々がイメージするような早稲田の活発なイメージからは縁遠い生活でした。

ところが、卒業後、就職（某総合電機メーカー）してから、早稲田の輪の中にドブプリと漬かることとなりました。最初に配属された部署には早稲田出身が多く、さらに稲門会で人脈が広がり、「早稲田の顔で仕事が進む」ことも少なくありませんでした。また、長年参加していた大学別のリクルータ活動では、個性的でありながらも団結力の強さも併せ持つ早稲田人の凄さに触れることができました。

蛇足ですが、数年前に結婚したときに、早稲田卒の元上司に無理矢理ご挨拶をお願いしてしまいました。快く応じてくれたのも、早稲田ならではの懐の深さだと勝手に思っています。EWE理事のお声掛けをいただいたのも、社内で早稲田人脈にドブプリ漬かっていたからかもしれません。

理事を引き受ける前は知らなかったEWEの活動を、年4回ほどの理事会を通じて知ることができましたが、実に様々な活動があり、その準備や実施には事務局の方々の労力は計り知れなく、今まで知らずに恩恵を受けていたかと思うと、頭が下がる思いで一杯です。

そんな活動の中で、「学生支援基金」というものが最近できました。

理事会の中で、学術関係に絞るのか、いやいやそんなケチなことを言わずに学生さんが有意義な活動したら広く認めよう、等々、活発な議論がありました。いくつか条件や決まりは作りましたが、まずやってみよう、想定してない案件が出てきたら都度検討しようということで始まりました。本号で報告のあったものづくりサークル「WITS」への基金適用も、EWE理事の方々の様々なご意見があった末に決まったものです。

今後も、学生さん達が積極的に学外活動に手を伸ばしていくことにEWEが寄与していくことで、巻頭言の竹田会長のお言葉にもある「早稲田の横糸」が、益々輝かしく、永遠に織りなされることと信じてやみません。

（編集担当理事：山岸俊浩）

**早稲田電気工学会会報**

第 56 号

2015年 3月24日 発行

発行所 〒169-8555

東京都新宿区大久保 3 - 4 - 1

早稲田大学西早稲田キャンパス内

早稲田電気工学会 事務局

電話：03-3203-4141 内線73-5221

03-3232-9768 (FAX兼用)

郵便振替口座 00140-4-23500

URL <http://www.ewe.or.jp/>

E-mail [jimukyoku@ewe.or.jp](mailto:jimukyoku@ewe.or.jp)

©早稲田電気工学会 2015